

Ⅲ 調査結果の分析

Ⅲ 調査結果の分析

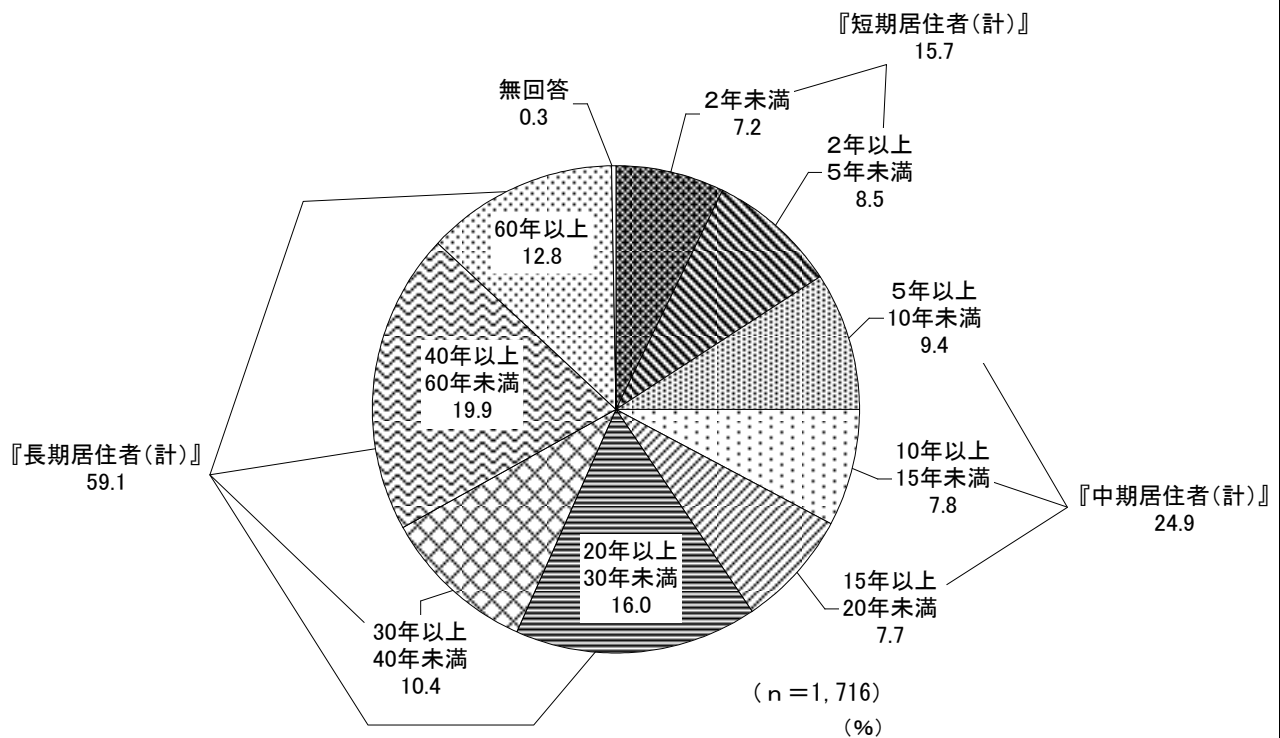
1. 定住性

(1) 居住年数

◇20年以上住んでいる方を表す『長期居住者（計）』は約6割

問1 あなたは、大田区にお住まいになって何年ですか。（○は1つだけ）

図1-1-1



※『長期居住者（計）』：居住年数20年以上

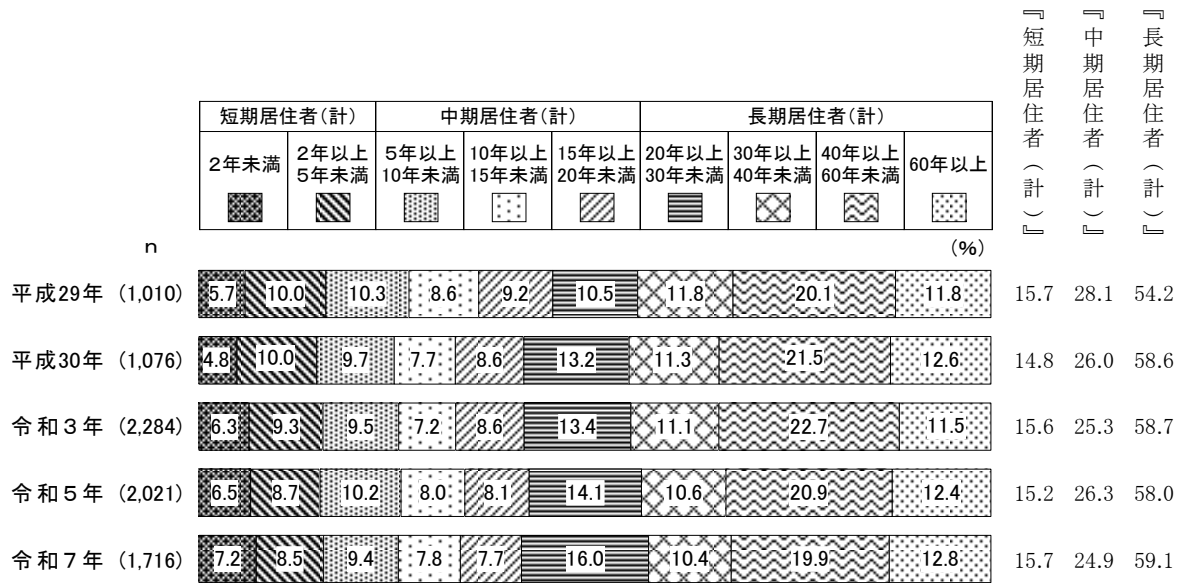
『中期居住者（計）』：居住年数5年以上20年未満

『短期居住者（計）』：居住年数5年未満

居住年数を聞いたところ、「40年以上60年未満」（19.9%）が2割で最も高く、これに「20年以上30年未満」（16.0%）、「30年以上40年未満」（10.4%）、「60年以上」（12.8%）を合わせた『長期居住者（計）（居住年数20年以上）』（59.1%）は約6割となっている。「5年以上10年未満」（9.4%）、「10年以上15年未満」（7.8%）、「15年以上20年未満」（7.7%）を合わせた『中期居住者（計）（居住年数5年以上20年未満）』（24.9%）は2割半ばで、「2年未満」（7.2%）と「2年以上5年未満」（8.5%）を合わせた『短期居住者（計）（居住年数5年未満）』（15.7%）は1割半ばとなっている。

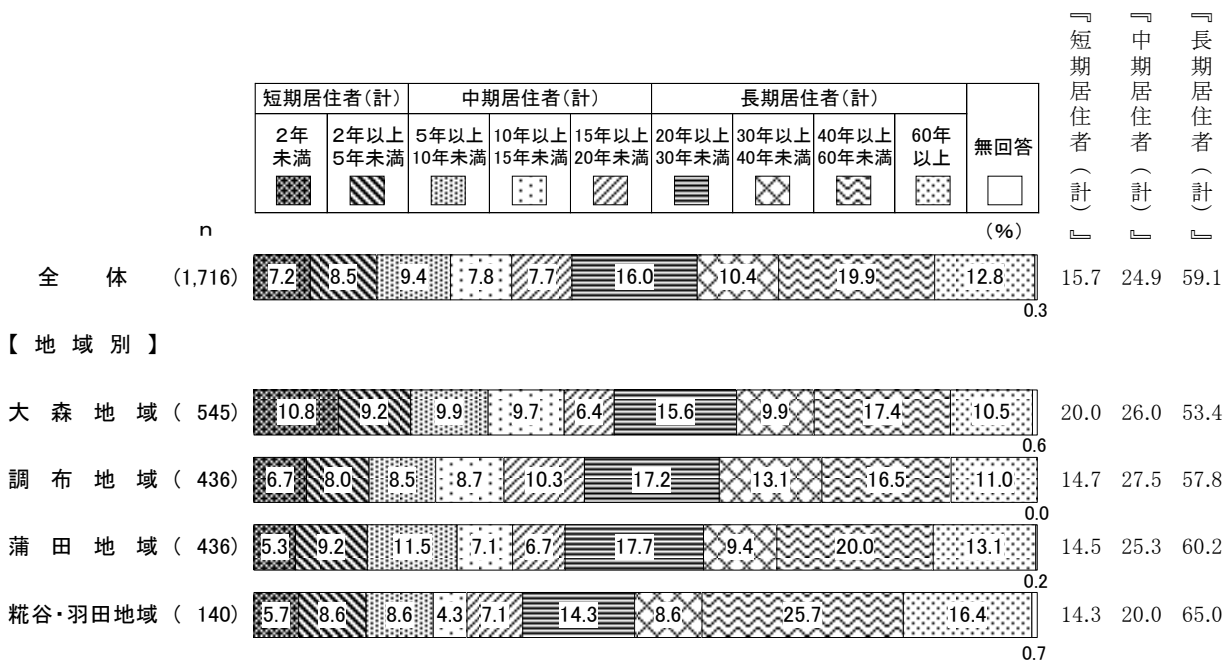
（図1-1-1）

図 1-1-2 居住年数一経年比較



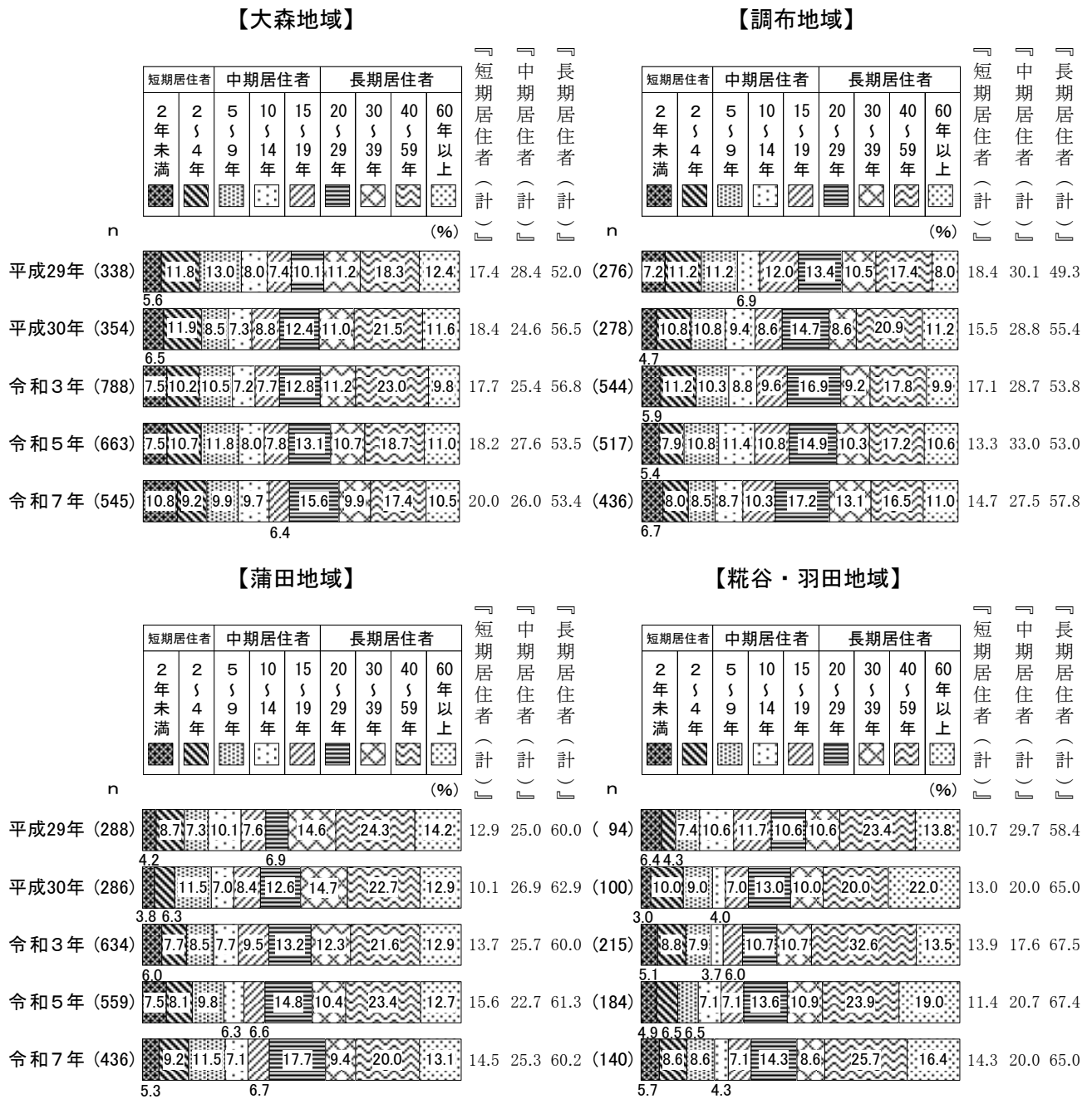
経年比較をみると、前回調査から傾向の変化はみられない。(図 1-1-2)

図 1-1-3 居住年数一地域別



地域別でみると、『長期居住者(計)』は梶谷・羽田地域(65.0%)で6割半ばと高くなっている。『中期居住者(計)』は調布地域(27.5%)で3割近くと高くなっている。『短期居住者(計)』は大森地域(20.0%)で2割と高くなっている。(図 1-1-3)

図 1-1-4 居住年数—地域別（経年比較）



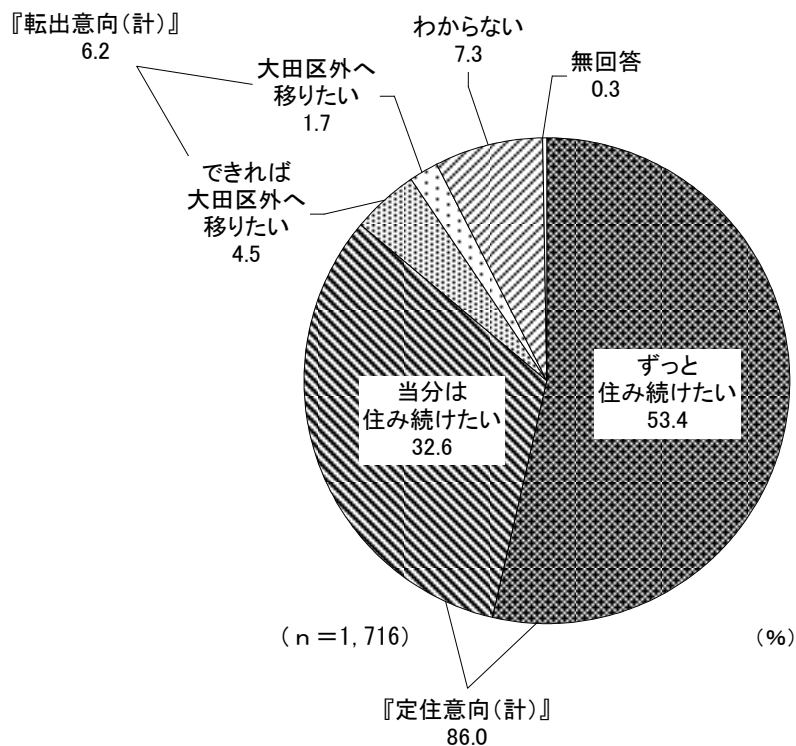
地域別で経年比較をみると、『長期居住者（計）』は調布地域で前回より4.8ポイント増加している。『中期居住者（計）』は調布地域で前回より5.5ポイント減少している。（図 1-1-4）

(2) 定住意向

◇「ずっと住み続けたい」と「当分は住み続けたい」を合わせた『定住意向（計）』は8割半ば

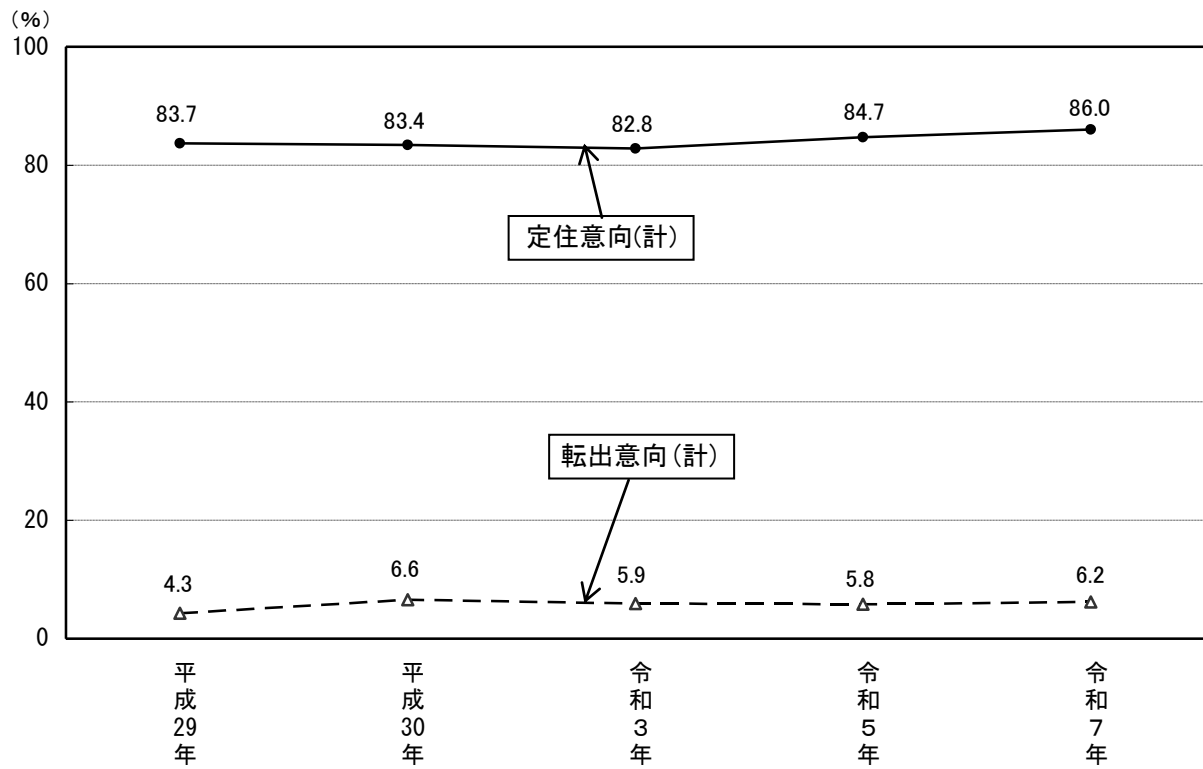
問2 あなたは、これからも大田区に住みたいと思いますか。(○は1つだけ)

図1-2-1



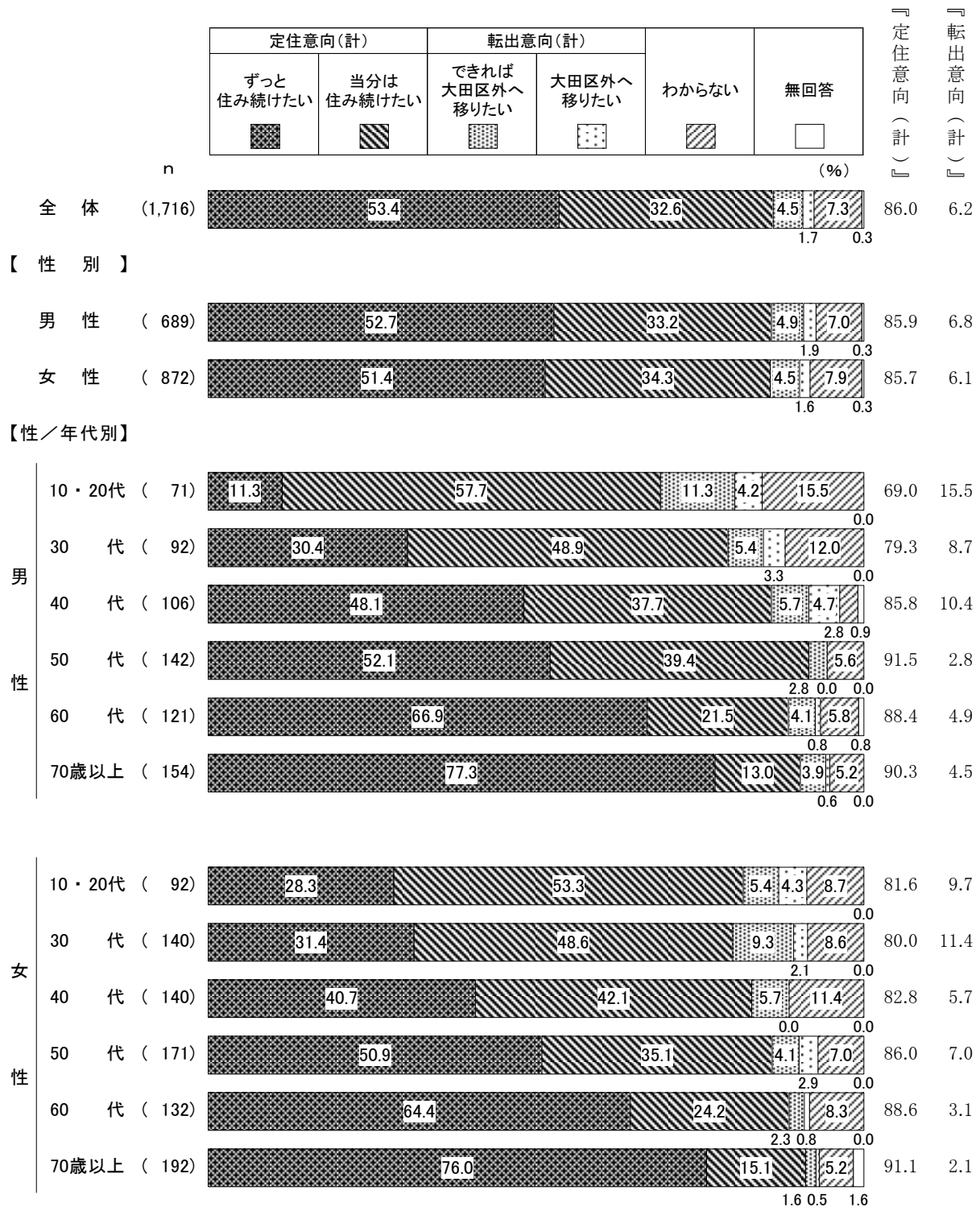
定住意向を聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(53.4%)が5割を超えて最も高く、これに「当分は住み続けたい」(32.6%)を合わせた『定住意向（計）』(86.0%)は8割半ばとなっている。一方、「できれば大田区外へ移りたい」(4.5%)と「大田区外へ移りたい」(1.7%)を合わせた『転出意向（計）』(6.2%)は1割未満となっている。(図1-2-1)

図 1-2-2 定住意向－経年比較



経年比較をみると、『定住意向（計）』は平成29年以降8割台で推移している。（図1-2-2）

図 1-2-3 定住意向一性／年代別

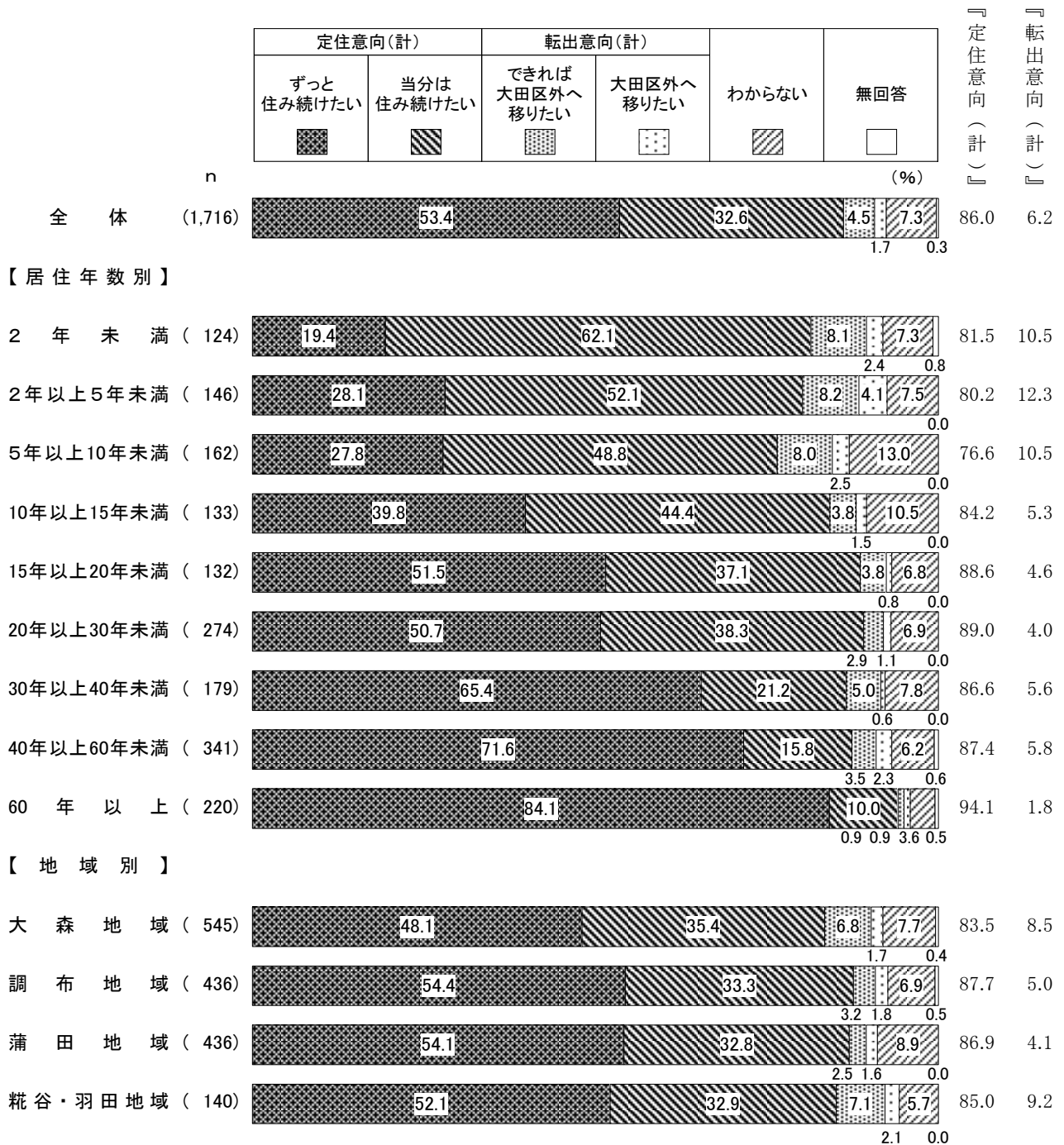


性別でみると、大きな違いはみられない。

性／年代別でみると、「ずっと住み続けたい」は男女ともに年代が高くなるほど割合が高く、男性70歳以上（77.3%）で8割近く、女性70歳以上（76.0%）で7割半ばとなっている。『定住意向（計）』は男性50代（91.5%）と女性70歳以上（91.1%）で9割を超えて高くなっている。

（図 1-2-3）

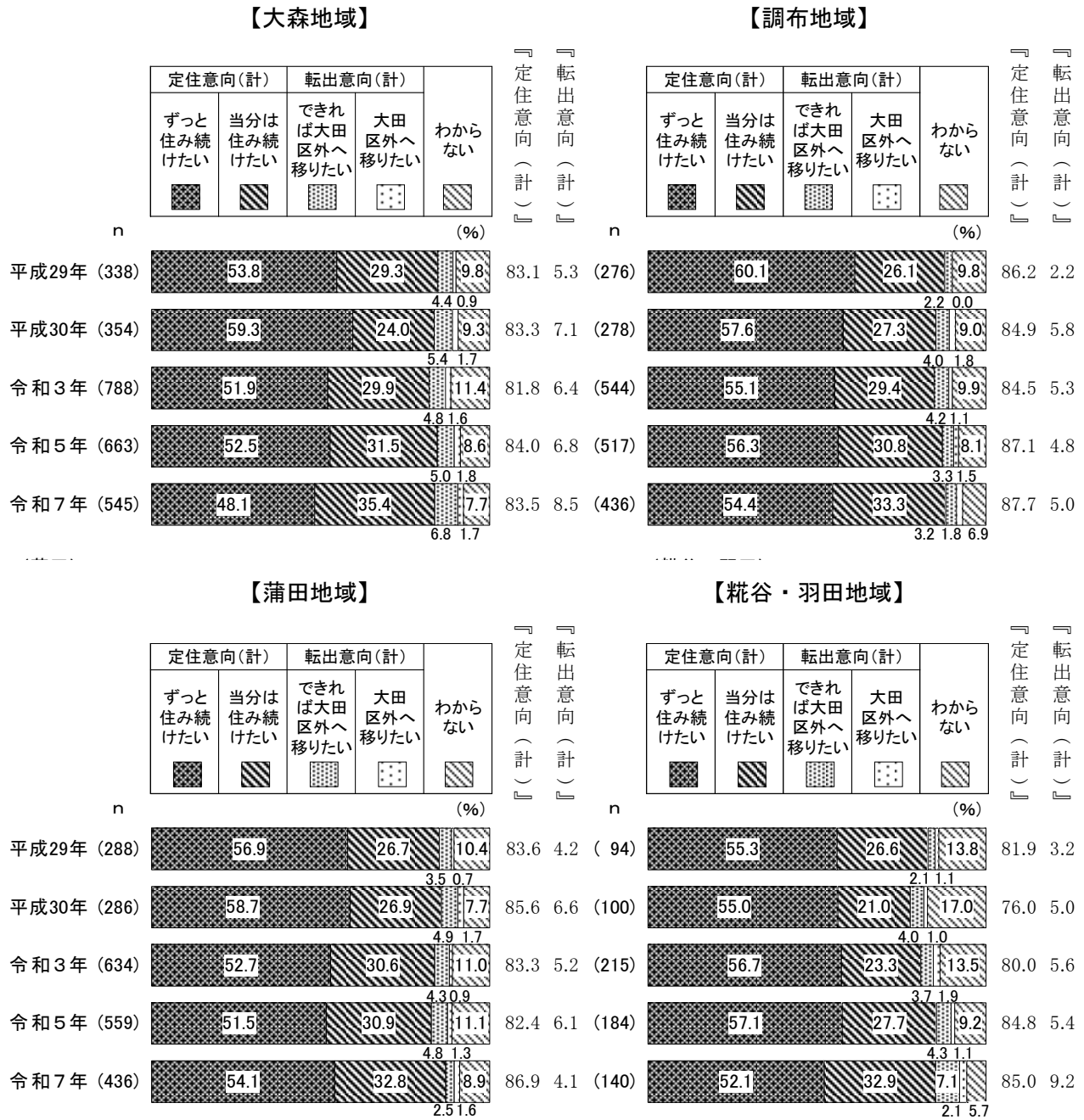
図 1-2-4 定住意向－居住年数別、地域別



居住年数別でみると、「ずっと住みたい」はおおむね居住年数が長くなるほど割合が高く、“居住年数60年以上”（84.1％）で8割半ばとなっている。『定住意向（計）』は“居住年数60年以上”（94.1％）で9割半ばと高くなっている。

地域別でみると、『定住意向（計）』は調布地域（87.7％）と蒲田地域（86.9％）で9割近くと高くなっている。（図1-2-4）

図 1-2-5 定住意向—地域別（経年比較）



地域別で経年比較をみると、『定住意向（計）』は蒲田地域で前回より4.5ポイント増加している。一方、『転出意向（計）』は糀谷・羽田地域で前回より3.8ポイント増加している。（図1-2-5）

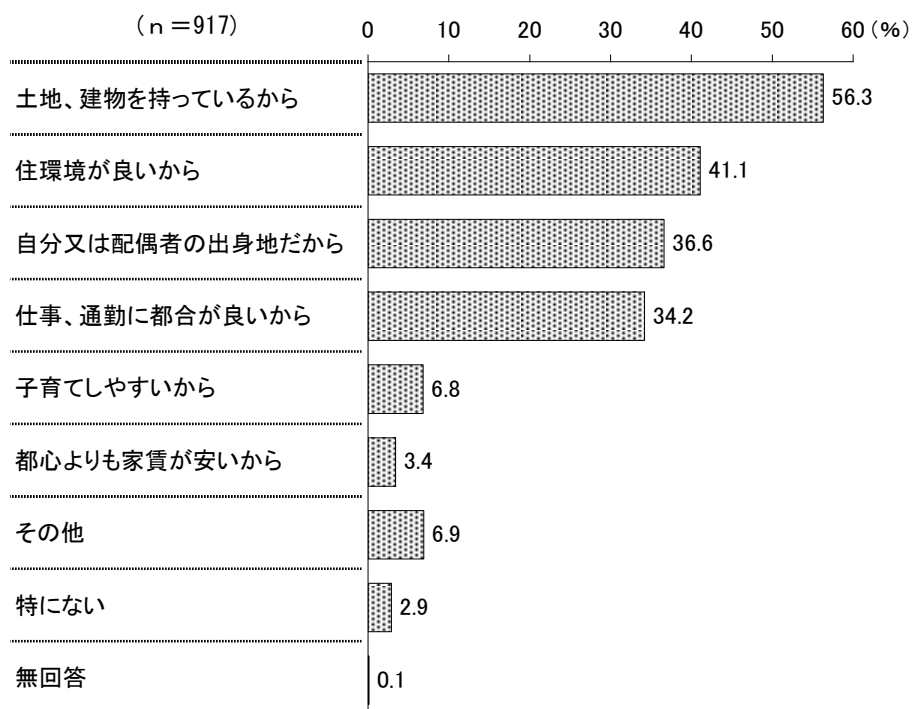
(3) ずっと住みたい理由

◇「土地、建物を持っているから」が5割半ば

(問2で、「ずっと住みたい」と回答した方に)

問2-1 「ずっと住みたい」理由は何ですか。(〇はいくつでも)

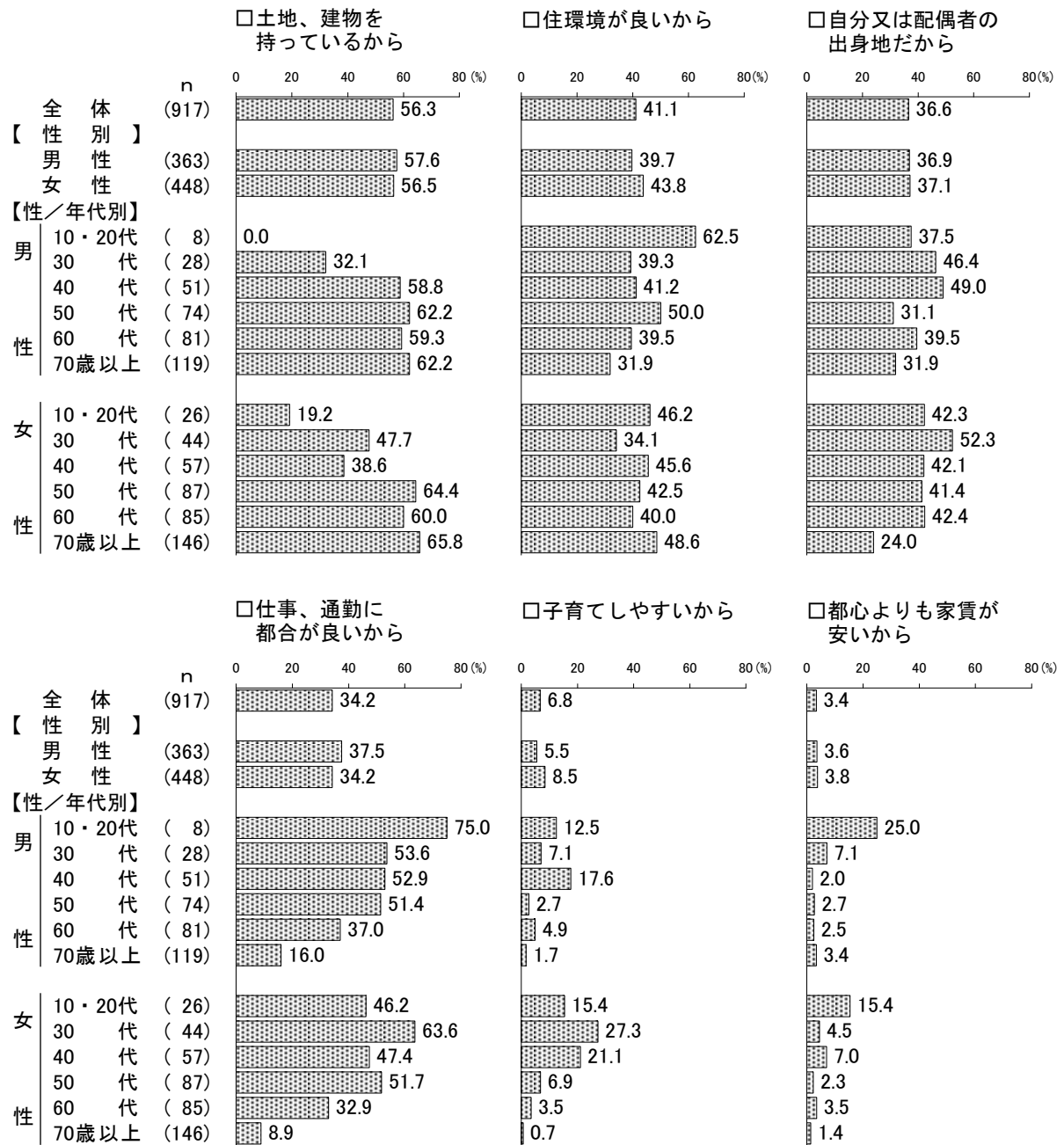
図1-3-1



これからも大田区に「ずっと住みたい」と答えた人(917人)に、その理由を聞いたところ、「土地、建物を持っているから」(56.3%)が5割半ばで最も高く、次いで「住環境が良いから」(41.1%)、「自分又は配偶者の出身地だから」(36.6%)、「仕事、通勤に都合が良いから」(34.2%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「交通の便が良い」、「生活するのに便利」、「家族や友人が住んでいる」などがあげられている。(図1-3-1)

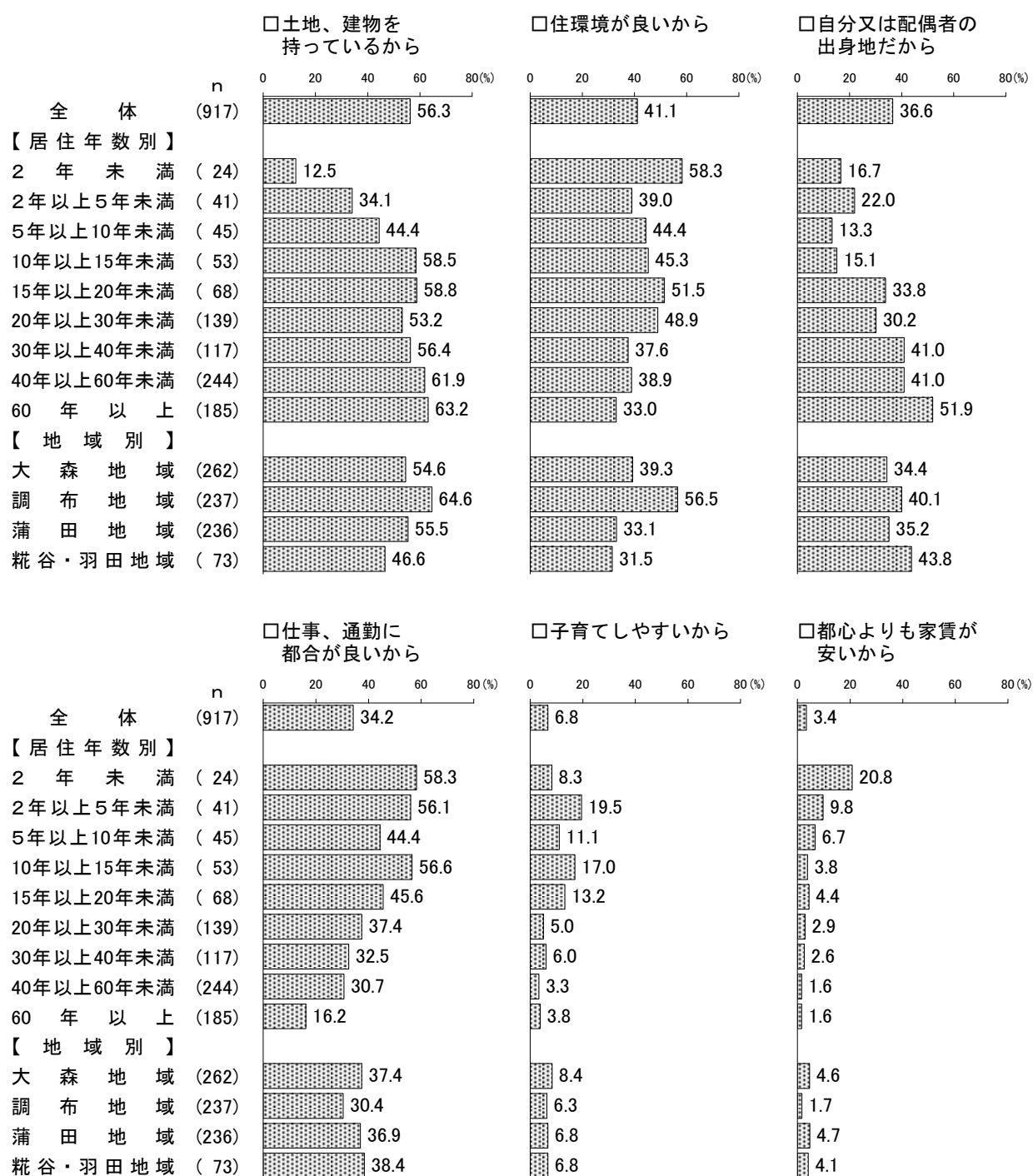
図 1-3-2 ずっと住み続けたい理由－性／年代別



性別でみると、「住環境が良いから」は女性（43.8％）が男性（39.7％）より4.1ポイント高くなっている。一方、「仕事、通勤に都合が良いから」は男性（37.5％）が女性（34.2％）より3.3ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「土地、建物を持っているから」は女性50代（64.4％）と女性70歳以上（65.8％）で6割半ばと高くなっている。「仕事、通勤に都合が良いから」は女性30代（63.6％）で6割を超えて高くなっている。（図1-3-2）

図 1-3-3 ズっと住みたい理由—居住年数別、地域別



居住年数別でみると、「土地、建物を持っているから」は“居住年数40年以上60年未満”（61.9%）と“居住年数60年以上”（63.2%）で6割を超えて高くなっている。「仕事、通勤に都合が良いから」は“居住年数10年以上15年未満”（56.6%）で6割近くと高くなっている。

地域別でみると、「土地、建物を持っているから」は調布地域（64.6%）で6割半ばと高くなっている。「住環境が良いから」は調布地域（56.5%）で6割近くと高くなっている。（図1-3-3）

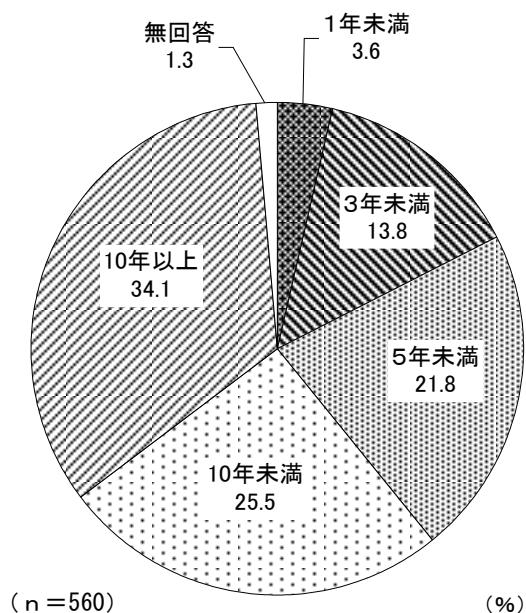
(4) 当分は住み続けたい期間

◇「10年以上」が3割半ば

(問2で、「当分は住み続けたい」と回答した方に)

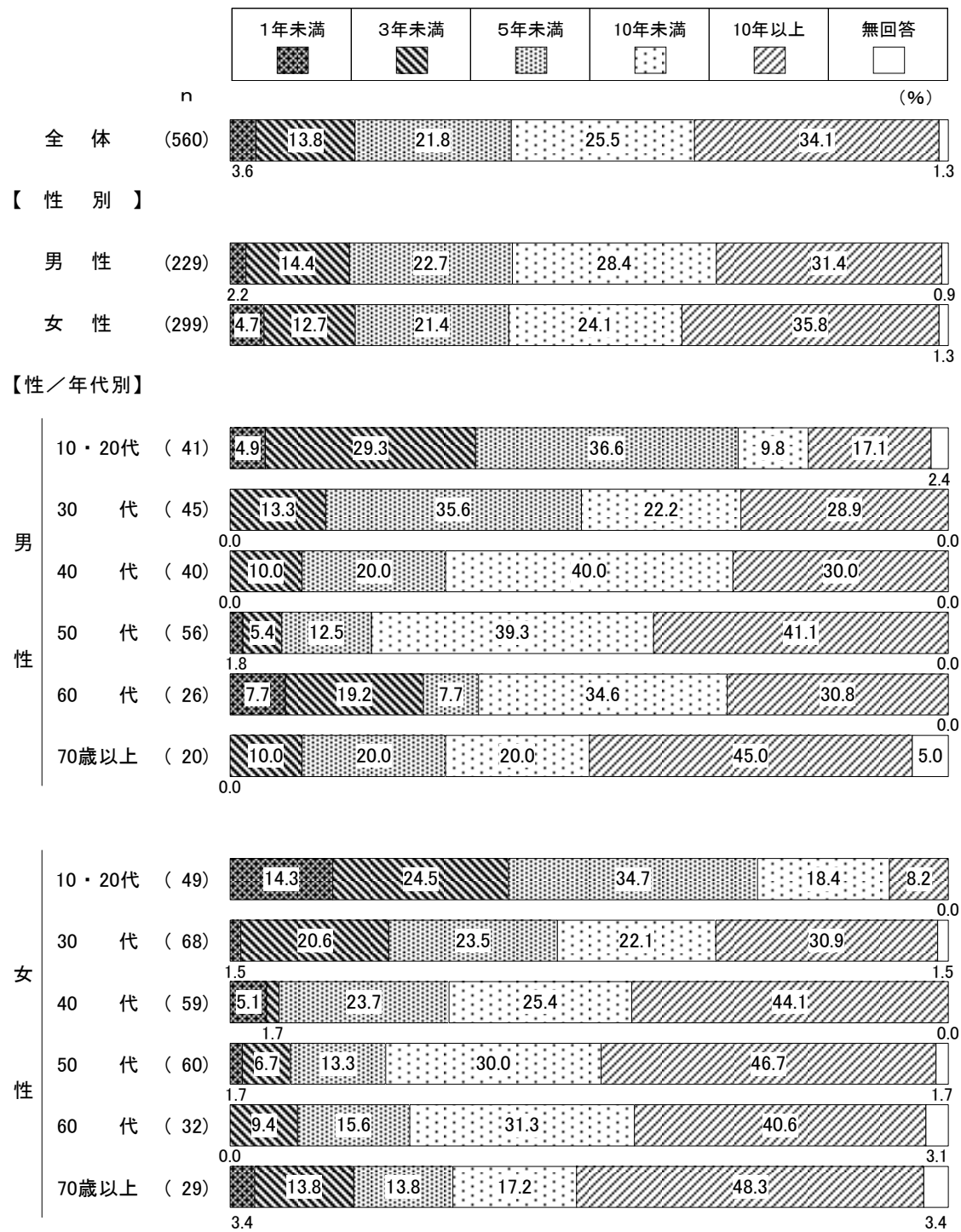
問2-2 「当分は住み続けたい」とはどのくらいの期間で理由は何ですか。(○は1つだけ)

図1-4-1



大田区に「当分は住み続けたい」と答えた人(560人)に、それはどのくらいの期間か聞いたところ、「10年以上」(34.1%)が3割半ばで最も高く、次いで「10年未満」(25.5%)、「5年未満」(21.8%)、「3年未満」(13.8%)などの順になっている。(図1-4-1)

図 1-4-2 当分は住み続けたい期間－性／年代別



性別でみると、「10年以上」は女性（35.8%）が男性（31.4%）より4.4ポイント高くなっている。一方、「10年未満」は男性（28.4%）が女性（24.1%）より4.3ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「5年未満」は男性10・20代（36.6%）で4割近くと高くなっている。「10年未満」は男性40代（40.0%）と男性50代（39.3%）で約4割と高くなっている。「10年以上」は女性50代（46.7%）と女性70歳以上（48.3%）で5割近くと高くなっている。（図1-4-2）

また、「当分は住み続けたい」と答えた理由については、437人から472件の回答があった。住み続けたい期間別に分類して整理した結果は以下のとおりである。

①「1年未満」と答えた理由（計17件）

- 仕事や通勤・通学に都合が良いから…………… 5件
- 実家や出身地に戻りたい、戻る予定があるから…………… 2
- 転居の予定や可能性のあるから…………… 2
- 転勤・転職の可能性のあるから…………… 2
- マンション等の更新の都合があるから…………… 2
- 結婚したら転居する可能性のあるから…………… 1
- その他…………… 3

②「3年未満」と答えた理由（計64件）

- 仕事や通勤・通学の都合…………… 15件
- 転居の予定や可能性のあるから…………… 9
- 住みやすい、住み慣れている、利便性が良いから…………… 6
- 特に引っ越す理由がないから…………… 6
- 家賃や住宅購入費が高いから…………… 5
- 子どもの成長や学校の都合に合わせたいから…………… 4
- 転勤・転職の可能性のあるから…………… 3
- 社宅だから…………… 2
- 他の場所に住んでみたい、居住環境を変えたいから…………… 2
- マンション等の更新の都合があるから…………… 2
- その他…………… 10

③「5年未満」と答えた理由（計110件）

- 仕事や通勤・通学に都合が良いから…………… 16件
- 住みやすい、住み慣れている、利便性が良いから…………… 14
- 交通の便が良いから…………… 10
- 子どもの成長や学校の都合に合わせたいから…………… 7
- 転勤・転職の可能性のあるから…………… 7
- 他の場所に住んでみたい、居住環境を変えたいから…………… 6
- 家賃や住宅購入費が高いから…………… 6
- 実家や出身地に戻りたい、戻る予定があるから…………… 4
- 土地、建物を持っているから…………… 3
- 退職するまでは住みたいから…………… 3
- 地方への移住を考えているから…………… 3
- 保育園に通っているから…………… 3
- 引っ越す理由や予定がないから…………… 3
- 家賃が安いから…………… 3
- 将来的にライフスタイルが変わると思うから…………… 2
- 進学・就職・独立するため…………… 2
- 賃貸物件だから…………… 2
- 治安が良いから…………… 2
- その他…………… 14

④「10年未満」と答えた理由（計117件）

- 子どもの成長や学校の都合に合わせたいから…………… 19件
- 住みやすい、住み慣れている、利便性が良いから…………… 18
- 仕事や通勤・通学に都合が良いから…………… 15
- 老後に転居する可能性があるから…………… 10
- 退職するまでは住みたいから…………… 6
- 親の介護の関係で…………… 5
- 交通の便が良いから…………… 5
- 実家や出身地に戻りたい、戻る予定があるから…………… 5
- 生まれ育った場所だから…………… 3
- 転居の予定や可能性があるから…………… 3
- 将来的にライフスタイルが変わると思うから…………… 3
- 家賃や住宅購入費が高いから…………… 2
- 結婚したら転居する可能性があるから…………… 2
- 自然環境が良くないから…………… 2
- その他…………… 19

⑤「10年以上」と答えた理由（計164件）

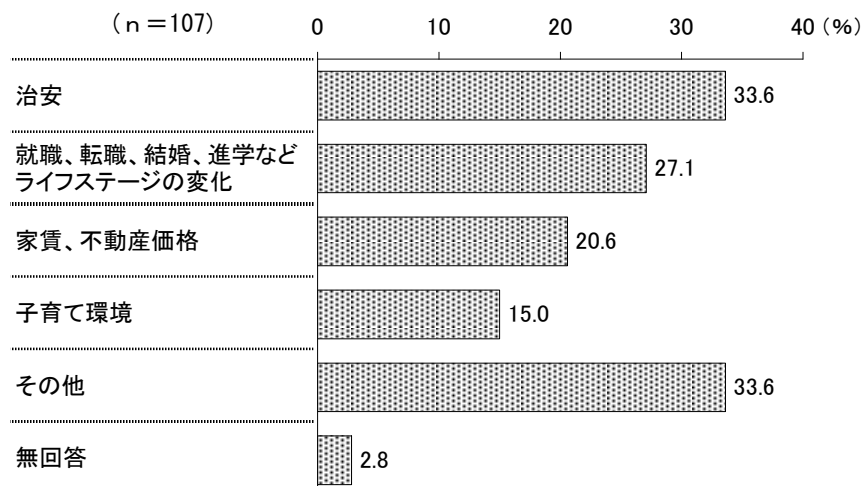
- 住みやすい、住み慣れている、利便性が良いから…………… 29件
- 子どもの成長や学校の都合に合わせたいから…………… 25
- 仕事や通勤・通学に都合が良いから…………… 21
- 交通の便が良いから…………… 15
- 家族・友人・親族がいるから…………… 9
- 土地、建物を持っているから…………… 9
- 年齢や健康状態によって転居する可能性があるから…………… 9
- 将来のことはわからないから…………… 7
- 実家や出身地に戻りたい、戻る予定があるから…………… 6
- 住環境が良いから…………… 6
- 退職するまでは住みたいから…………… 6
- 高齢だから…………… 4
- 他の場所に住んでみたいから…………… 3
- 不自由がなく、引っ越す理由が無いから…………… 2
- 家賃や住宅購入費が高いから…………… 2
- その他…………… 11

(5) 区外へ移りたい理由

◇「治安」が3割を超える

(問2で、「できれば大田区外へ移りたい」または「大田区外へ移りたい」と回答した方に)
問2-3 「大田区外へ移りたい」理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図1-5-1

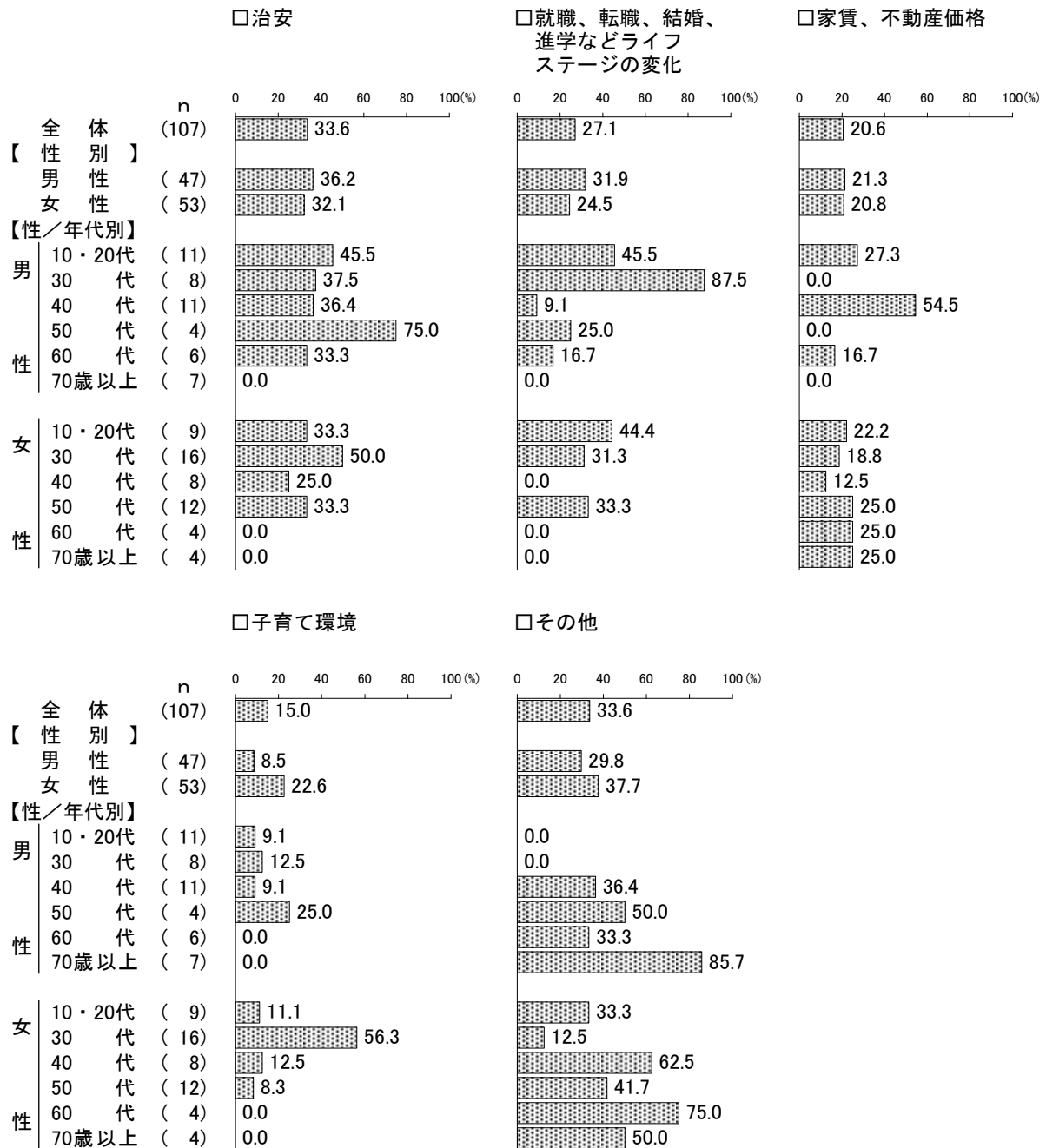


「できれば大田区外へ移りたい」または「大田区外へ移りたい」と答えた人(107人)に、その理由を聞いたところ、「治安」(33.6%)が3割を超えて最も高く、次いで「就職、転職、結婚、進学などライフステージの変化」(27.1%)、「家賃、不動産価格」(20.6%)、「子育て環境」(15.0%)の順になっている。

「その他」への回答として、「地方に住みたい」、「住みにくい」などがあげられている。

(図1-5-1)

図 1-5-2 区外へ移りたい理由－性／年代別



性別でみると、「子育て環境」は女性（22.6%）が男性（8.5%）より14.1ポイント高くなっている。一方、「就職、転職、結婚、進学などライフステージの変化」は男性（31.9%）が女性（24.5%）より7.4ポイント高くなっている。

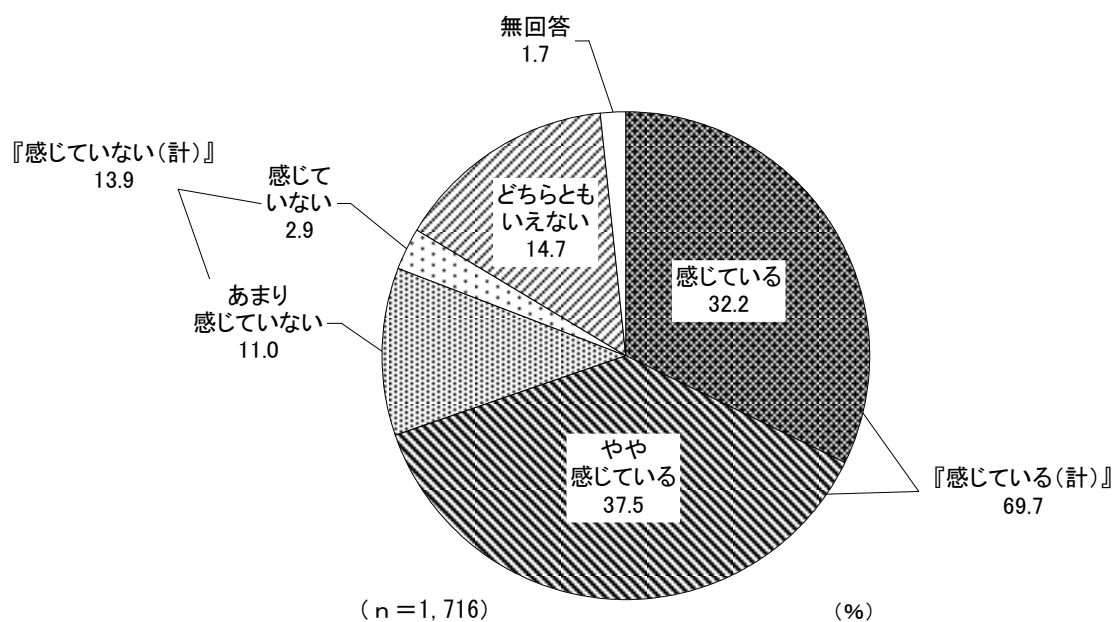
性／年代別は、基数が少ないため参考に図示する。（図 1-5-2）

(6) 住んでいるまちが魅力的か

◇「感じている」と「やや感じている」を合わせた『感じている(計)』は7割

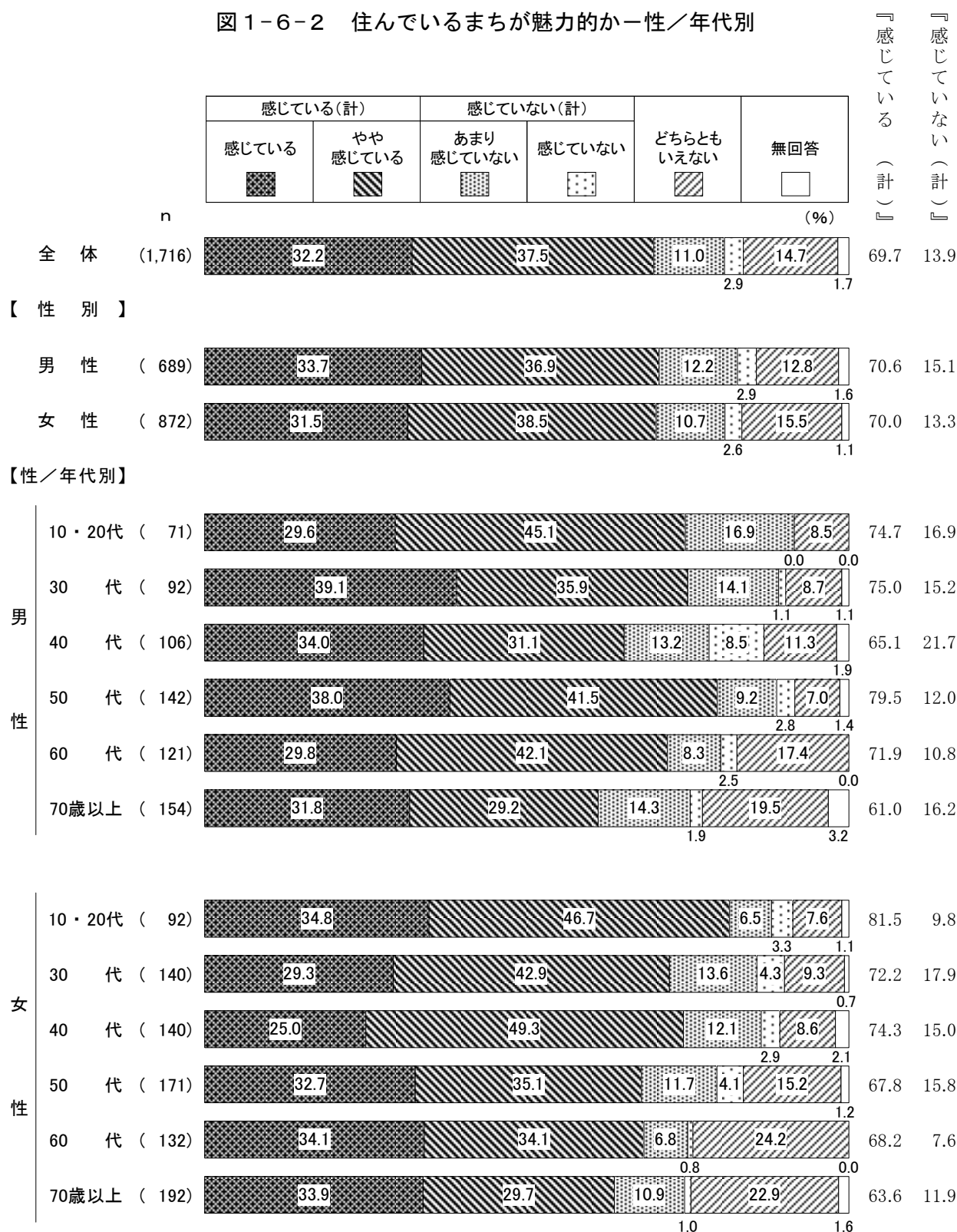
問3 あなたは、住んでいるまちが魅力的であると感じていますか。(○は1つだけ)

図1-6-1



住んでいるまちが魅力的であると感じているか聞いたところ、「感じている」(32.2%)と「やや感じている」(37.5%)を合わせた『感じている(計)』(69.7%)は7割となっている。一方、「あまり感じていない」(11.0%)と「感じていない」(2.9%)を合わせた『感じていない(計)』(13.9%)は1割を超えている。(図1-6-1)

図 1-6-2 住んでいるまちが魅力的か－性／年代別

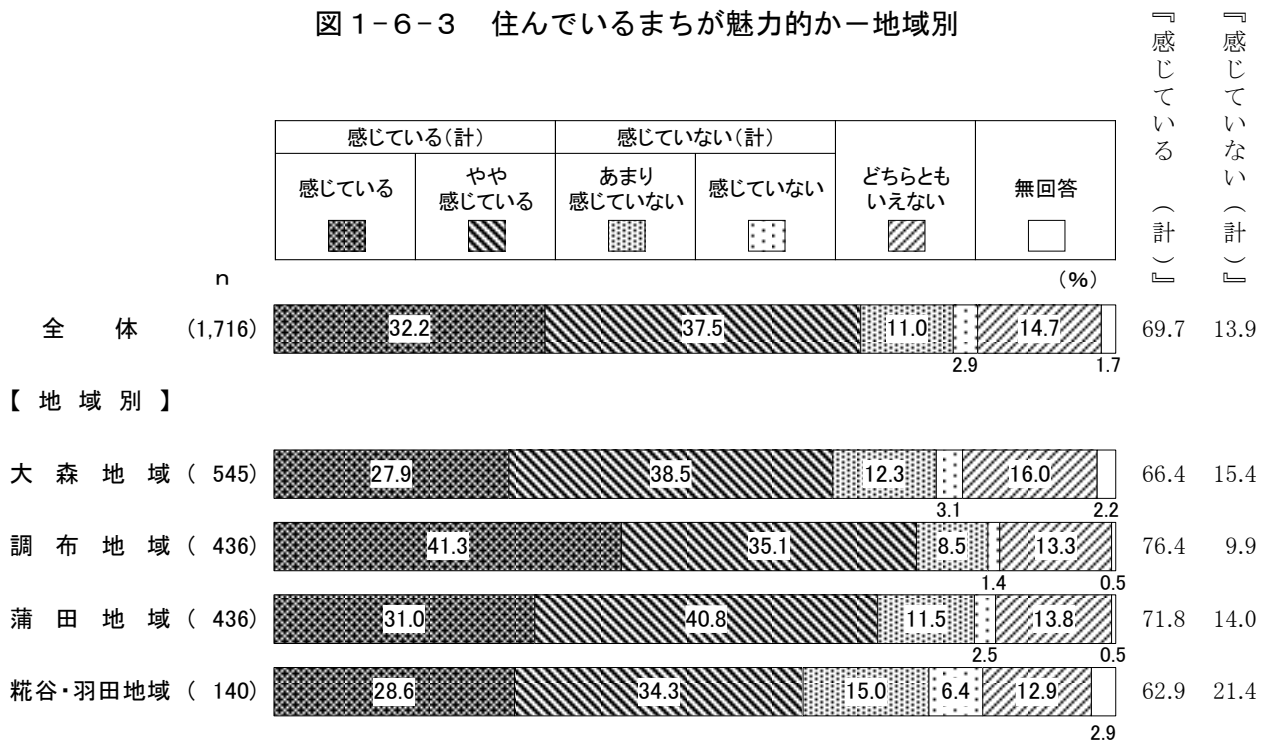


性別でみると、大きな違いはみられない。

性／年代別でみると、『感じている (計)』は女性10・20代 (81.5%) で8割を超えて高くなっている。一方、『感じていない (計)』は男性40代 (21.7%) で2割を超えて高くなっている。

(図 1-6-2)

図 1-6-3 住んでいるまちが魅力的かー地域別



地域別でみると、『感じている(計)』は調布地域(76.4%)で7割半ばと高くなっている。一方、『感じていない(計)』は糀谷・羽田地域(21.4%)で2割を超えて高くなっている。(図1-6-3)

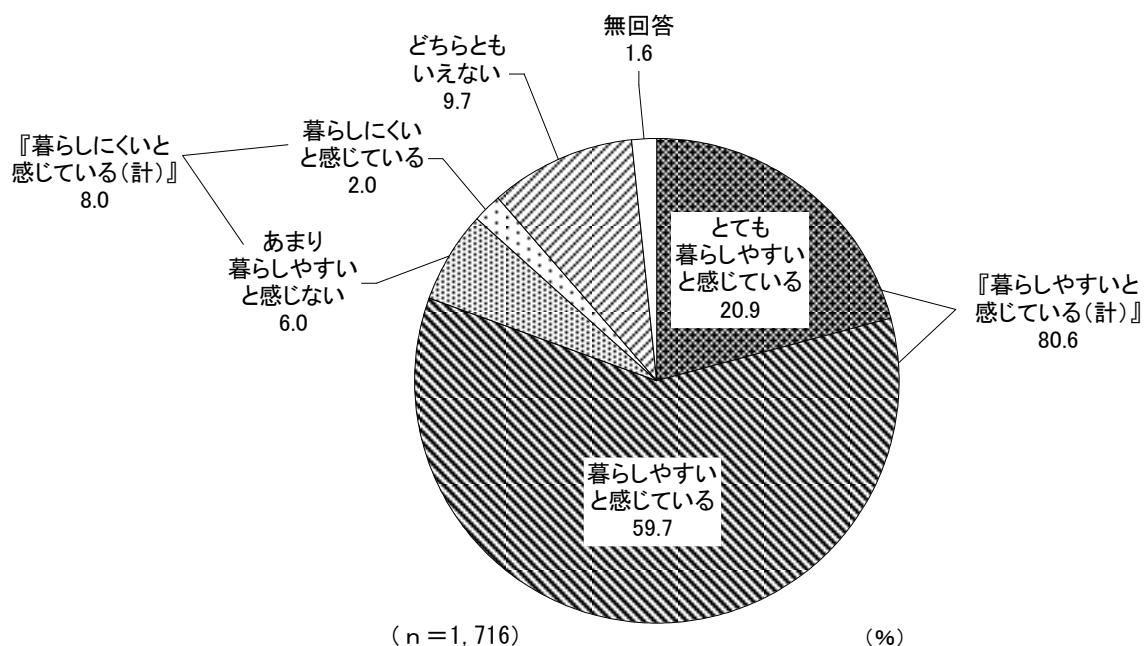
2. 暮らしやすさ

(1) 住んでいるまちの暮らしやすさ

◇「とても暮らしやすいと感じている」と「暮らしやすいと感じている」を合わせた『暮らしやすいと感じている（計）』は約8割

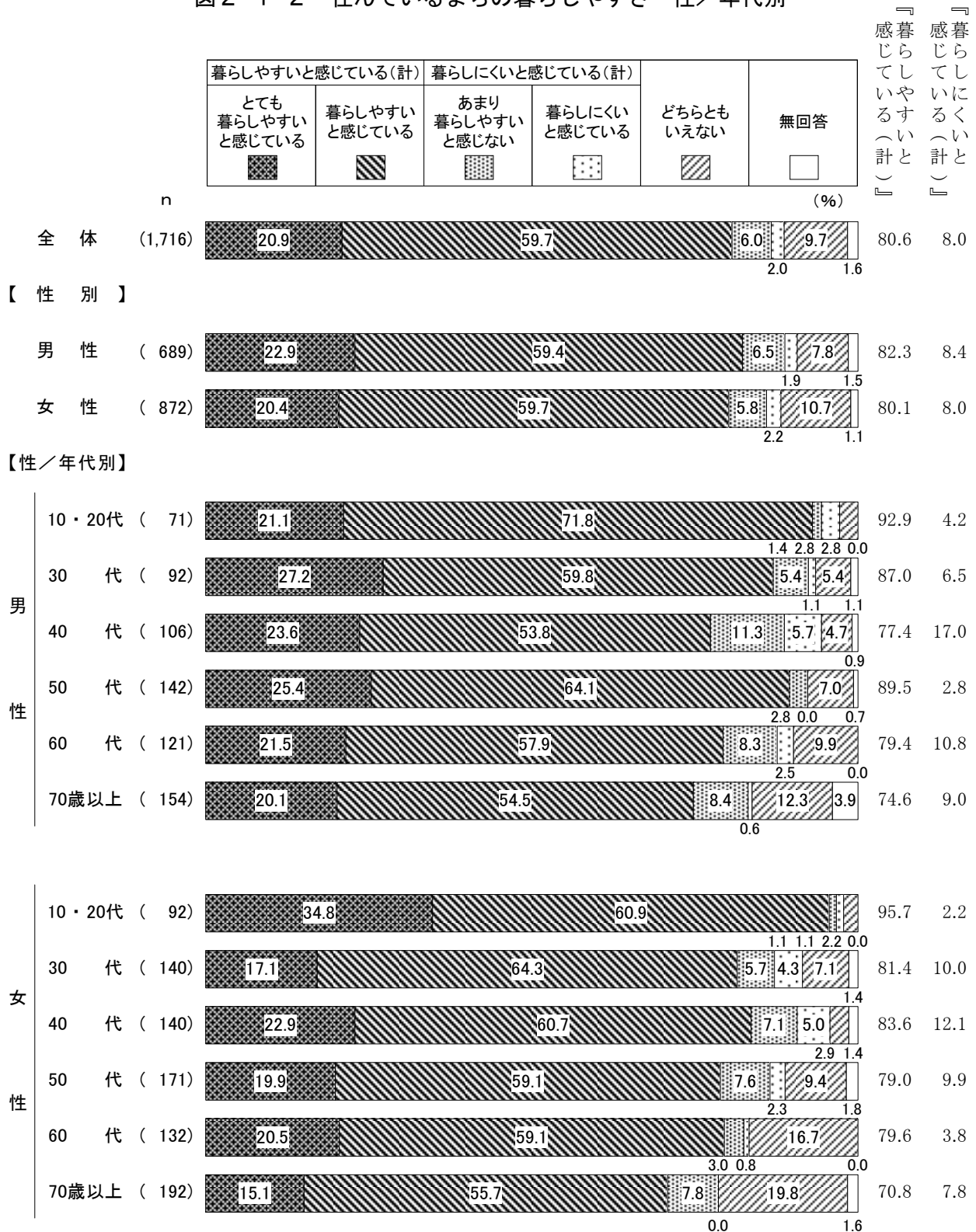
問4 現在住んでいるまちの暮らしやすさを、どのように感じていますか。（○は1つだけ）

図2-1-1



現在住んでいるまちの暮らしやすさについて聞いたところ、「暮らしやすいと感じている」（59.7%）が6割で最も高く、これに「とても暮らしやすいと感じている」（20.9%）を合わせた『暮らしやすいと感じている（計）』（80.6%）は約8割となっている。一方、「あまり暮らしやすいと感じない」（6.0%）と「暮らしにくいと感じている」（2.0%）を合わせた『暮らしにくいと感じている（計）』（8.0%）は1割未満となっている。（図2-1-1）

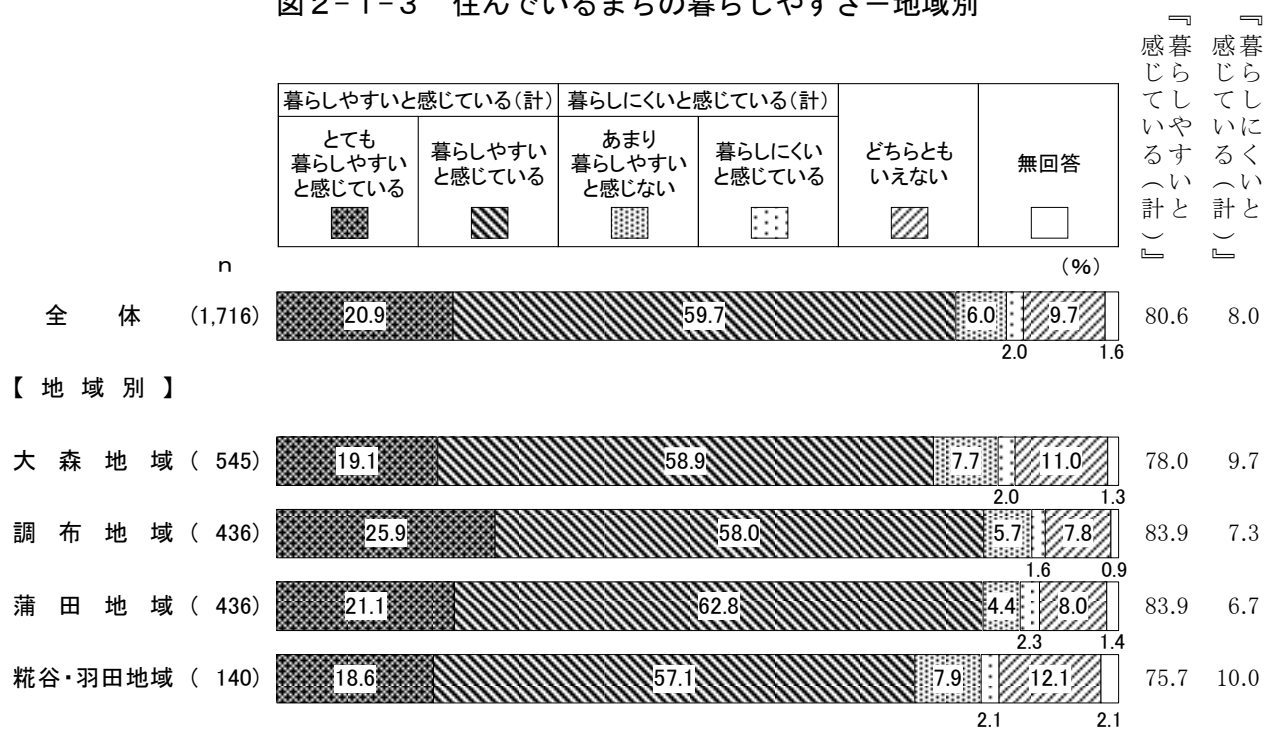
図2-1-2 住んでいるまちの暮らしやすさ－性／年代別



性別でみると、大きな違いはみられない。

性／年代別でみると、『暮らしやすいと感じている(計)』は女性10・20代(95.7%)で9割半ばと高くなっている。(図2-1-2)

図 2-1-3 住んでいるまちの暮らしやすさ―地域別



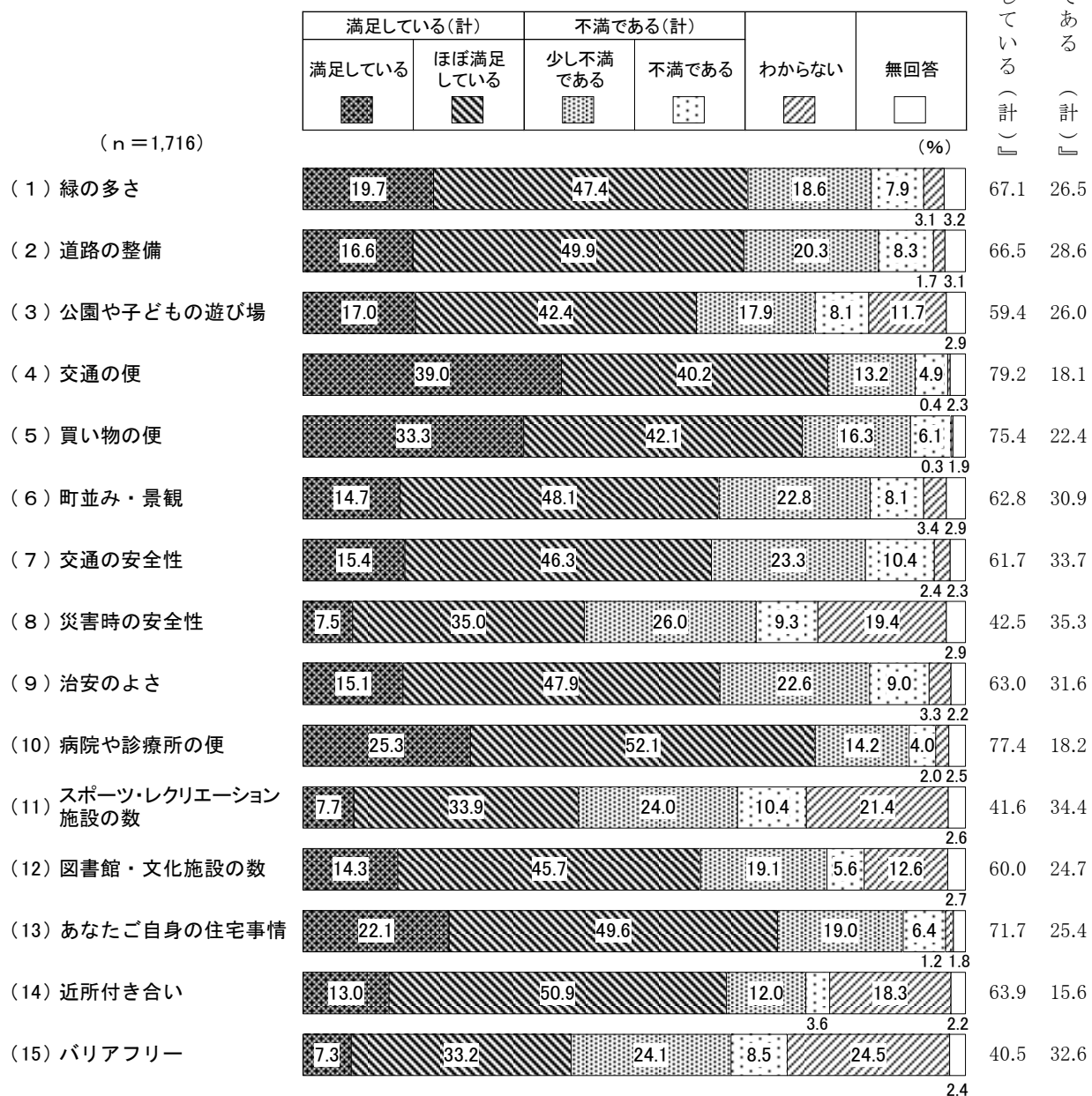
地域別でみると、『暮らしやすいと感じている (計)』は調布地域と蒲田地域（ともに83.9%）で8割を超えて高くなっている。（図 2-1-3）

(2) 生活環境の満足度

◇「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた『満足している(計)』は「交通の便」で約8割

問5 住んでいるまちの生活環境について、どの程度満足していますか。(〇はそれぞれ1つ)

図 2-2-1



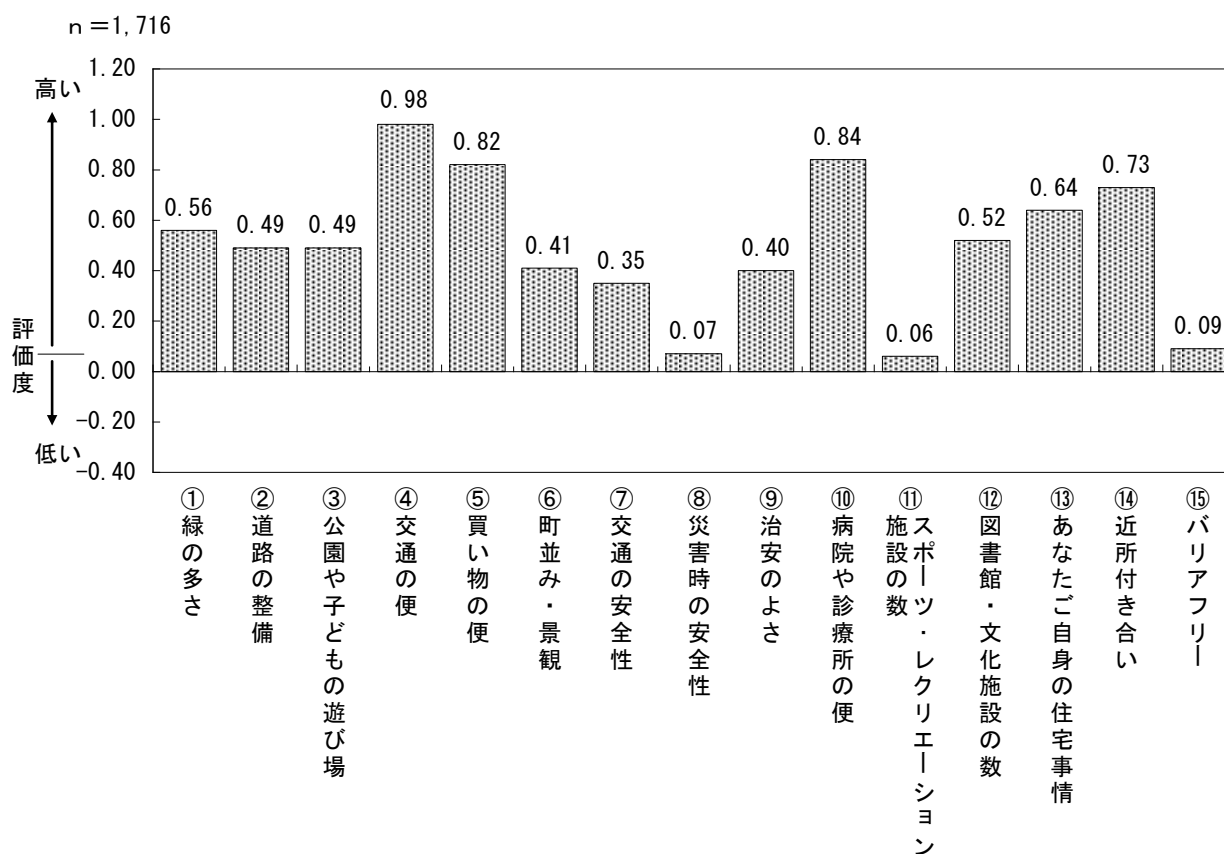
住んでいるまちの生活環境について聞いたところ、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた『満足している(計)』は「交通の便」(79.2%)で約8割と最も高く、次いで「病院や診療所の便」(77.4%)、「買い物の便」(75.4%)などの順になっている。一方、「少し不満である」と「不満である」を合わせた『不満である(計)』は「災害時の安全性」(35.3%)と「スポーツ・レクリエーション施設の数」(34.4%)で3割半ばと高くなっている。(図 2-2-1)

15項目にわたる生活環境の満足度の比較をしやすいするため、それぞれの回答を点数化し、下記の計算式で各項目の評価点を求めた。なお、「わからない」は計算から除外した。

$$\text{評価点} = \frac{\text{「満足している」} \times 2 + \text{「ほぼ満足している」} \times 1 + \text{「少し不満である」} \times (-1) + \text{「不満である」} \times (-2)}{\text{回答者数}}$$

15項目の生活環境の満足度を評価点でみると、評価が高いのは「交通の便」(0.98)、「病院や診療所の便」(0.84)、「買い物の便」(0.82)の順になっている。一方、評価が低いのは「スポーツ・レクリエーション施設の数」(0.06)、「災害時の安全性」(0.07)、「バリアフリー」(0.09)の順になっている。(図2-2-2)

図2-2-2 生活環境の満足度（評価点）



以下、生活環境の満足度の評価点を地域別でみる。地域ごとに、全体と比べて評価の高いベスト3の項目と、評価の低いワースト3の項目を表に掲げた。

【大森地域】

全体と比較すると、ベスト3では、「治安のよさ」と「図書館・文化施設の数」がともに0.05ポイント上回り1位、「病院や診療所の便」が0.03ポイント上回り3位となっている。

一方、ワースト3では、「交通の安全性」が1位、「交通の便」が2位、「買い物の便」と「あなたご自身の住宅事情」が3位となっている。（図2-2-3、表2-2-1）

図2-2-3 生活環境の満足度－【大森地域】（全体との評価点の比較）

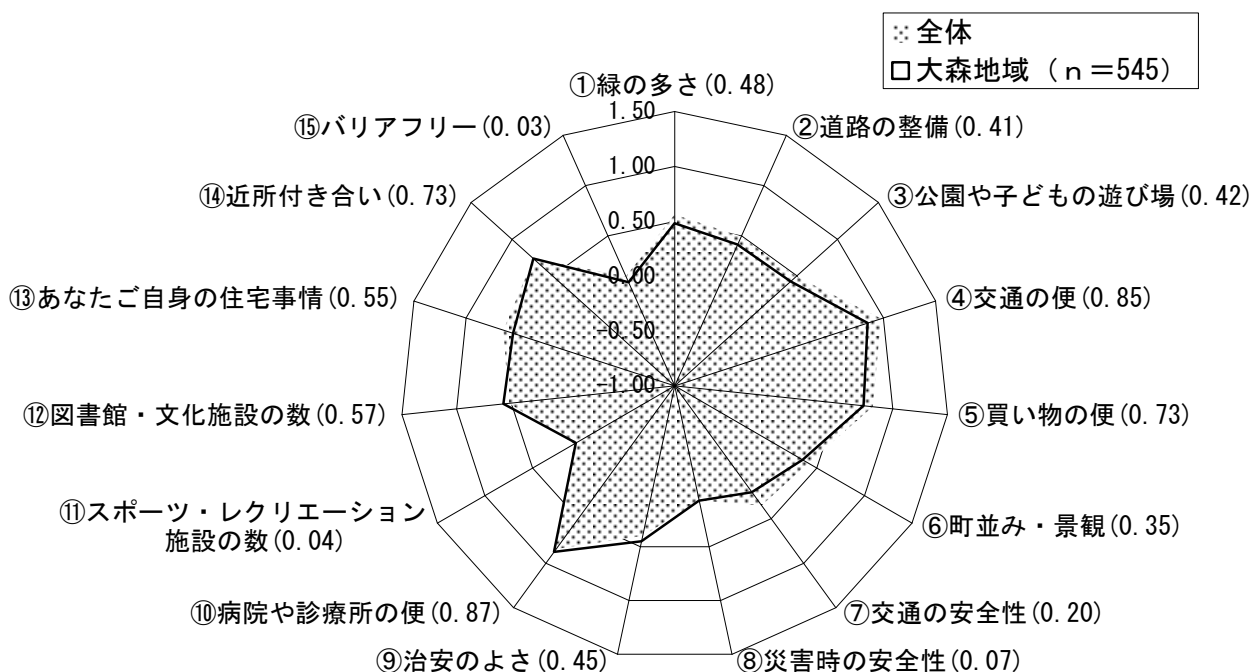


表2-2-1 生活環境の満足度－【大森地域】（全体との評価点の差ベスト3・ワースト3）

全体との差	1 位	2 位	3 位
ベスト3	⑨治安のよさ／⑫図書館・文化施設の数	0.05	⑩病院や診療所の便 0.03
ワースト3	⑦交通の安全性 -0.15	④交通の便 -0.13	⑤買い物の便／⑬あなたご自身の住宅事情 -0.09

【調布地域】

全体と比較すると、ベスト3では、「治安のよさ」が0.50ポイント上回り1位、「町並み・景観」が0.43ポイント上回り2位、「緑の多さ」が0.40ポイント上回り3位となっている。

一方、ワースト3では、「買い物の便」が1位、「スポーツ・レクリエーション施設の数」が2位、「交通の便」が3位となっている。(図2-2-4、表2-2-2)

図2-2-4 生活環境の満足度－【調布地域】(全体との評価点の比較)

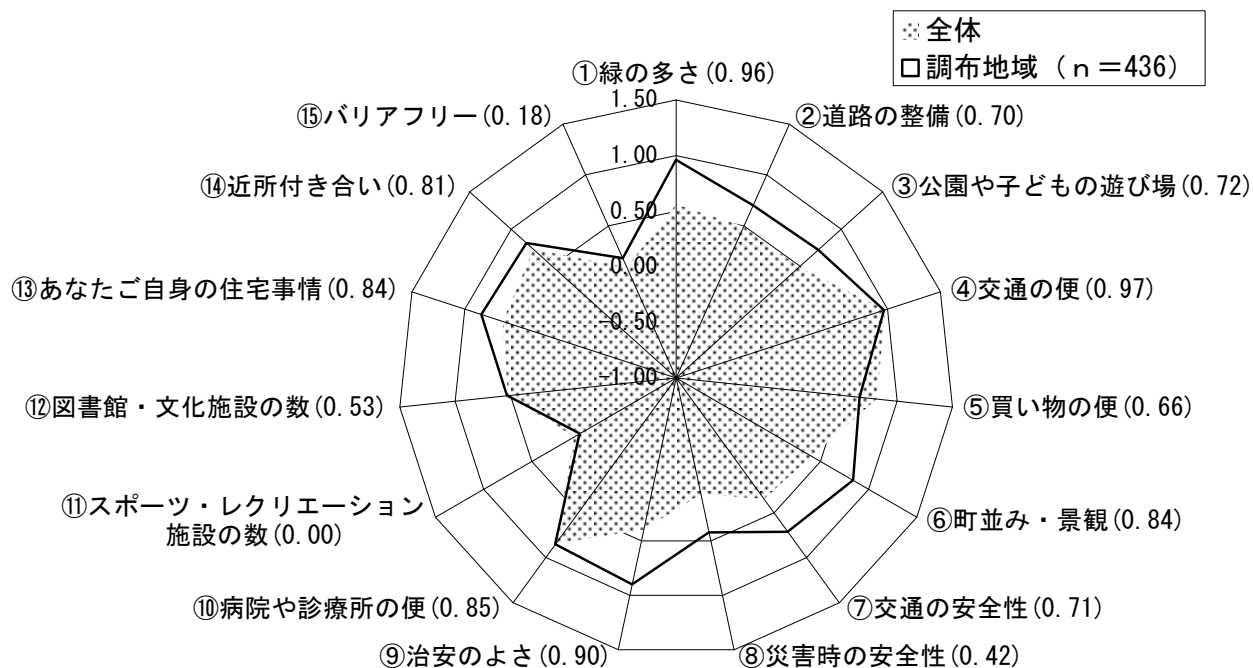


表2-2-2 生活環境の満足度－【調布地域】(全体との評価点の差ベスト3・ワースト3)

全体との差	1 位		2 位		3 位	
ベスト3	⑨治安のよさ	0.50	⑥町並み・景観	0.43	①緑の多さ	0.40
ワースト3	⑤買い物の便	-0.16	⑪スポーツ・レクリエーション施設の数	-0.06	④交通の便	-0.01

【蒲田地域】

全体と比較すると、ベスト3では、「交通の便」が0.27ポイント上回り1位、「買い物の便」が0.24ポイント上回り2位、「スポーツ・レクリエーション施設の数」が0.14ポイント上回り3位となっている。

一方、ワースト3では、「治安のよさ」が1位、「町並み・景観」が2位、「災害時の安全性」が3位となっている。(図2-2-5、表2-2-3)

図2-2-5 生活環境の満足度－【蒲田地域】(全体との評価点の比較)

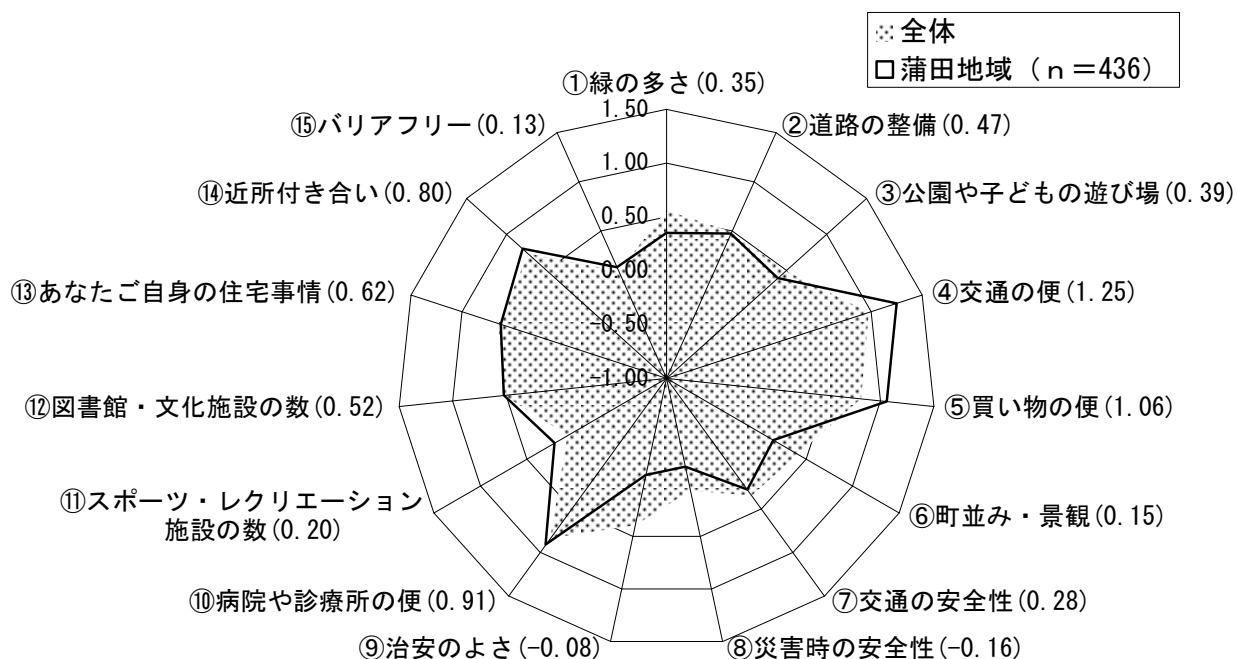


表2-2-3 生活環境の満足度－【蒲田地域】(全体との評価点の差ベスト3・ワースト3)

全体との差	1 位		2 位		3 位	
ベスト3	④交通の便	0.27	⑤買い物の便	0.24	⑪スポーツ・レクリエーション施設の数	0.14
ワースト3	⑨治安のよさ	-0.48	⑥町並み・景観	-0.26	⑧災害時の安全性	-0.23

【糞谷・羽田地域】

全体と比較すると、ベスト3では、「図書館・文化施設の数」が0.04ポイント上回り1位、「スポーツ・レクリエーション施設の数」が0.03ポイント上回り2位、「公園や子どもの遊び場」が0.01ポイント下回っているものの3位となっている。

一方、ワースト3では、「交通の便」、「町並み・景観」、「治安のよさ」が1位となっている。

(図2-2-6、表2-2-4)

図2-2-6 生活環境の満足度－【糞谷・羽田地域】（全体との評価点の比較）

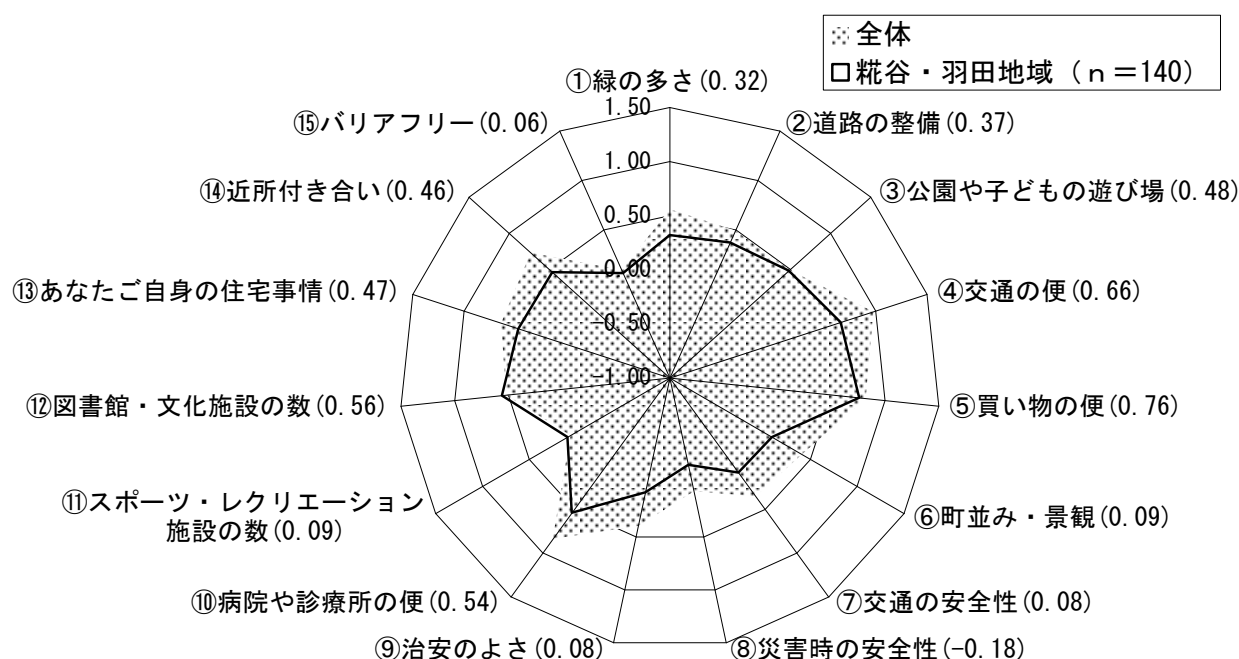


表2-2-4 生活環境の満足度－【糞谷・羽田地域】（全体との評価点の差ベスト3・ワースト3）

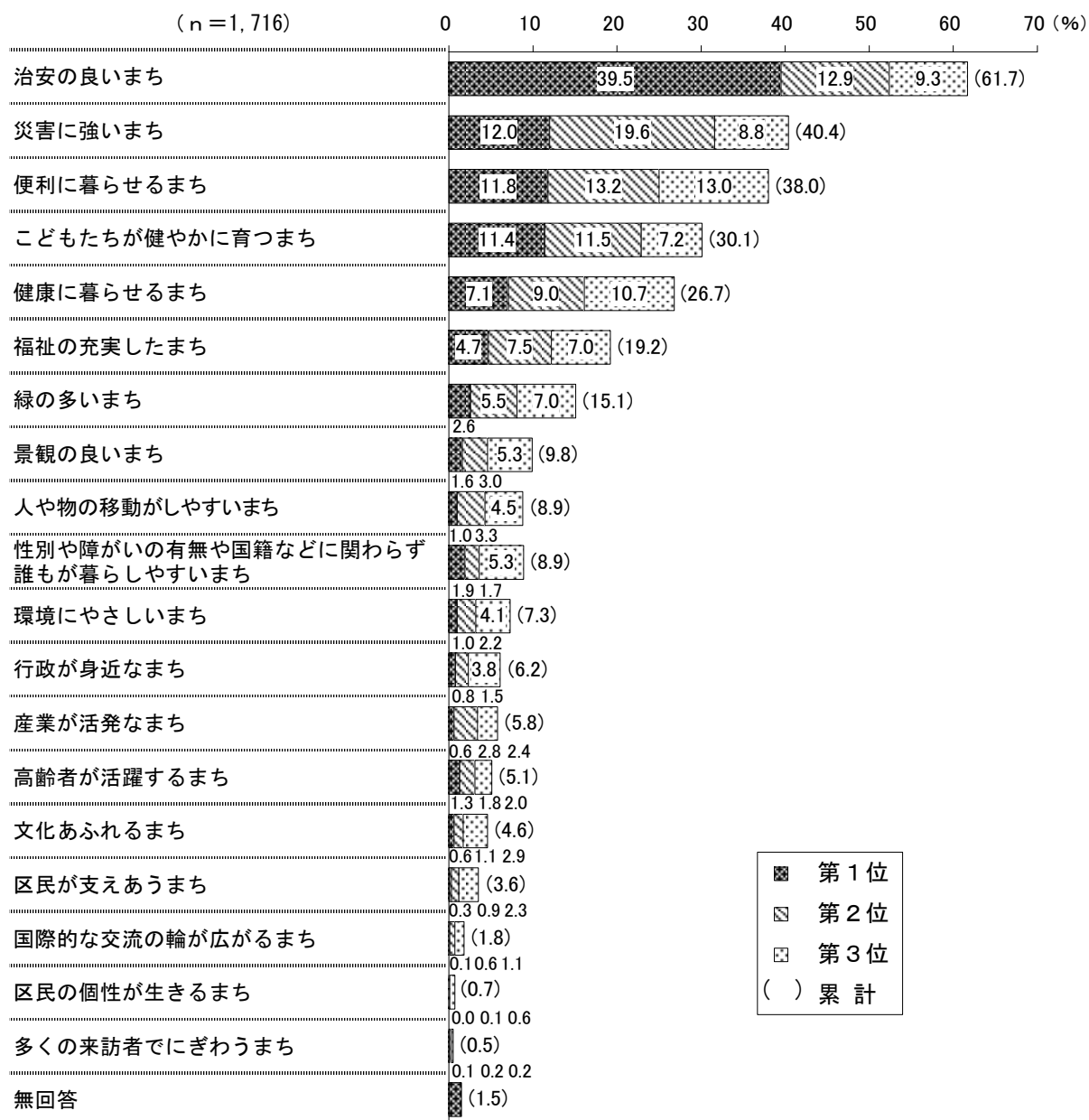
全体との差	1 位	2 位	3 位
ベスト3	⑫図書館・文化施設の数 0.04	⑪スポーツ・レクリエーション施設の数 0.03	③公園や子どもの遊び場 -0.01
ワースト3	④交通の便／⑥町並み・景観／⑨治安のよさ		
			-0.32

(3) 住んでいるまちにどのようなようになってほしいか

◇第1位から第3位までを合わせた《累計》では「治安の良いまち」が6割を超える

問6 あなたは、現在住んでいるまちに対して、今後、どのようなまちになってほしいとお考えですか。(1位から3位まで1つずつ選んで、下の回答欄に番号を記入してください)

図2-3-1

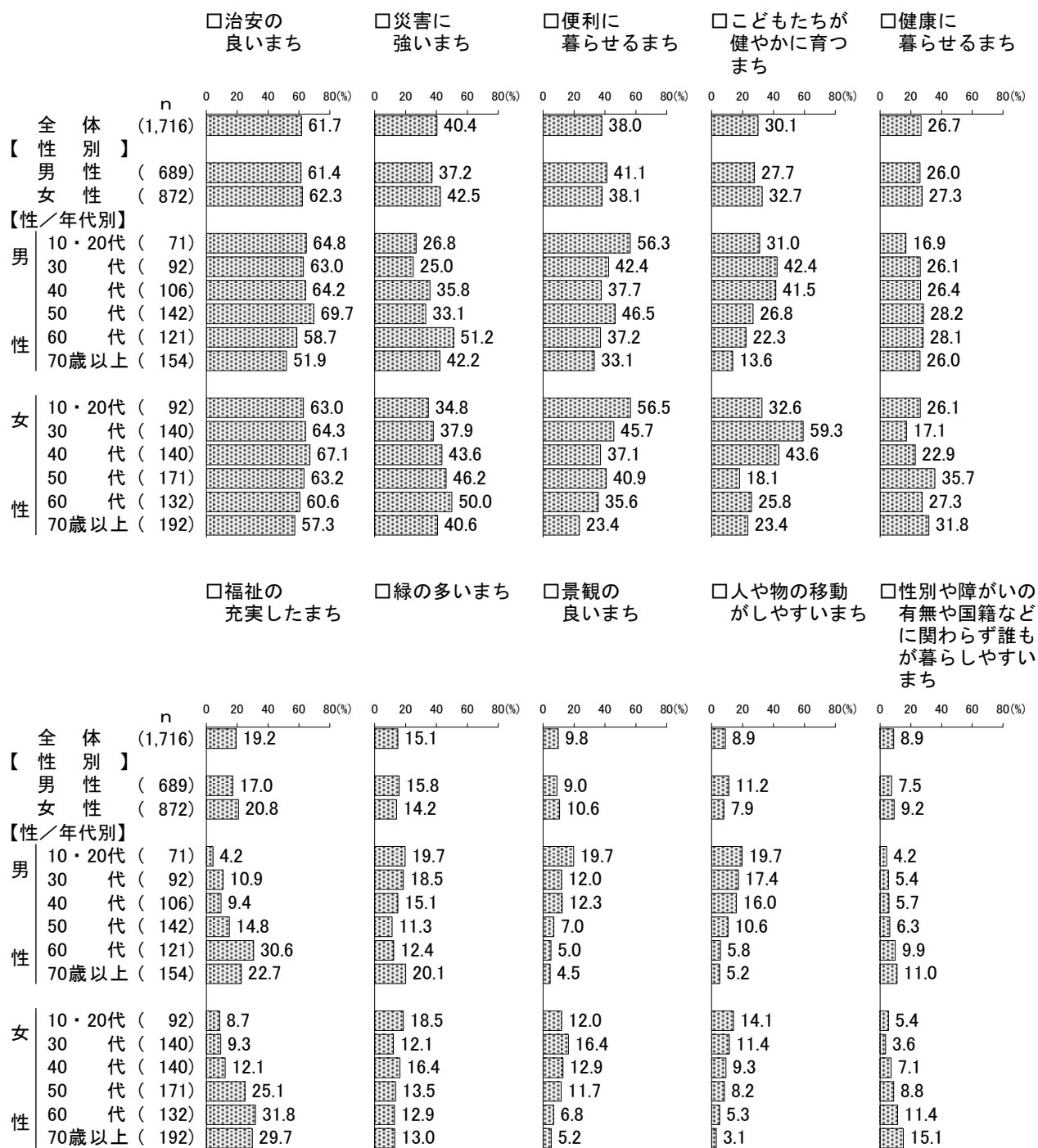


※累計の値は、第1位から第3位までのそれぞれの回答数を合計し、比率を再計算しているため、第1位から第3位までの値の単純な合計値とは、値が異なる場合がある。

住んでいるまちにどのようなようになってほしいか聞いたところ、第1位では「治安の良いまち」(39.5%)が4割で最も高く、次いで「災害に強いまち」(12.0%)などの順になっている。

また、第1位から第3位までを合わせた《累計》でみると、「治安の良いまち」(61.7%)が6割を超えて最も高く、次いで「災害に強いまち」(40.4%)、「便利に暮らせるまち」(38.0%)、「こどもたちが健やかに育つまち」(30.1%)などの順になっている。(図2-3-1)

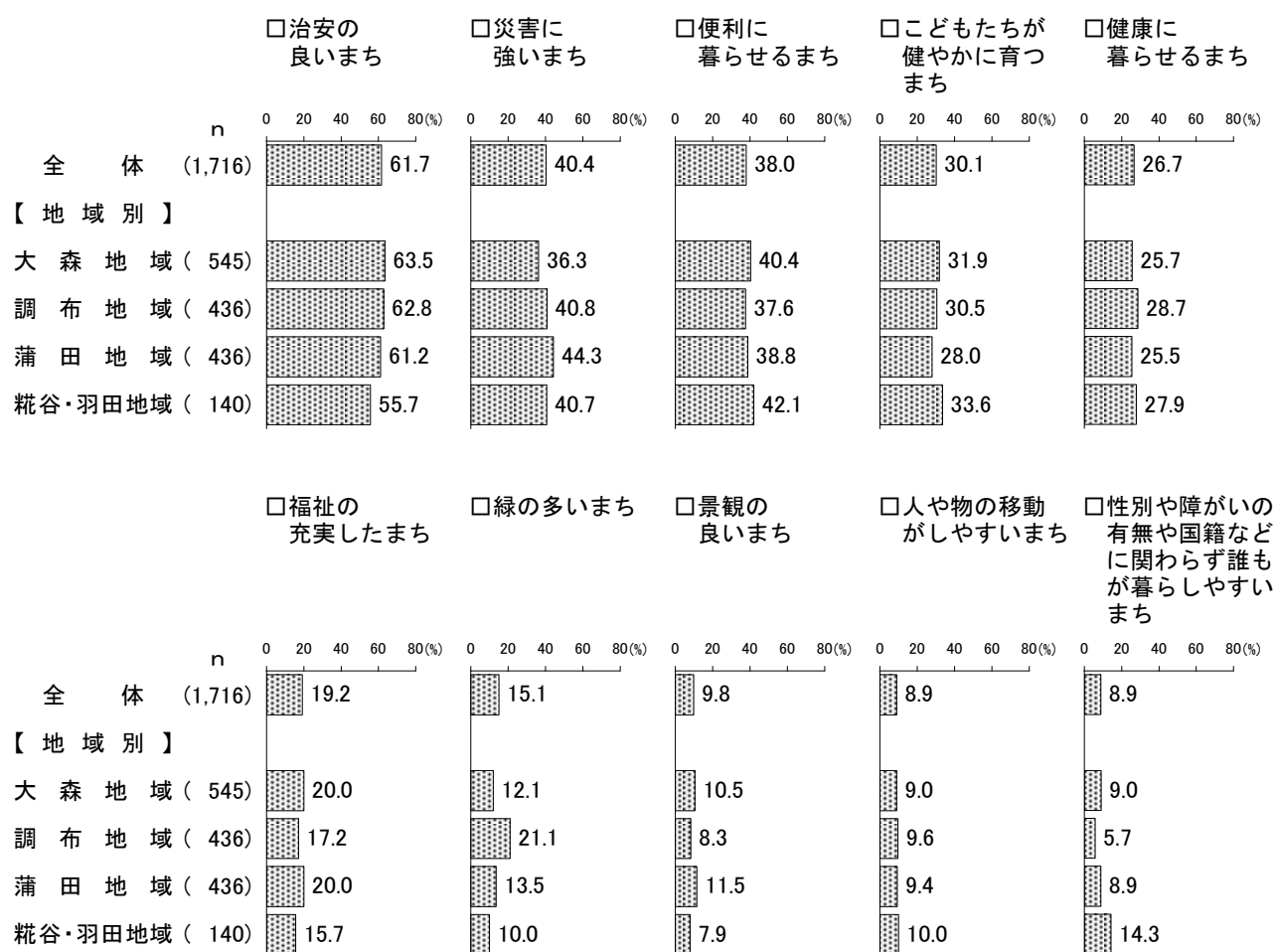
図2-3-2 住んでいるまちにどのようなになってほしいかー性／年代別（累計・上位10項目）



上位10項目を性別で見ると、「災害に強いまち」は女性（42.5%）が男性（37.2%）より5.3ポイント、「子どもたちが健やかに育つまち」は女性（32.7%）が男性（27.7%）より5.0ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「人や物の移動がしやすいまち」は男性（11.2%）が女性（7.9%）より3.3ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「治安の良いまち」は男性50代（69.7%）で7割と高くなっている。「便利に暮らせるまち」は女性10・20代（56.5%）で6割近くと高くなっている。「子どもたちが健やかに育つまち」は女性30代（59.3%）で約6割と高くなっている。（図2-3-2）

図2-3-3 住んでいるまちにどのようなになってほしいかー地域別（累計・上位10項目）



上位10項目を地域別でみると、「災害に強いまち」は蒲田地域（44.3%）で4割半ばと高くなっている。「便利に暮らせるまち」は糀谷・羽田地域（42.1%）で4割を超えて高くなっている。「緑の多いまち」は調布地域（21.1%）で2割を超えて高くなっている。（図2-3-3）

3. 基本目標1 未来を創り出す子どもたちが夢と希望をもって健やかに育つまち

(1) こどもの権利（または「児童の権利に関する条約」）の認知度

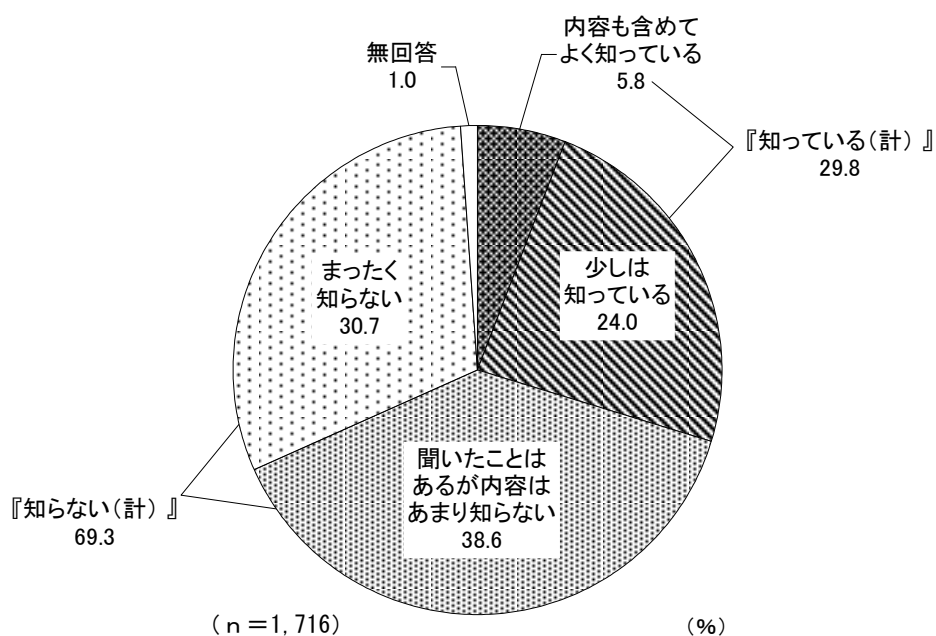
◇「内容も含めてよく知っている」と「少しは知っている」を合わせた『知っている（計）』は3割

問7 こどもの権利（または「児童の権利に関する条約」）について知っていますか。

（○は1つだけ）

※日本を含む世界196の国・地域が締結している「児童の権利に関する条約」では、18歳未満の児童（子ども）を権利を持つ主体と位置づけ、大人と同様、ひとりの人間としての人権を認めるとともに、成長の過程で特別な保護や配慮が必要な子どもならではの権利も定めています。4つの大切な考え方として、①差別の禁止、②こどもの最善の利益、③命を守られ成長できること、④こどもの意見の尊重、があります。

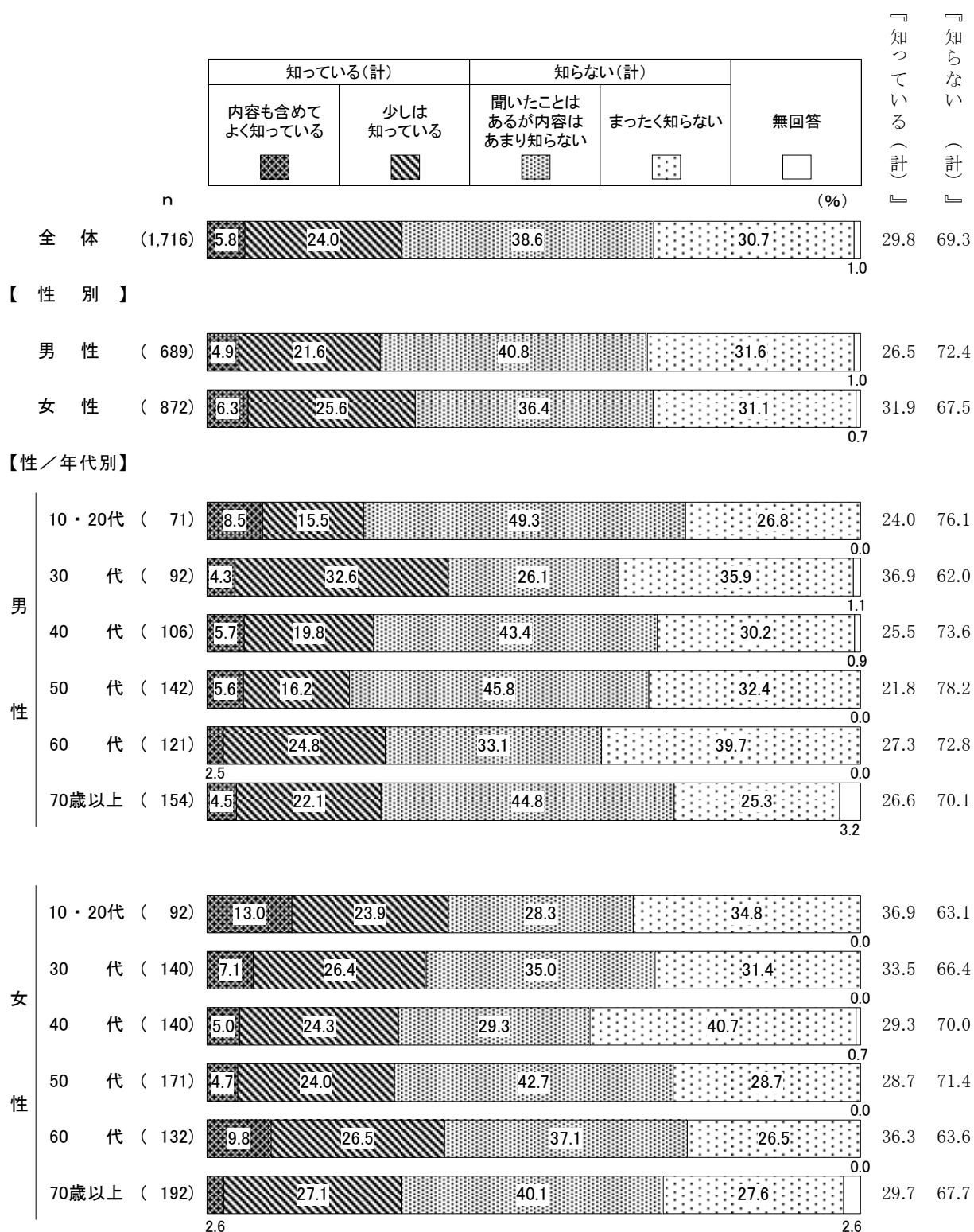
図3-1-1



こどもの権利（または「児童の権利に関する条約」）について知っているか聞いたところ、「内容も含めてよく知っている」(5.8%)と「少しは知っている」(24.0%)を合わせた『知っている（計）』(29.8%)は3割となっている。一方、「聞いたことはあるが内容はあまり知らない」(38.6%)と「まったく知らない」(30.7%)を合わせた『知らない（計）』(69.3%)は約7割となっている。

(図3-1-1)

図3-1-2 こどもの権利（または「児童の権利に関する条約」）の認知度－性／年代別

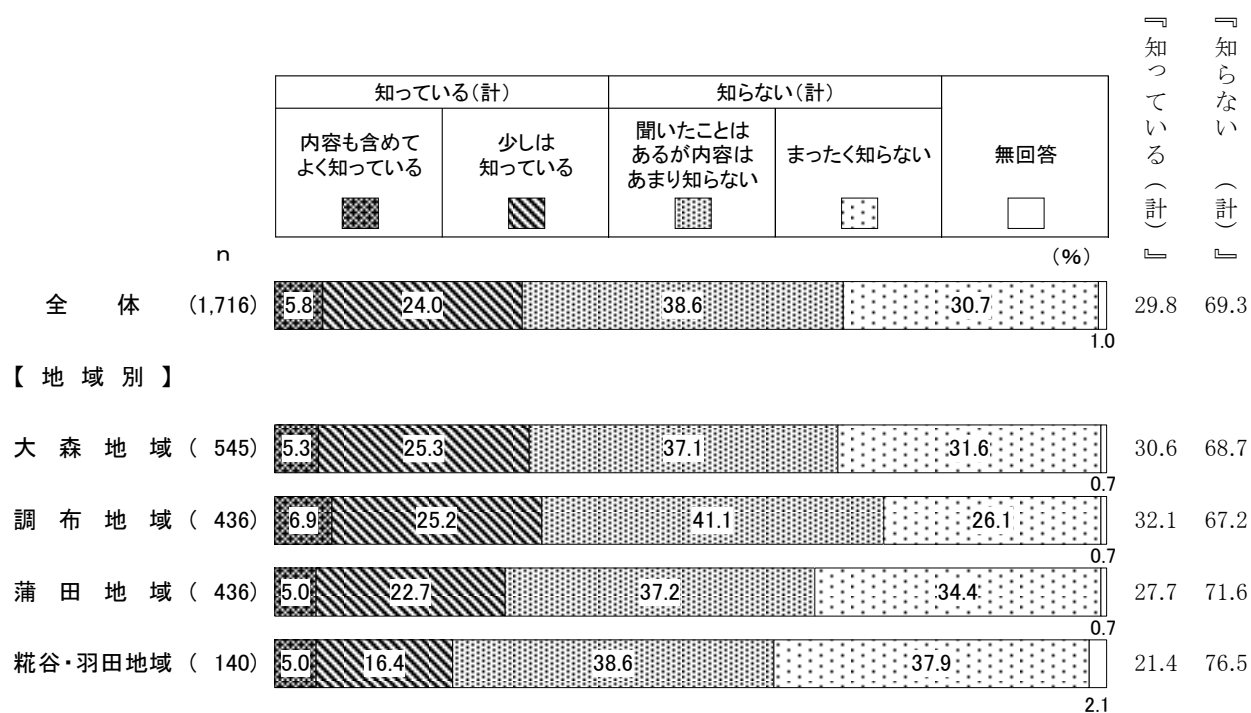


性別でみると、『知っている（計）』は女性（31.9％）が男性（26.5％）より5.4ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『知っている（計）』は男性30代と女性10・20代（ともに36.9％）で4割近くと高くなっている。一方、『知らない（計）』は男性50代（78.2％）で8割近くと高くなっている。

（図3-1-2）

図 3-1-3 こどもの権利（または「児童の権利に関する条約」）の認知度—地域別



地域別でみると、『知っている（計）』は調布地域（32.1%）で3割を超えて高くなっている。一方、『知らない（計）』は糀谷・羽田地域（76.5%）で8割近くと高くなっている。（図3-1-3）

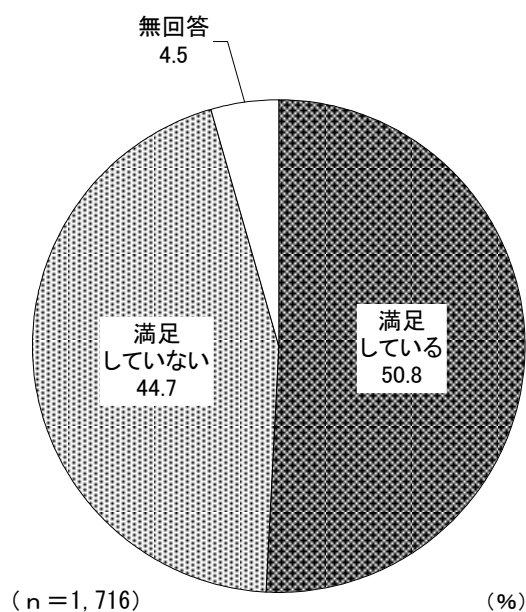
4. 基本目標2 文化を伝え育み誰もが笑顔でいきいき暮らすまち

(1) 区内の歴史や文化、芸術に親しめる環境、気軽にスポーツ、健康づくりに取り組めたり、自由に学びを深められる環境への満足度

◇「満足している」は約5割

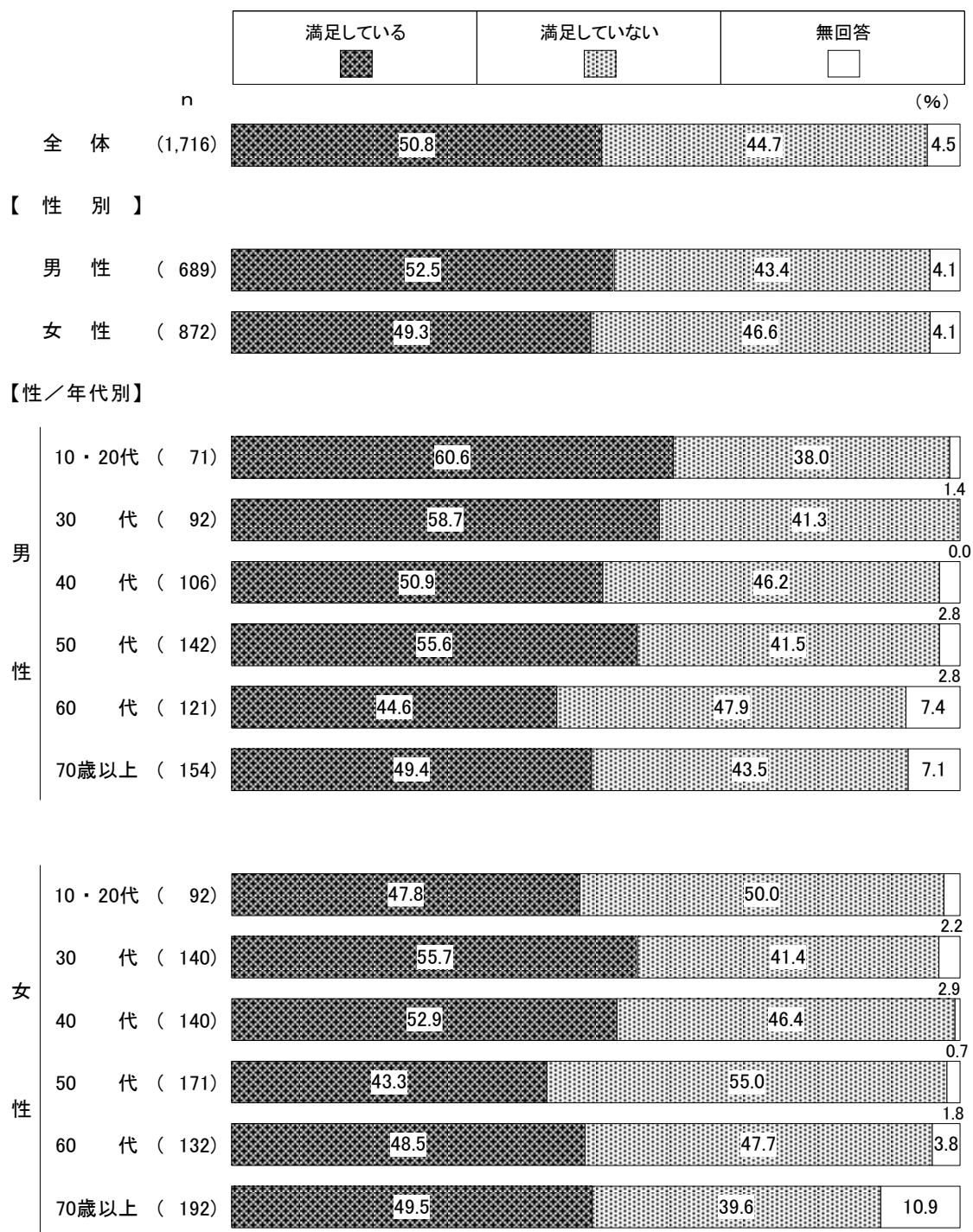
問8 あなたは、区内の歴史や文化、芸術に親しめる環境、気軽にスポーツや健康づくりに取り組めたり、自由に学びを深められたりできる環境に満足していますか。(○は1つだけ)

図4-1-1



区内の歴史や文化、芸術に親しめる環境、気軽にスポーツ、健康づくりに取り組めたり、自由に学びを深められる環境への満足度を聞いたところ、「満足している」(50.8%)が約5割、「満足していない」(44.7%)は4割半ばとなっている。(図4-1-1)

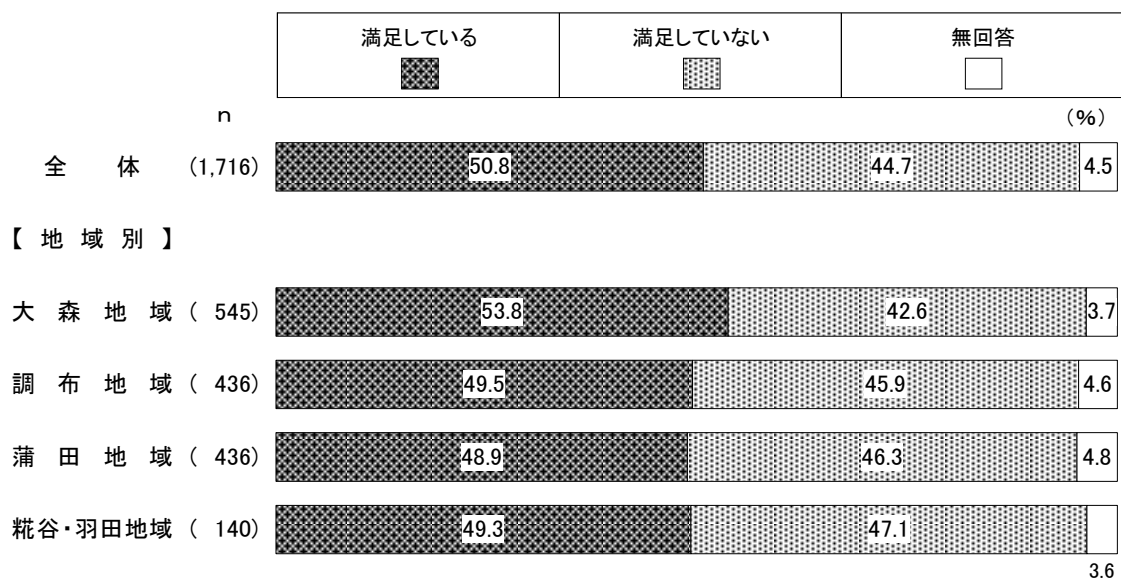
図 4-1-2 区内の歴史や文化、芸術に親しめる環境、気軽にスポーツ、健康づくりに
取り組めたり、自由に学びを深められる環境への満足度－性／年代別



性別でみると、「満足している」は男性（52.5%）が女性（49.3%）より3.2ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「満足している」は男性10・20代（60.6%）で約6割と高くなっている。一方、「満足していない」は女性50代（55.0%）で5割半ばと高くなっている。（図4-1-2）

図 4-1-3 区内の歴史や文化、芸術に親しめる環境、気軽にスポーツ、健康づくりに
取り組めたり、自由に学びを深められる環境への満足度―地域別



地域別でみると、「満足している」は大森地域（53.8%）で5割を超えて高くなっている。一方、「満足していない」は糀谷・羽田地域（47.1%）で5割近くと高くなっている。（図 4-1-3）

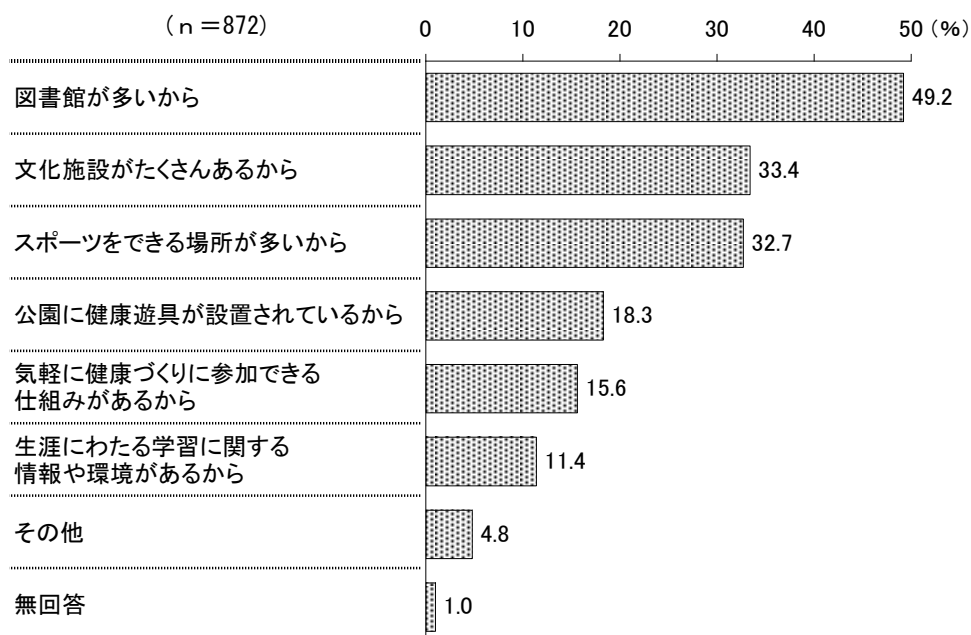
(2) 区内の環境に満足している理由

◇「図書館が多いから」が約5割

(問8で、「満足している」と回答した方に)

問8-1 「満足している」理由は何ですか。(〇はいくつでも)

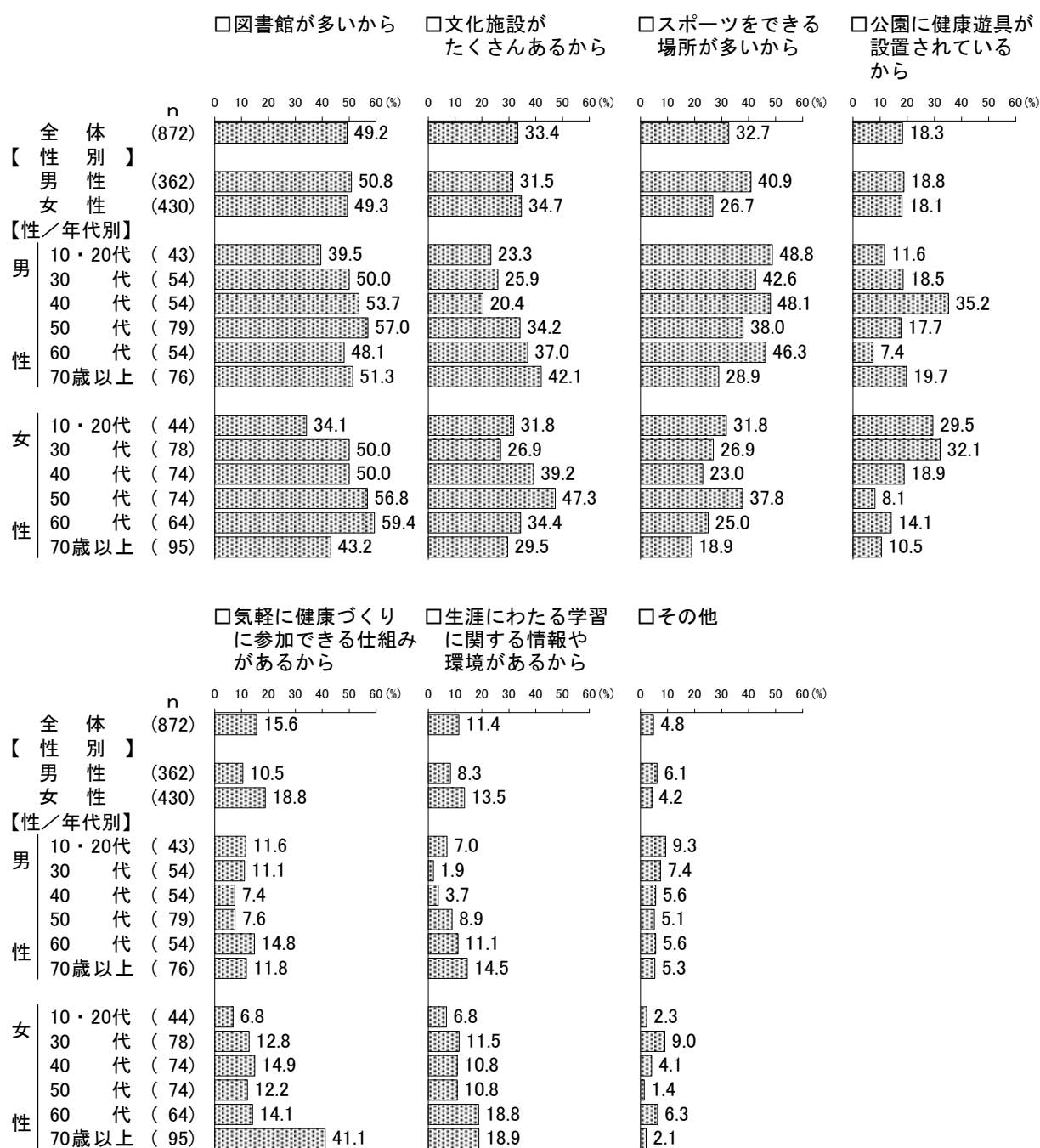
図4-2-1



区内の環境に「満足している」と答えた人(872人)に、その理由を聞いたところ、「図書館が多いから」(49.2%)が約5割で最も高く、次いで「文化施設がたくさんあるから」(33.4%)、「スポーツをできる場所が多いから」(32.7%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「大きな公園があるから」、「特に不満がないから」などがあげられている。(図4-2-1)

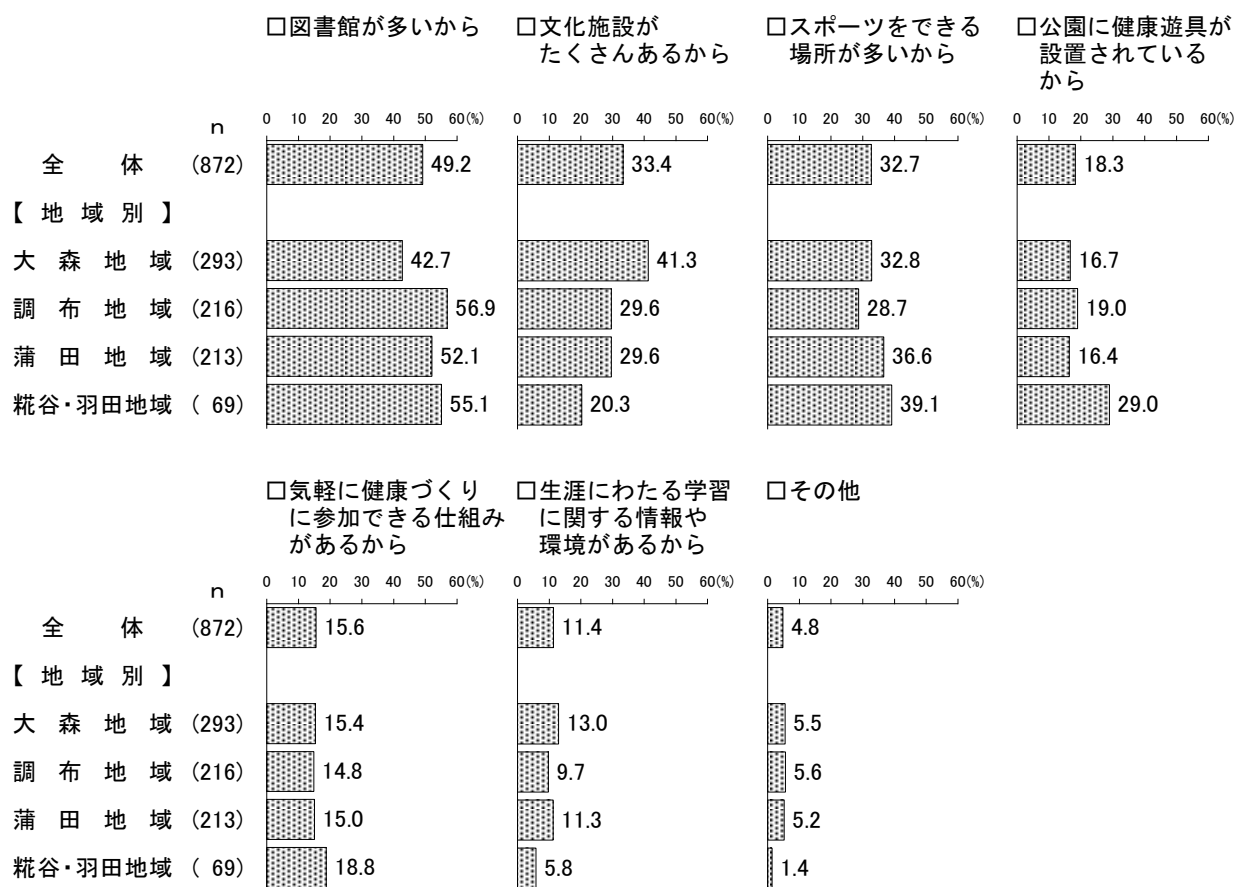
図 4-2-2 区内の環境に満足している理由－性／年代別



性別でみると、「スポーツをできる場所が多いから」は男性（40.9％）が女性（26.7％）より14.2ポイント高くなっている。一方、「気軽に健康づくりに参加できる仕組みがあるから」は女性（18.8％）が男性（10.5％）より8.3ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「図書館が多いから」は女性60代（59.4％）で約6割と高くなっている。「スポーツをできる場所が多いから」は男性10・20代（48.8％）と男性40代（48.1％）で5割近くと高くなっている。「気軽に健康づくりに参加できる仕組みがあるから」は女性70歳以上（41.1％）で4割を超えて高くなっている。（図 4-2-2）

図 4-2-3 区内の環境に満足している理由—地域別



地域別でみると、「図書館が多いから」は調布地域（56.9%）で6割近くと高くなっている。「文化施設がたくさんあるから」は大森地域（41.3%）で4割を超えて高くなっている。「スポーツをできる場所が多いから」は糀谷・羽田地域（39.1%）で約4割と高くなっている。（図4-2-3）

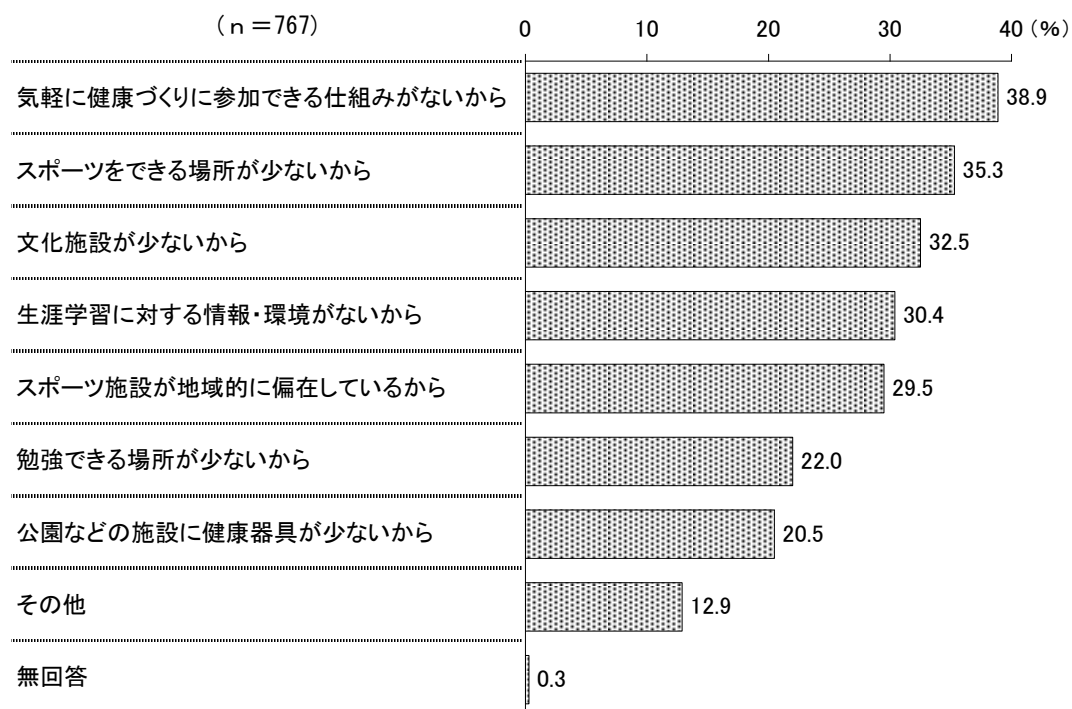
(3) 区内の環境に満足していない理由

◇「気軽に健康づくりに参加できる仕組みがないから」が4割近く

(問8で、「満足していない」と回答した方に)

問8-2 「満足していない」理由は何ですか。(〇はいくつでも)

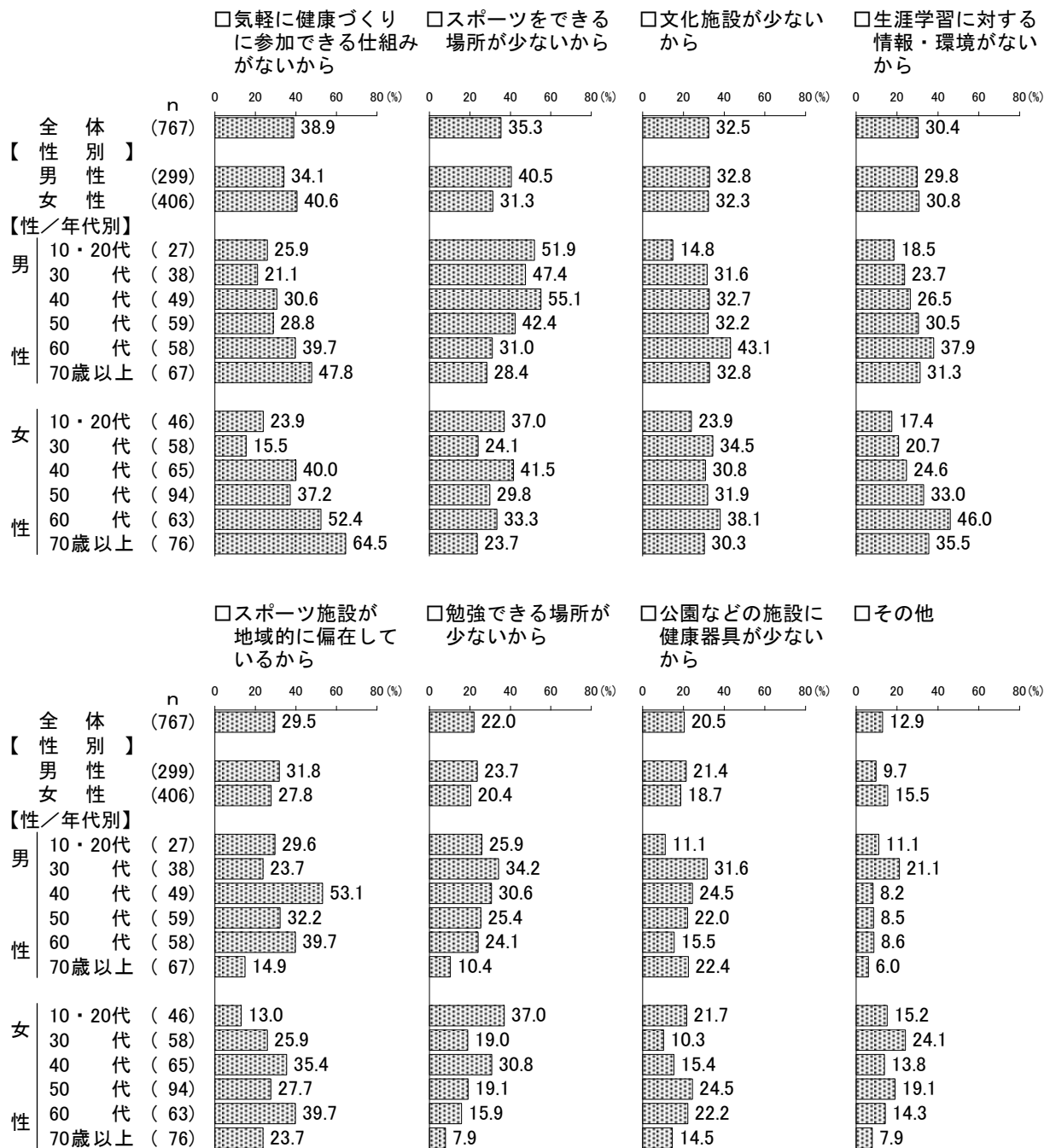
図4-3-1



区内の環境に「満足していない」と答えた人(767人)に、その理由を聞いたところ、「気軽に健康づくりに参加できる仕組みがないから」(38.9%)が4割近くで最も高く、次いで「スポーツをできる場所が少ないから」(35.3%)、「文化施設が少ないから」(32.5%)、「生涯学習に対する情報・環境がないから」(30.4%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「平日日中が多く参加できない」、「興味がない・わからない」などがあげられている。(図4-3-1)

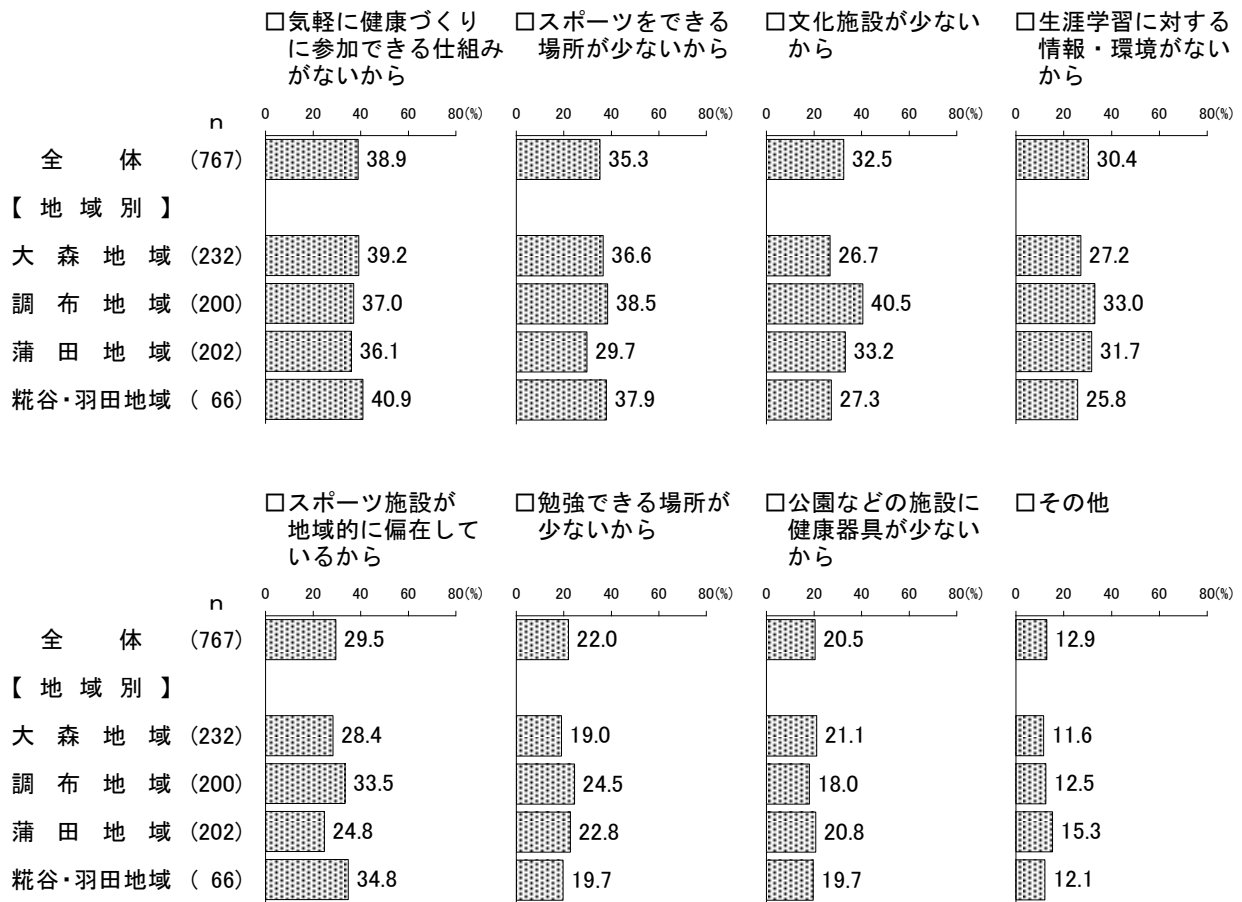
図 4-3-2 区内の環境に満足していない理由－性／年代別



性別でみると、「スポーツをできる場所が少ないから」は男性（40.5%）が女性（31.3%）より9.2ポイント高くなっている。一方、「気軽に健康づくりに参加できる仕組みがないから」は女性（40.6%）が男性（34.1%）より6.5ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「気軽に健康づくりに参加できる仕組みがないから」は女性70歳以上（64.5%）で6割半ばと高くなっている。「スポーツをできる場所が少ないから」は男性40代（55.1%）で5割半ばと高くなっている。「スポーツ施設が地域的に偏在しているから」は男性40代（53.1%）で5割を超えて高くなっている。（図 4-3-2）

図 4-3-3 区内の環境に満足していない理由—地域別



地域別でみると、「気軽に健康づくりに参加できる仕組みがないから」は糀谷・羽田地域（40.9％）と大森地域（39.2％）で約４割と高くなっている。「文化施設が少ないから」は調布地域（40.5％）で約４割と高くなっている。「スポーツ施設が地域的に偏在しているから」は糀谷・羽田地域（34.8％）で３割半ばと高くなっている。（図 4-3-3）

(4) 男女の地位平等

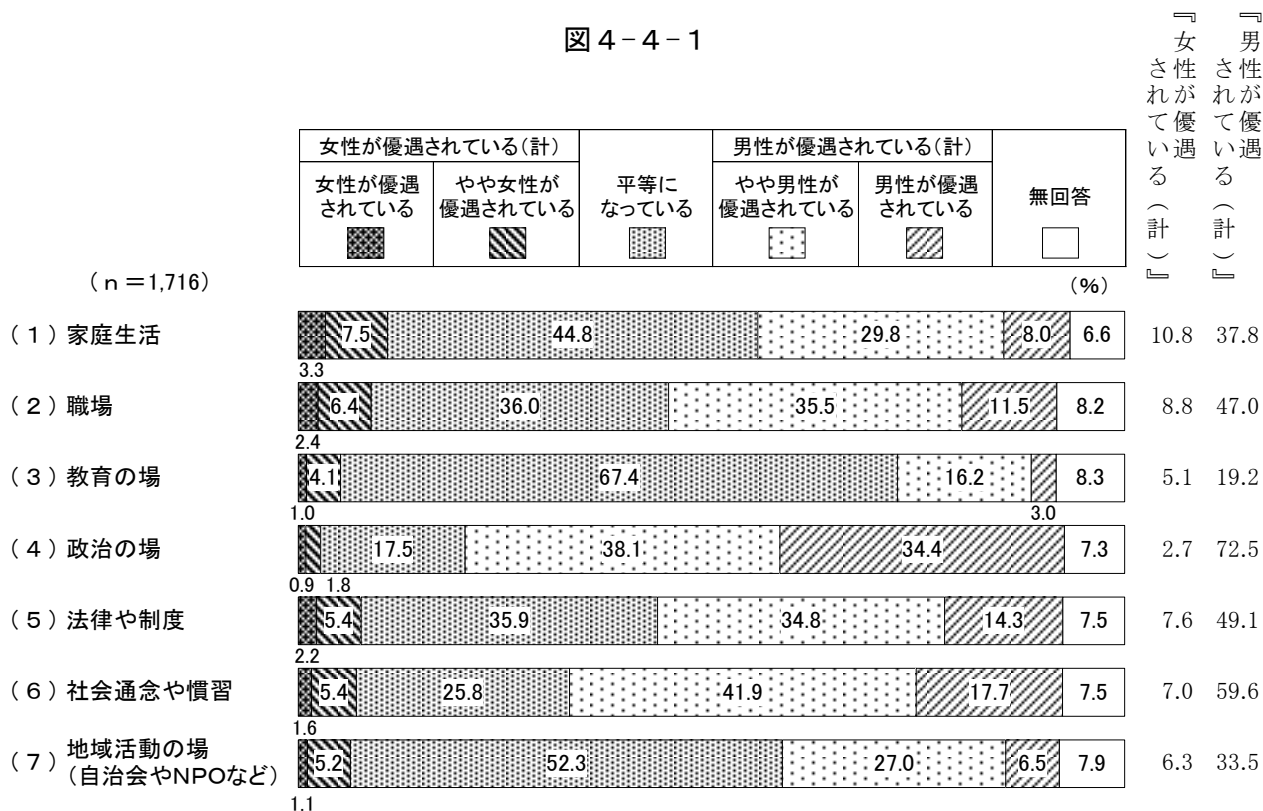
◇「平等になっている」は“教育の場”で7割近く

『男性が優遇されている(計)』は“政治の場”で7割を超える

問9 あなたは、以下の分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。

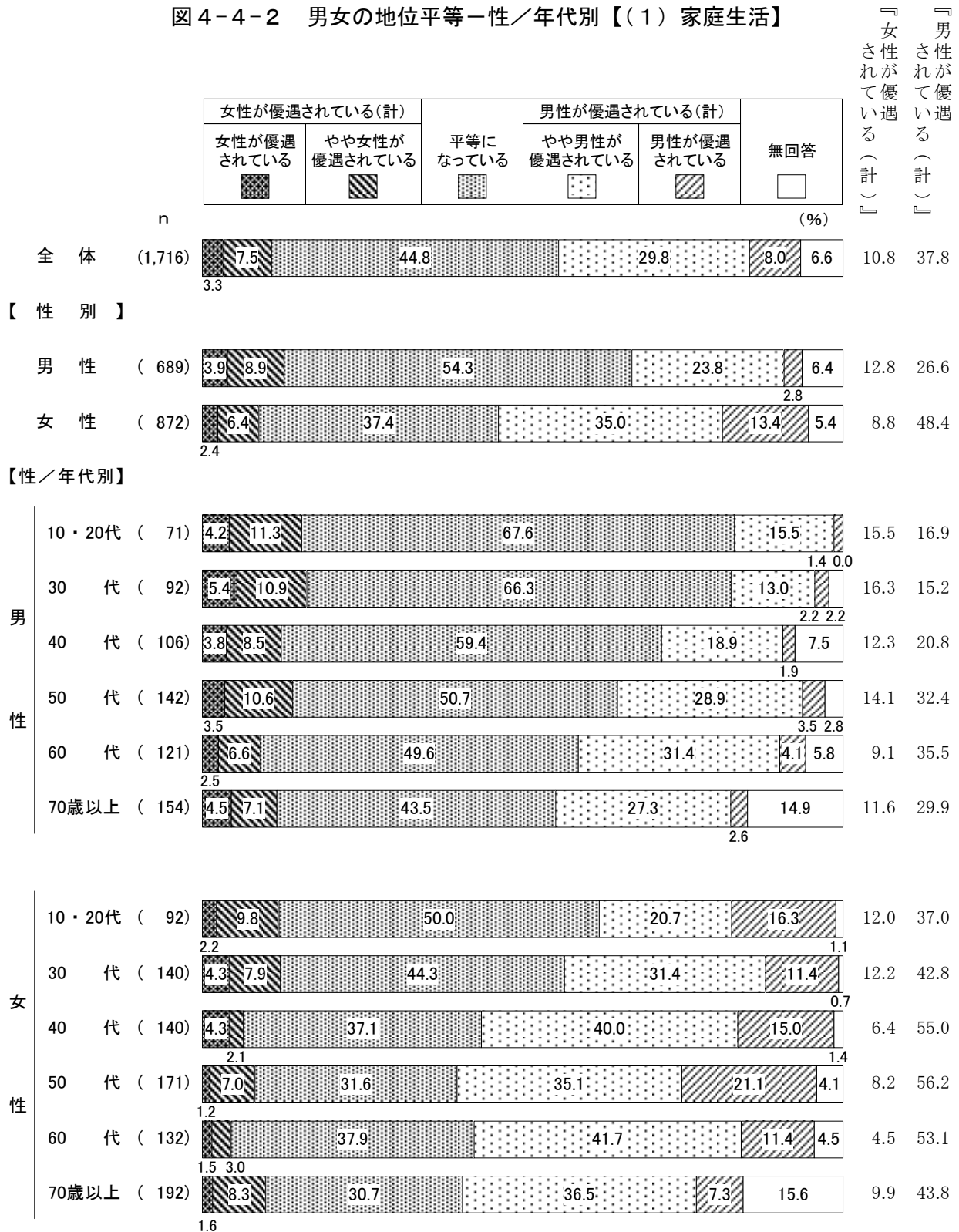
(○はそれぞれ1つ)

図4-4-1



男女の地位について聞いたところ、「女性が優遇されている」と「やや女性が優遇されている」を合わせた『女性が優遇されている(計)』は“家庭生活”(10.8%)で約1割となっている。一方、「やや男性が優遇されている」と「男性が優遇されている」を合わせた『男性が優遇されている(計)』は“政治の場”(72.5%)で7割を超え、“社会通念や慣習”(59.6%)で6割と高くなっている。また、「平等になっている」は“教育の場”(67.4%)で7割近く、“地域活動の場(自治会やNPOなど)”(52.3%)で5割を超えて高くなっている。(図4-4-1)

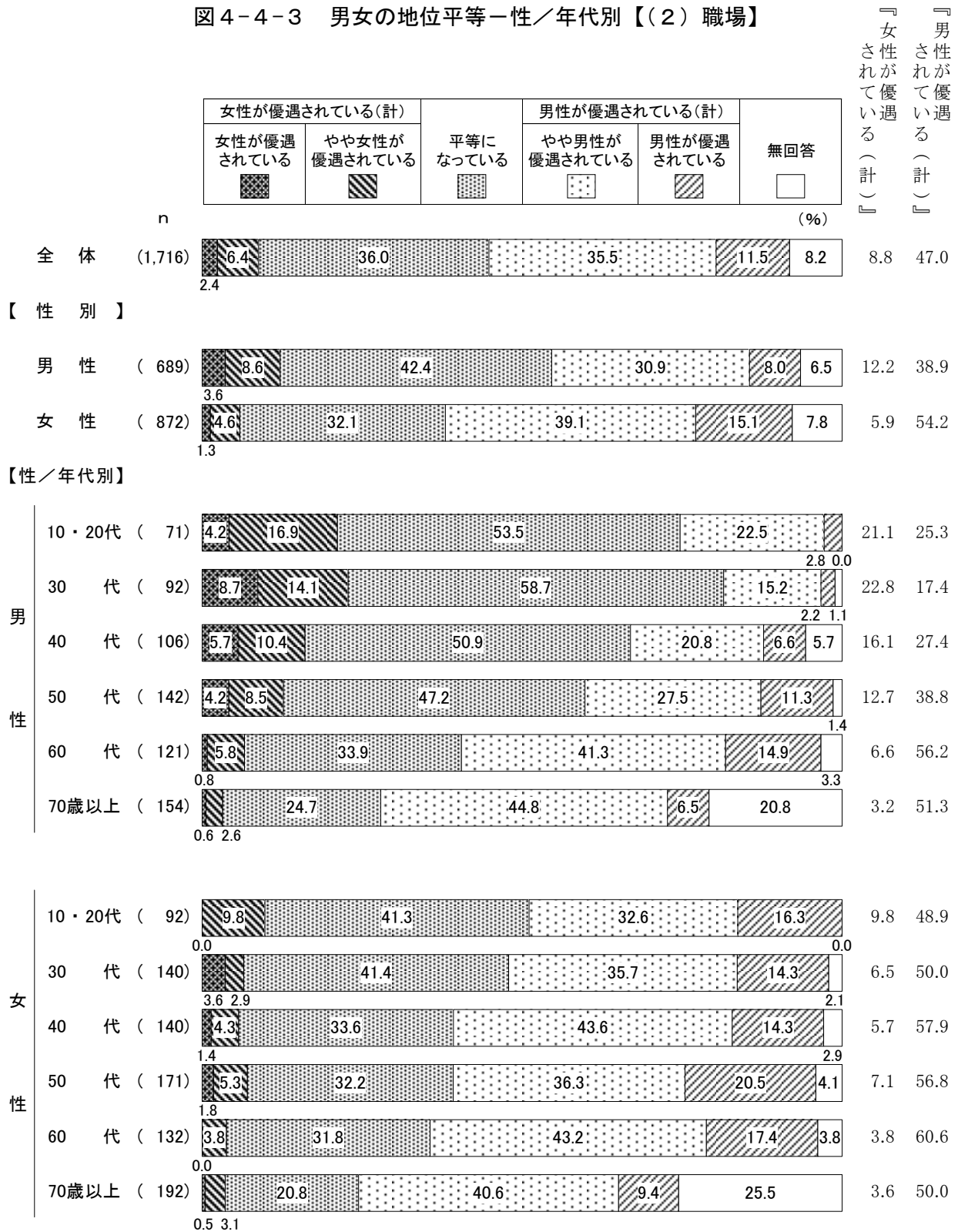
図 4-4-2 男女の地位平等－性／年代別【(1) 家庭生活】



“家庭生活”を性別でみると、『男性が優遇されている(計)』は女性(48.4%)が男性(26.6%)より21.8ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『男性が優遇されている(計)』は女性40代(55.0%)と女性50代(56.2%)で5割半ばと高くなっている。「平等になっている」は男性10・20代(67.6%)で7割近くと高くなっている。(図4-4-2)

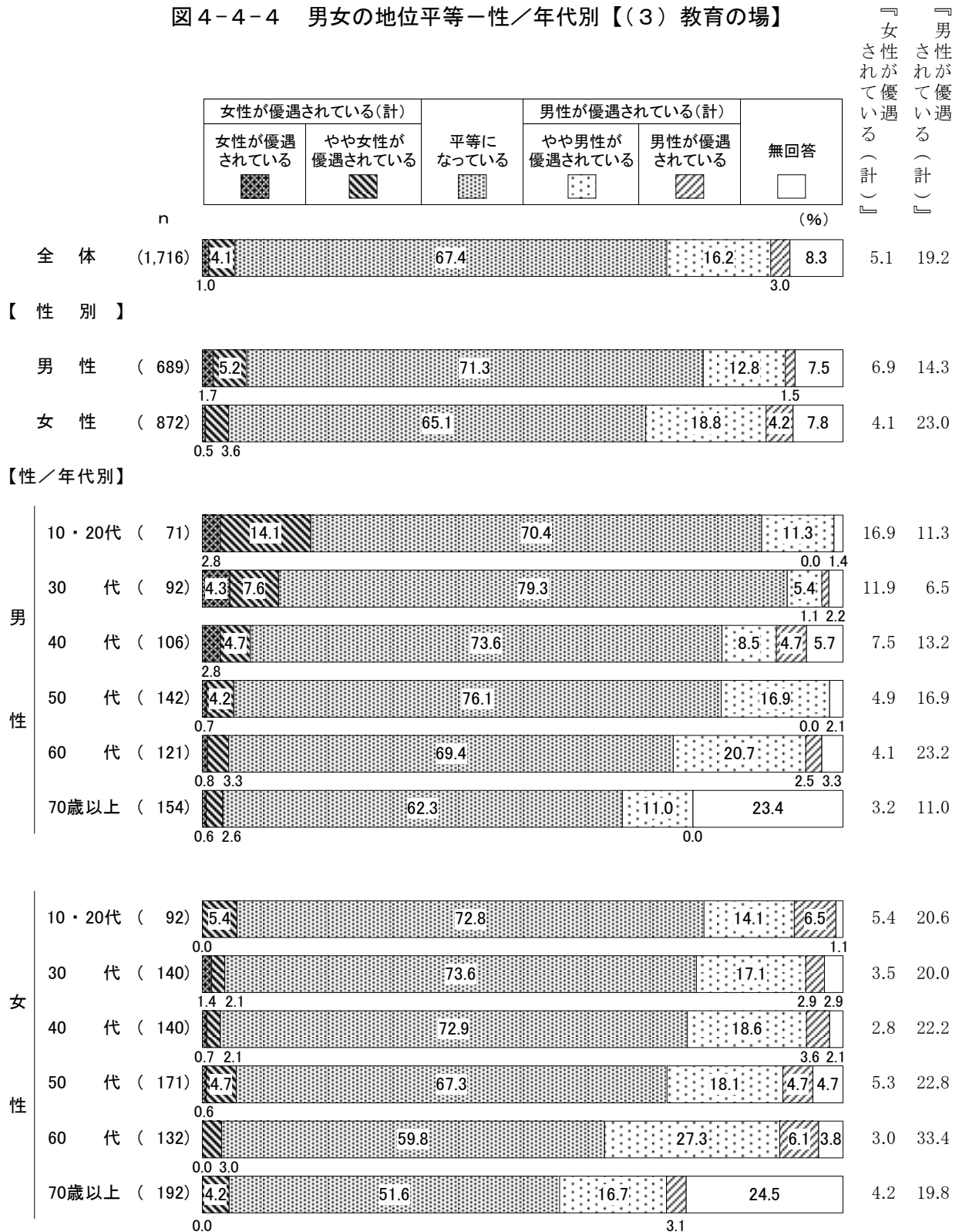
図 4-4-3 男女の地位平等－性／年代別【(2) 職場】



“職場”を性別でみると、『男性が優遇されている(計)』は女性(54.2%)が男性(38.9%)より15.3ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『男性が優遇されている(計)』は女性60代(60.6%)で約6割と高くなっている。「平等になっている」は男性30代(58.7%)で6割近くと高くなっている。(図4-4-3)

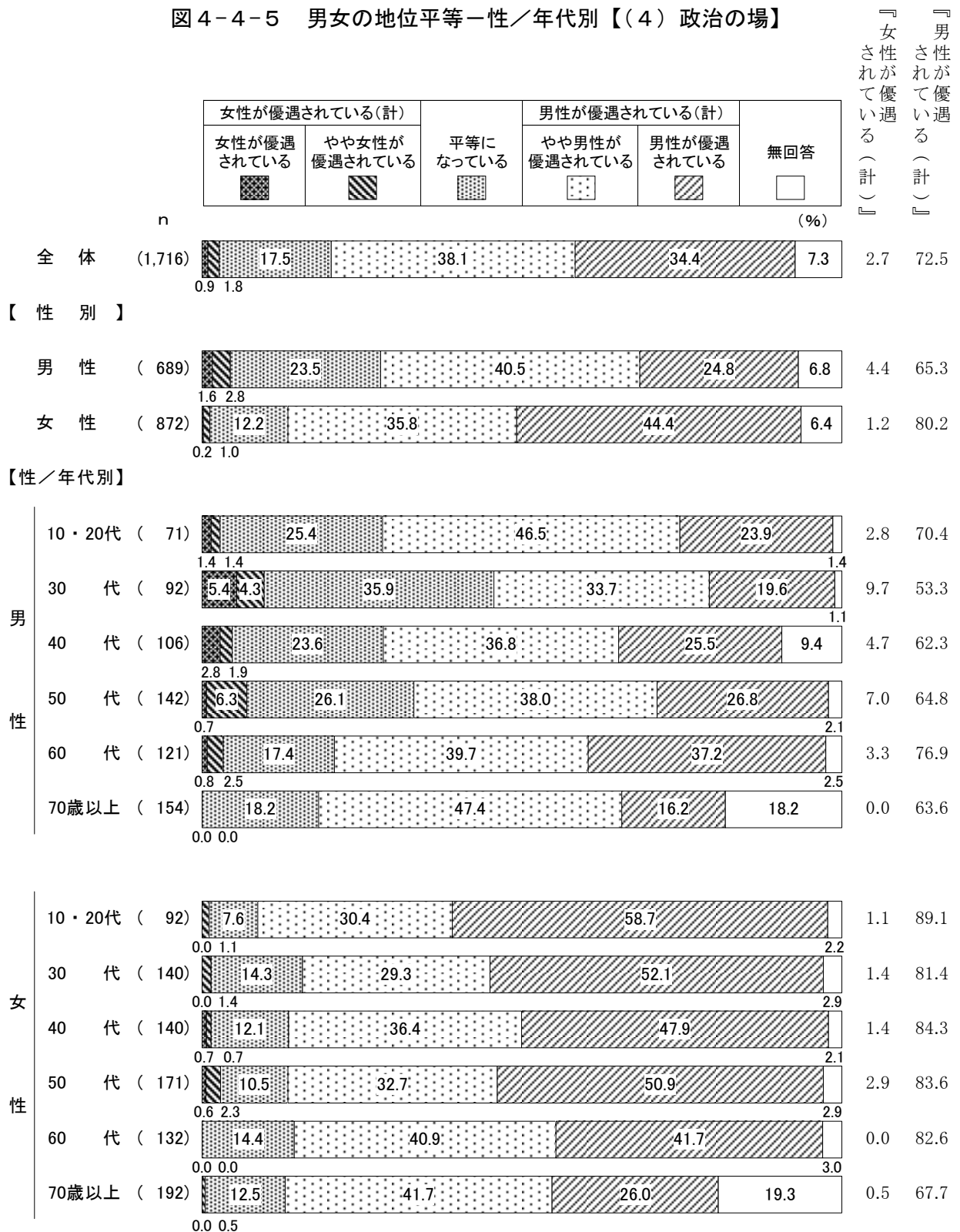
図 4-4-4 男女の地位平等－性／年代別【(3) 教育の場】



“教育の場”を性別でみると、『男性が優遇されている(計)』は女性(23.0%)が男性(14.3%)より8.7ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『男性が優遇されている(計)』は女性60代(33.4%)で3割を超えて高くなっている。「平等になっている」は男性30代(79.3%)で約8割と高くなっている。(図4-4-4)

図 4-4-5 男女の地位平等－性／年代別【（４）政治の場】

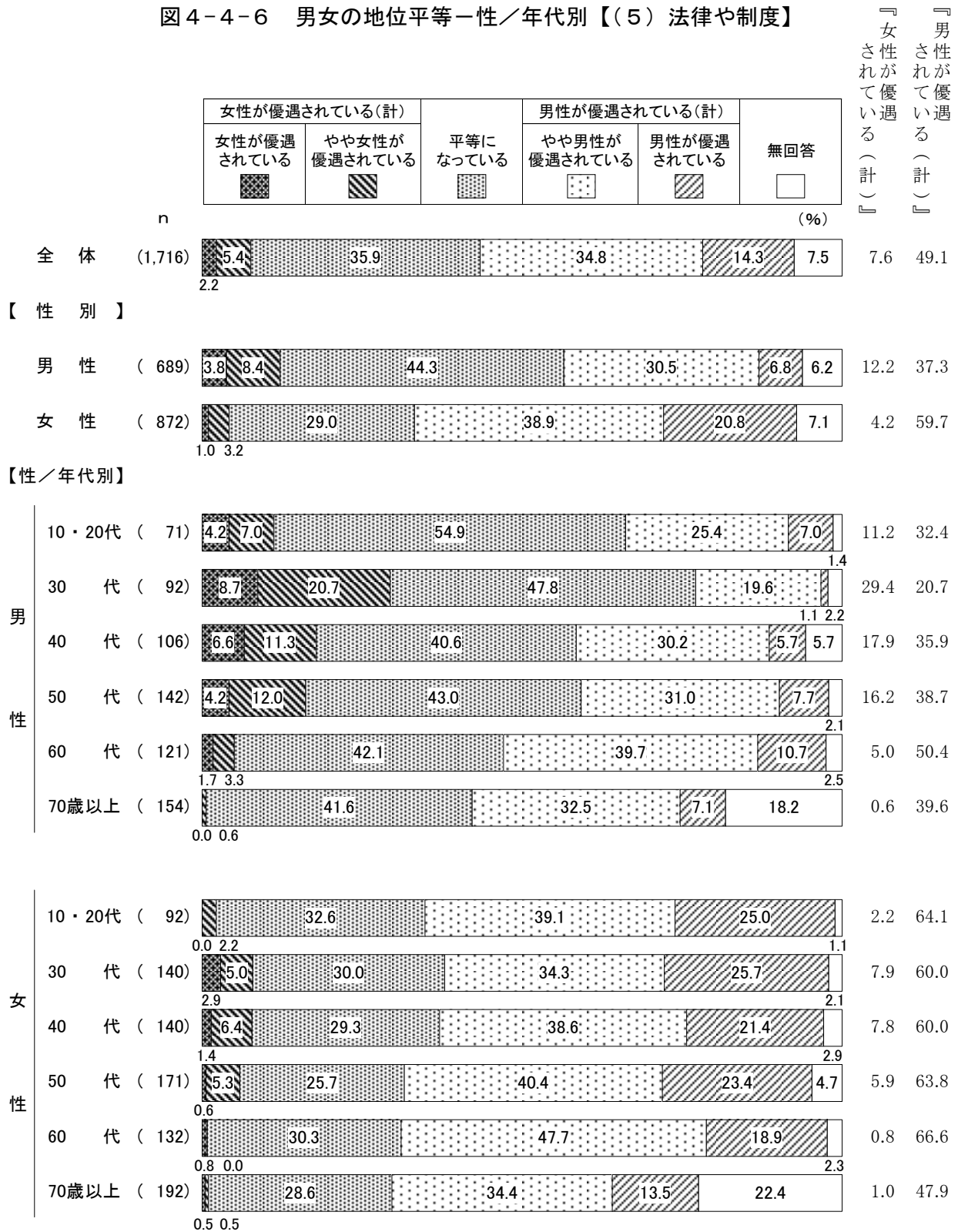


“政治の場”を性別でみると、『男性が優遇されている（計）』は女性（80.2％）が男性（65.3％）より14.9ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『男性が優遇されている（計）』は女性10・20代（89.1％）で約9割と高くなっている。「平等になっている」は男性30代（35.9％）で3割半ばと高くなっている。

（図 4-4-5）

図 4-4-6 男女の地位平等－性／年代別【(5) 法律や制度】

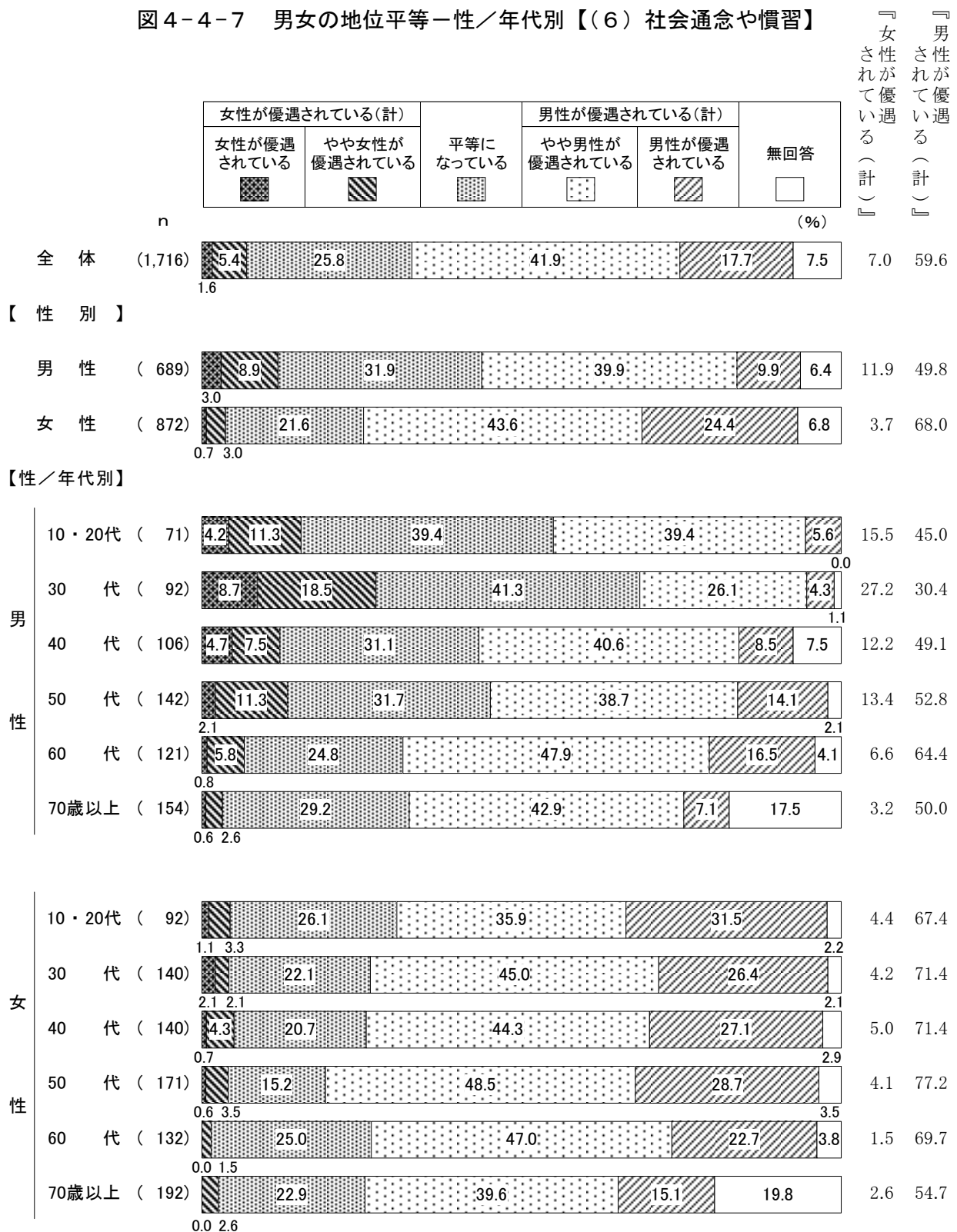


“法律や制度”を性別でみると、『男性が優遇されている(計)』は女性(59.7%)が男性(37.3%)より22.4ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『男性が優遇されている(計)』は女性60代(66.6%)で7割近くと高くなっている。「平等になっている」は男性10・20代(54.9%)で5割半ばと高くなっている。

(図 4-4-6)

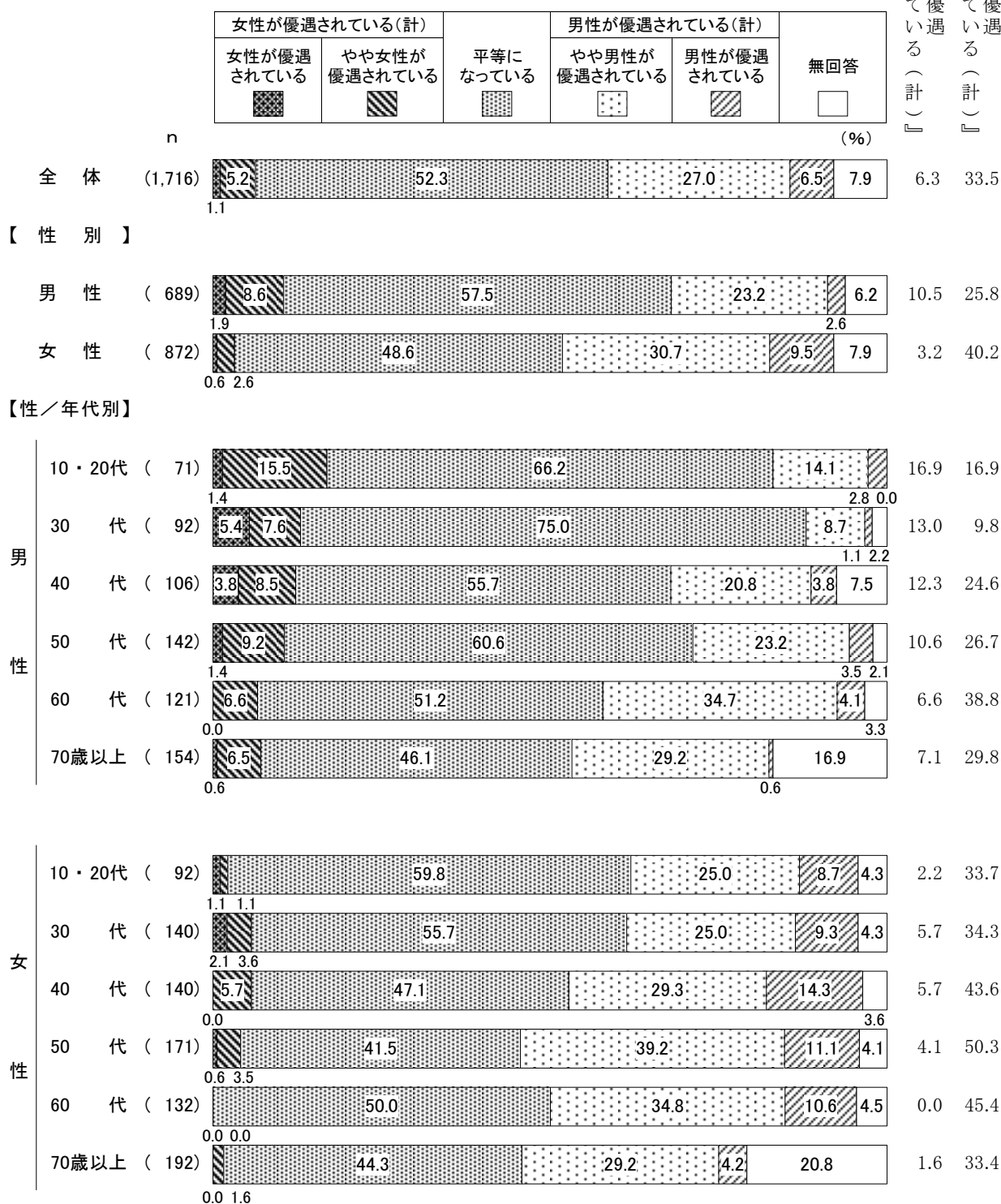
図 4-4-7 男女の地位平等－性／年代別【(6) 社会通念や慣習】



“社会通念や慣習”を性別でみると、『男性が優遇されている(計)』は女性(68.0%)が男性(49.8%)より18.2ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『男性が優遇されている(計)』は女性50代(77.2%)で8割近くと高くなっている。「平等になっている」は男性30代(41.3%)で4割を超えて高くなっている。(図4-4-7)

図 4-4-8 男女の地位平等－性／年代別【(7)地域活動の場(自治会やNPOなど)】『女性
『男性
されが
て優遇
いる
(計)
』
されが
て優遇
いる
(計)
』



“地域活動の場（自治会やNPOなど）”を性別でみると、『男性が優遇されている（計）』は女性（40.2%）が男性（25.8%）より14.4ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『男性が優遇されている（計）』は女性50代（50.3%）で5割と高くなっている。「平等になっている」は男性30代（75.0%）で7割半ばと高くなっている。（図4-4-8）

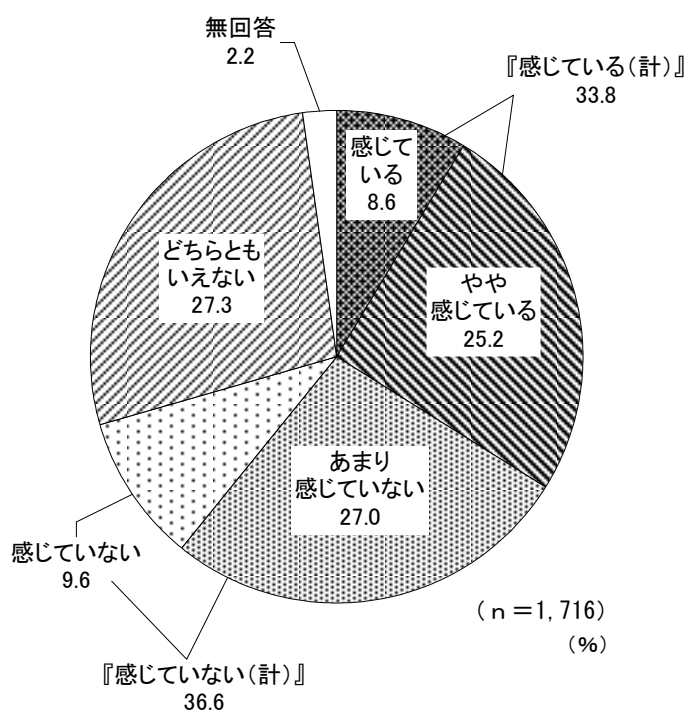
(5) 大田区は国際交流、多文化共生が進んだまちと感じているか

◇「感じている」と「やや感じている」を合わせた『感じている(計)』は3割を超える

問10 大田区は国際交流、多文化共生が進んだまちと感じていますか。(○は1つだけ)

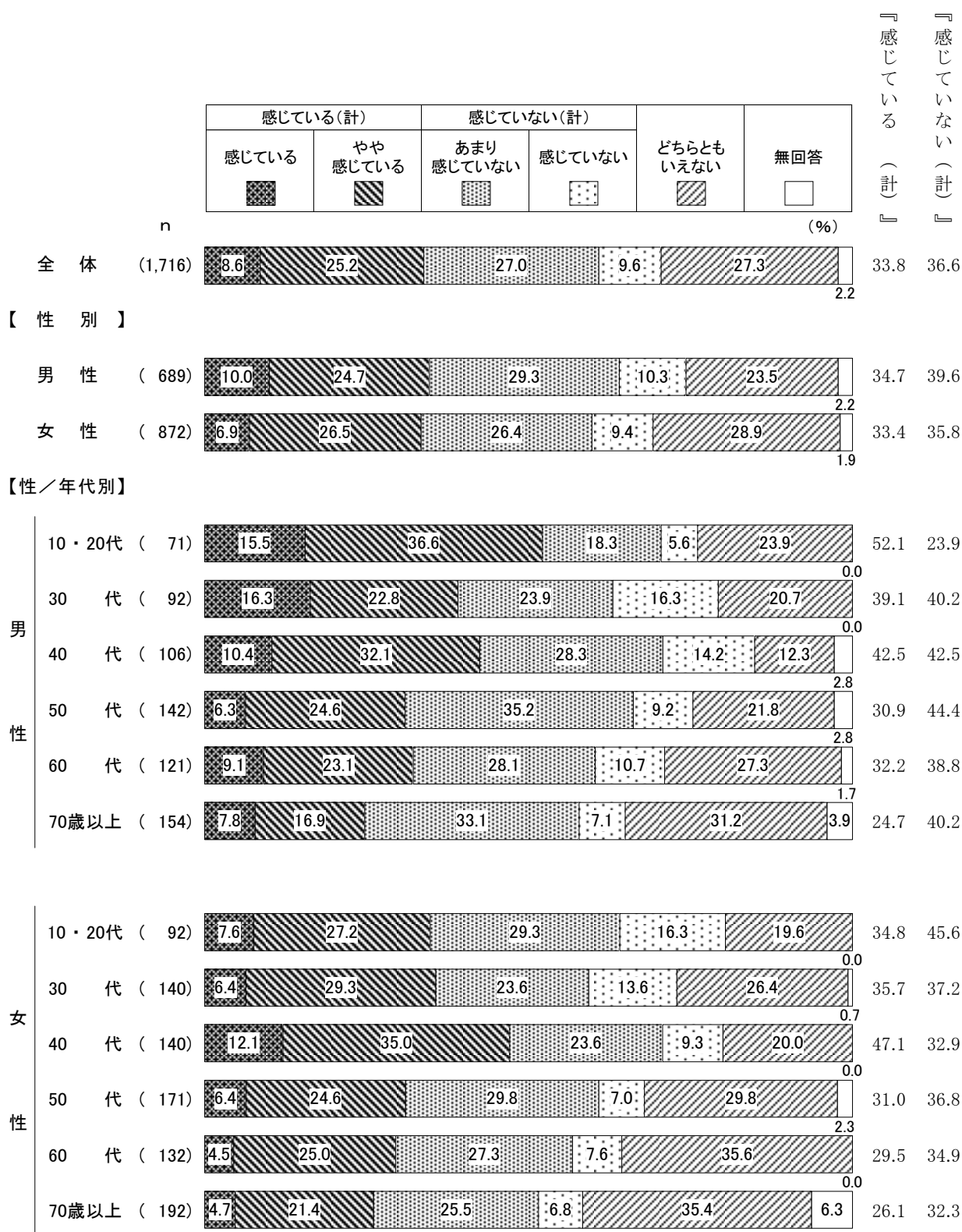
※多文化共生とは、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくことです。

図 4-5-1



大田区は国際交流、多文化共生が進んだまちと感じているか聞いたところ、「感じている」(8.6%)と「やや感じている」(25.2%)を合わせた『感じている(計)』(33.8%)は3割を超えている。一方、「あまり感じていない」(27.0%)と「感じていない」(9.6%)を合わせた『感じていない(計)』(36.6%)は4割近くとなっている。(図 4-5-1)

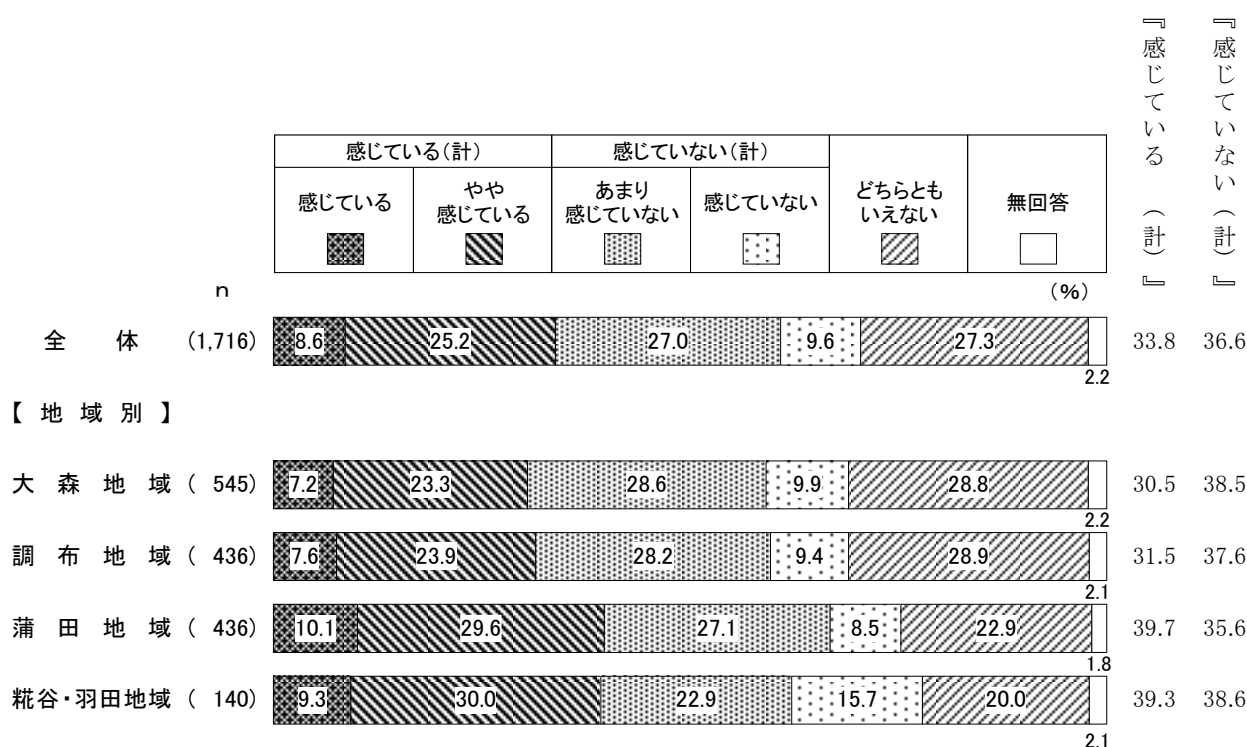
図 4-5-2 大田区は国際交流、多文化共生が進んだまちと感じているかー性／年代別



性別でみると、『感じていない (計)』は男性 (39.6%) が女性 (35.8%) より3.8ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『感じている (計)』は男性10・20代 (52.1%) で5割を超えて高くなっている。一方、『感じていない (計)』は女性10・20代 (45.6%) と男性50代 (44.4%) で4割半ばと高くなっている。(図 4-5-2)

図 4-5-3 大田区は国際交流、多文化共生が進んだまちと感じているかー地域別



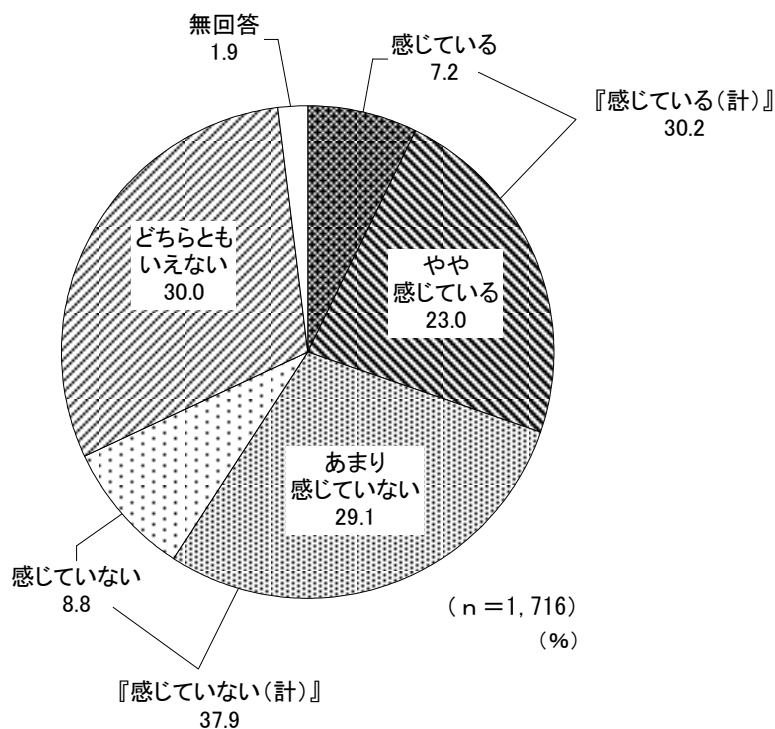
地域別でみると、『感じている(計)』は蒲田地域(39.7%)と糀谷・羽田地域(39.3%)で約4割と高くなっている。(図4-5-3)

(6) 障がいの有無にかかわらず理解しあう環境があると感じているか

◇「感じている」と「やや感じている」を合わせた『感じている(計)』は3割

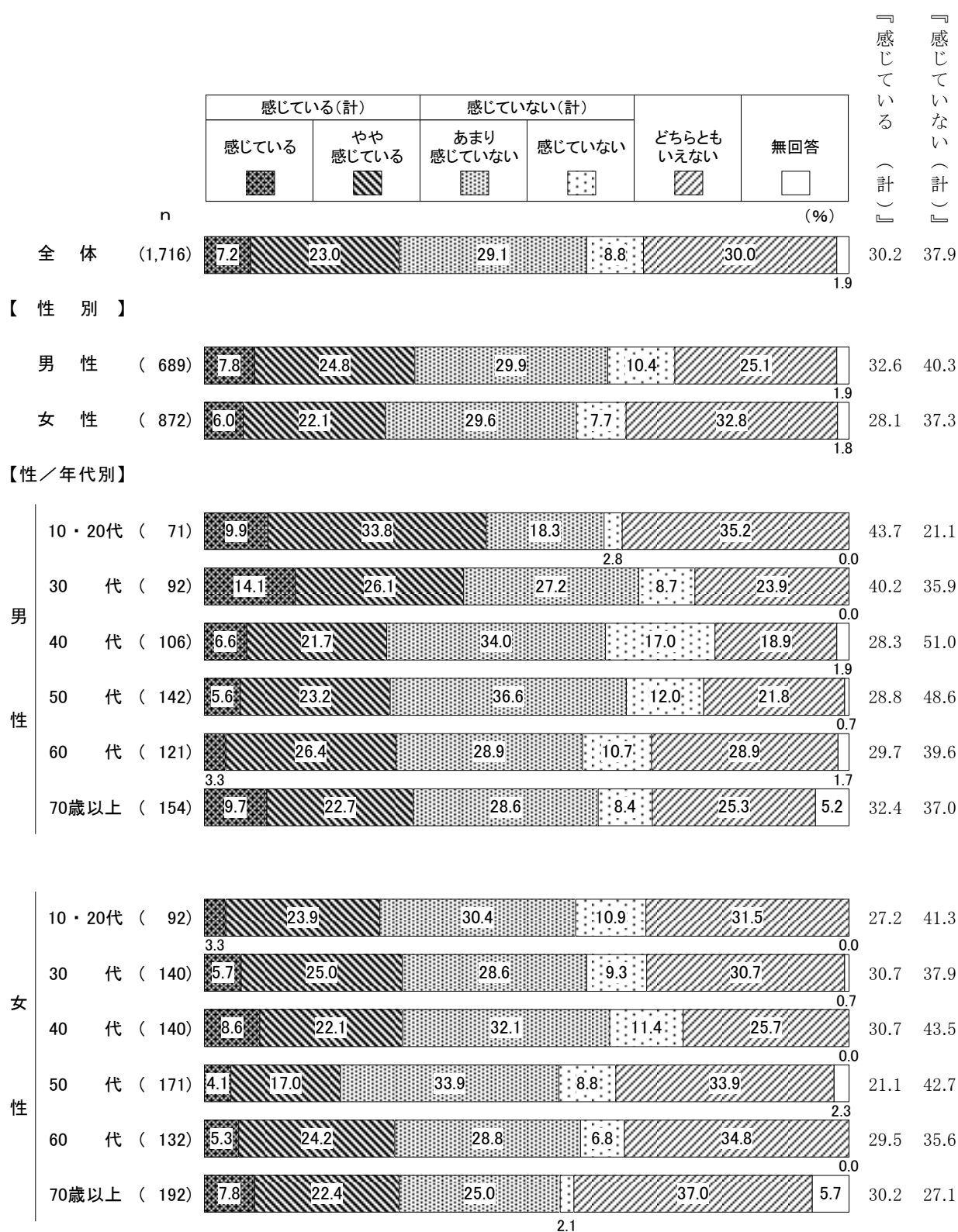
問11 障がいの有無にかかわらず、人々がお互いにその人らしさを理解しあう環境があると感じていますか。(○は1つだけ)

図4-6-1



障がいの有無にかかわらず理解しあう環境があると感じているか聞いたところ、「感じている」(7.2%)と「やや感じている」(23.0%)を合わせた『感じている(計)』(30.2%)は3割となっている。一方、「あまり感じていない」(29.1%)と「感じていない」(8.8%)を合わせた『感じていない(計)』(37.9%)は4割近くとなっている。(図4-6-1)

図 4-6-2 障がいの有無にかかわらず理解しあう環境があると感じているかー性／年代別

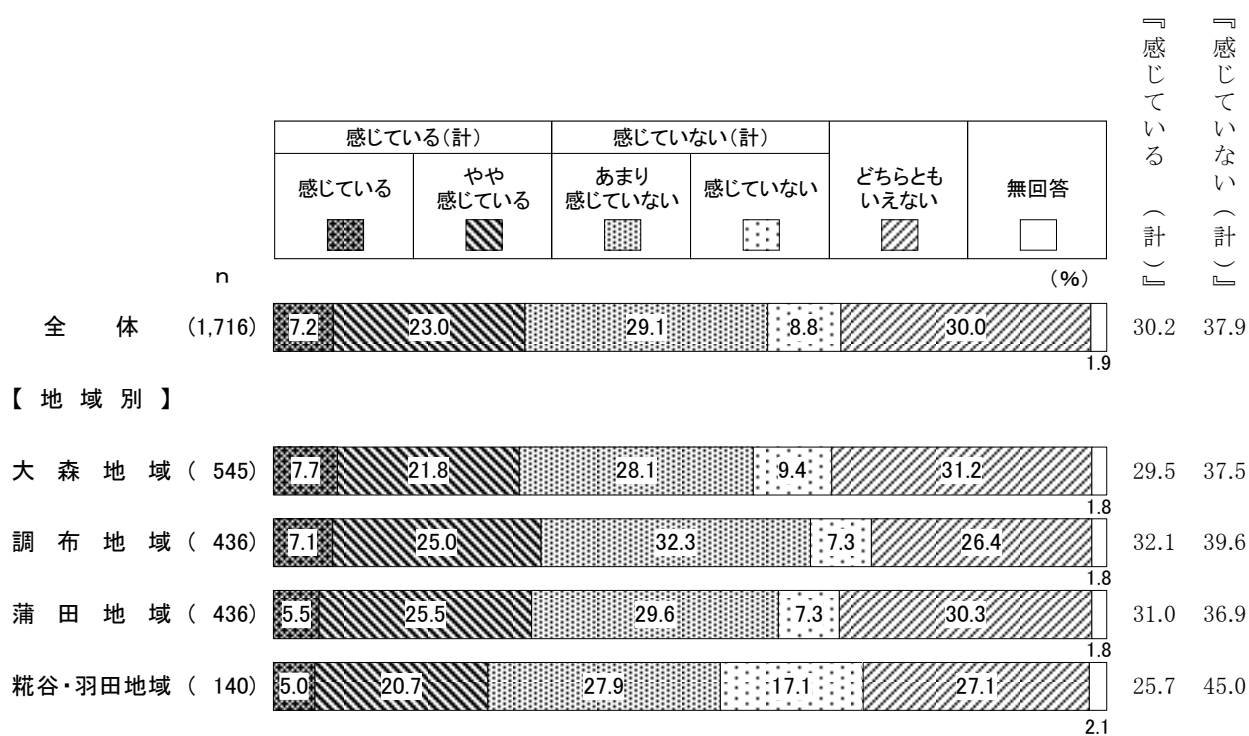


性別でみると、『感じている (計)』は男性 (32.6%) が女性 (28.1%) より4.5ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『感じている (計)』は男性10・20代 (43.7%) で4割を超えて高くなっている。一方、『感じていない (計)』は男性40代 (51.0%) で5割を超えて高くなっている。

(図 4-6-2)

図 4-6-3 障がいの有無にかかわらず理解しあう環境があると感じているかー地域別



地域別でみると、『感じている(計)』は調布地域(32.1%)と蒲田地域(31.0%)で3割を超えて高くなっている。一方、『感じていない(計)』は糀谷・羽田地域(45.0%)で4割半ばと高くなっている。(図4-6-3)

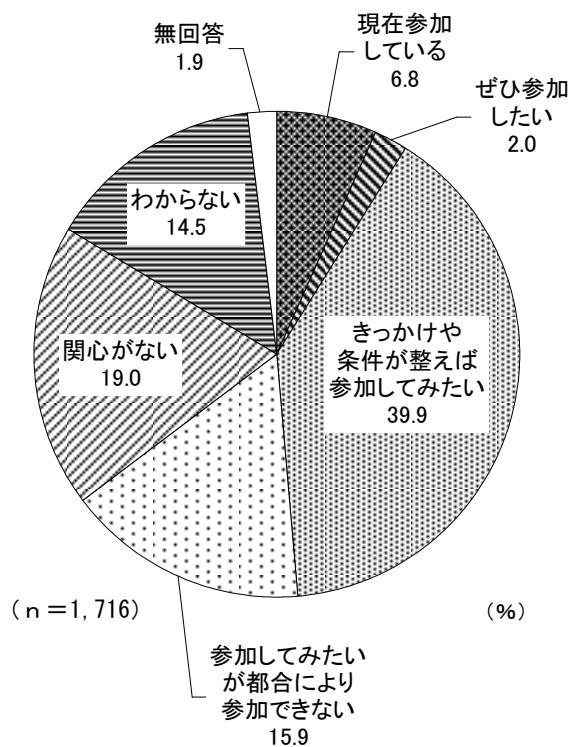
(7) 地域活動への参加意向

◇「きっかけや条件が整えば参加してみたい」が4割

問12 あなたは、現在住んでいるまちで何らかの地域活動に参加したいと思いますか。

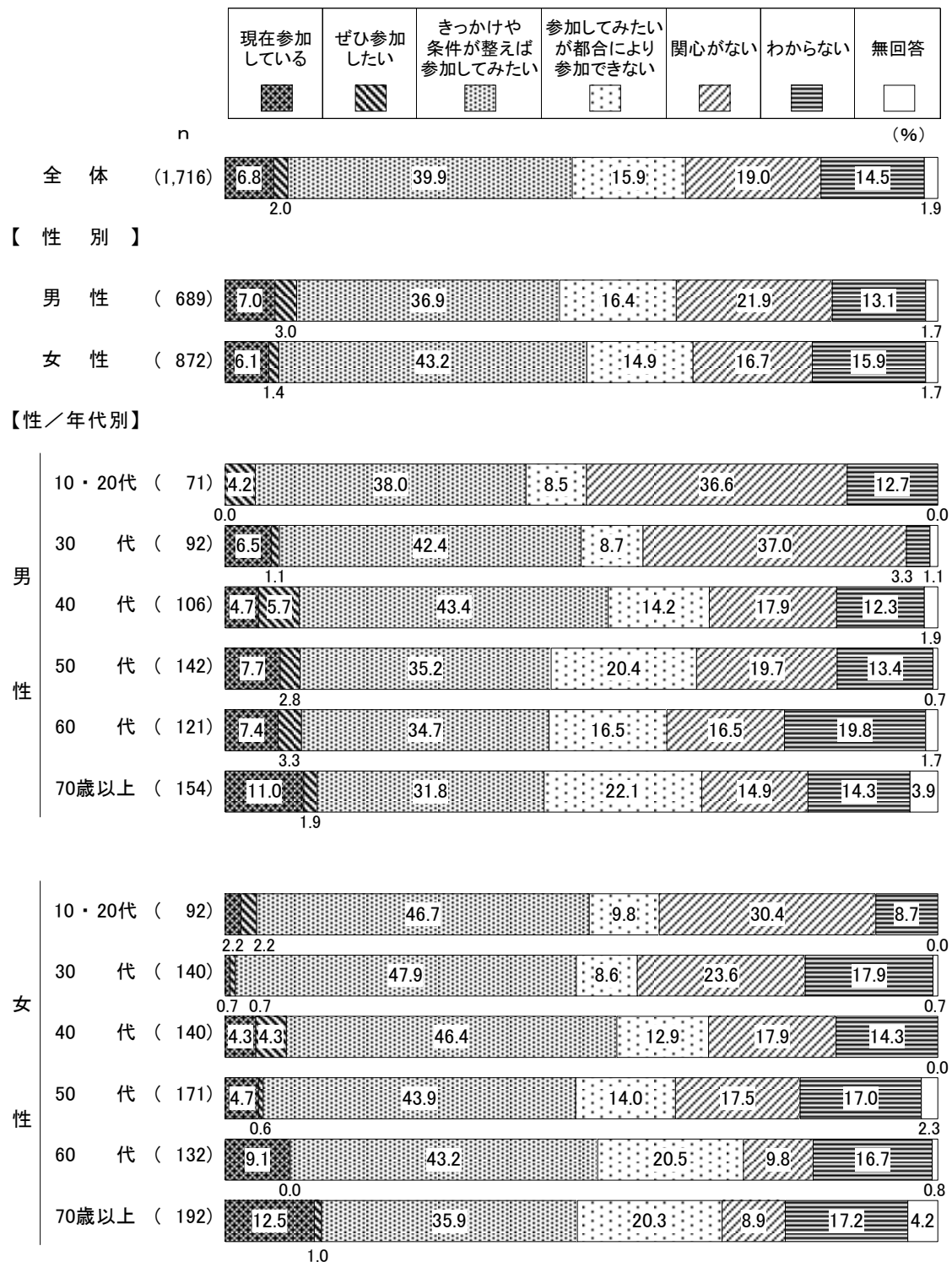
(○は1つだけ)

図4-7-1



現在住んでいるまちで何らかの地域活動に参加したいと思うか聞いたところ、「現在参加している」(6.8%)と「ぜひ参加したい」(2.0%)は1割未満、「きっかけや条件が整えば参加してみたい」(39.9%)が4割となっている。一方、「参加してみたいが都合により参加できない」(15.9%)は1割半ば、「興味がない」(19.0%)は約2割となっている。(図4-7-1)

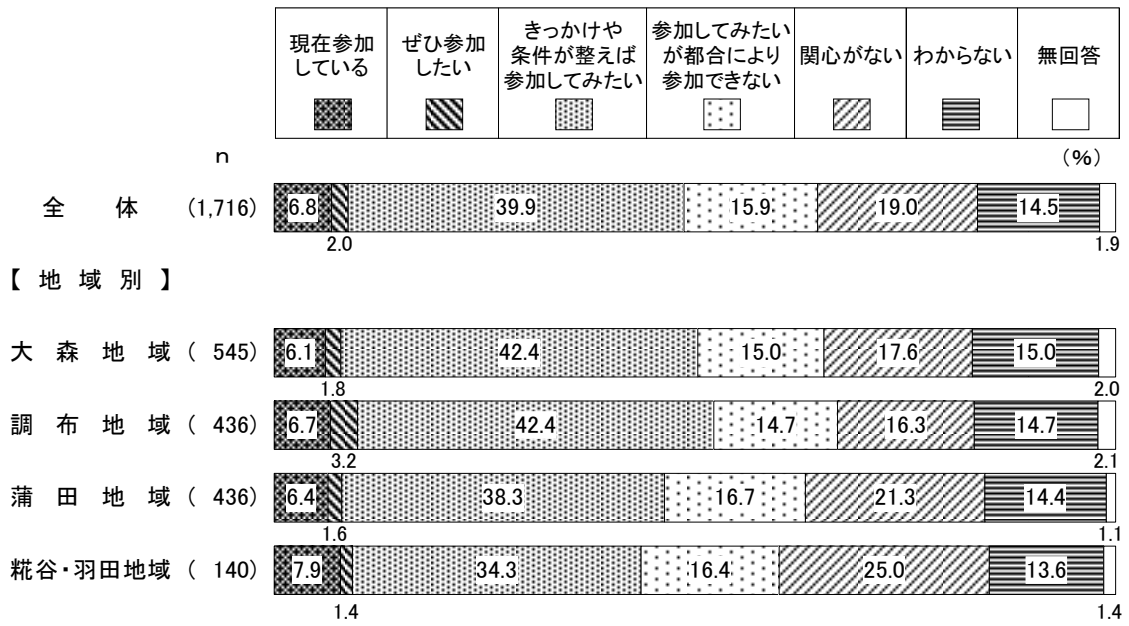
図 4-7-2 地域活動への参加意向一性／年代別



性別でみると、「きっかけや条件が整えば参加してみたい」は女性（43.2%）が男性（36.9%）より6.3ポイント高くなっている。一方、「関心がない」は男性（21.9%）が女性（16.7%）より5.2ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「きっかけや条件が整えば参加してみたい」は女性10・20代（46.7%）と女性30代（47.9%）で5割近くと高くなっている。「関心がない」は男性10・20代（36.6%）と男性30代（37.0%）で4割近くと高くなっている。（図4-7-2）

図 4-7-3 地域活動への参加意向－地域別



地域別でみると、「きっかけや条件が整えば参加してみたい」は大森地域と調布地域（ともに42.4%）で4割を超えて高くなっている。「関心がない」は糀谷・羽田地域（25.0%）で2割半ばと高くなっている。（図4-7-3）

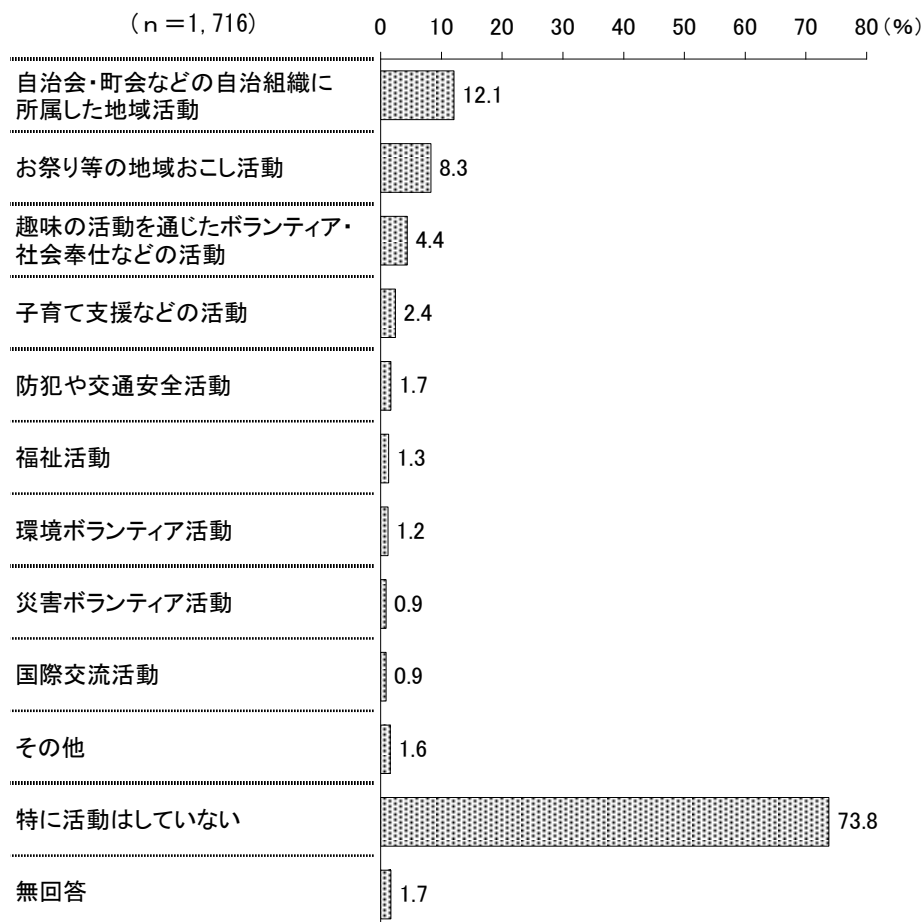
（８）地域活動に参加した、かかわった経験

◇「自治会・町会などの自治組織に所属した地域活動」が１割を超える

問13 過去１年以内で、地域活動に参加した、かかわった経験はありますか。

（○はより重点を置いている活動を３つまで）

図４－８－１

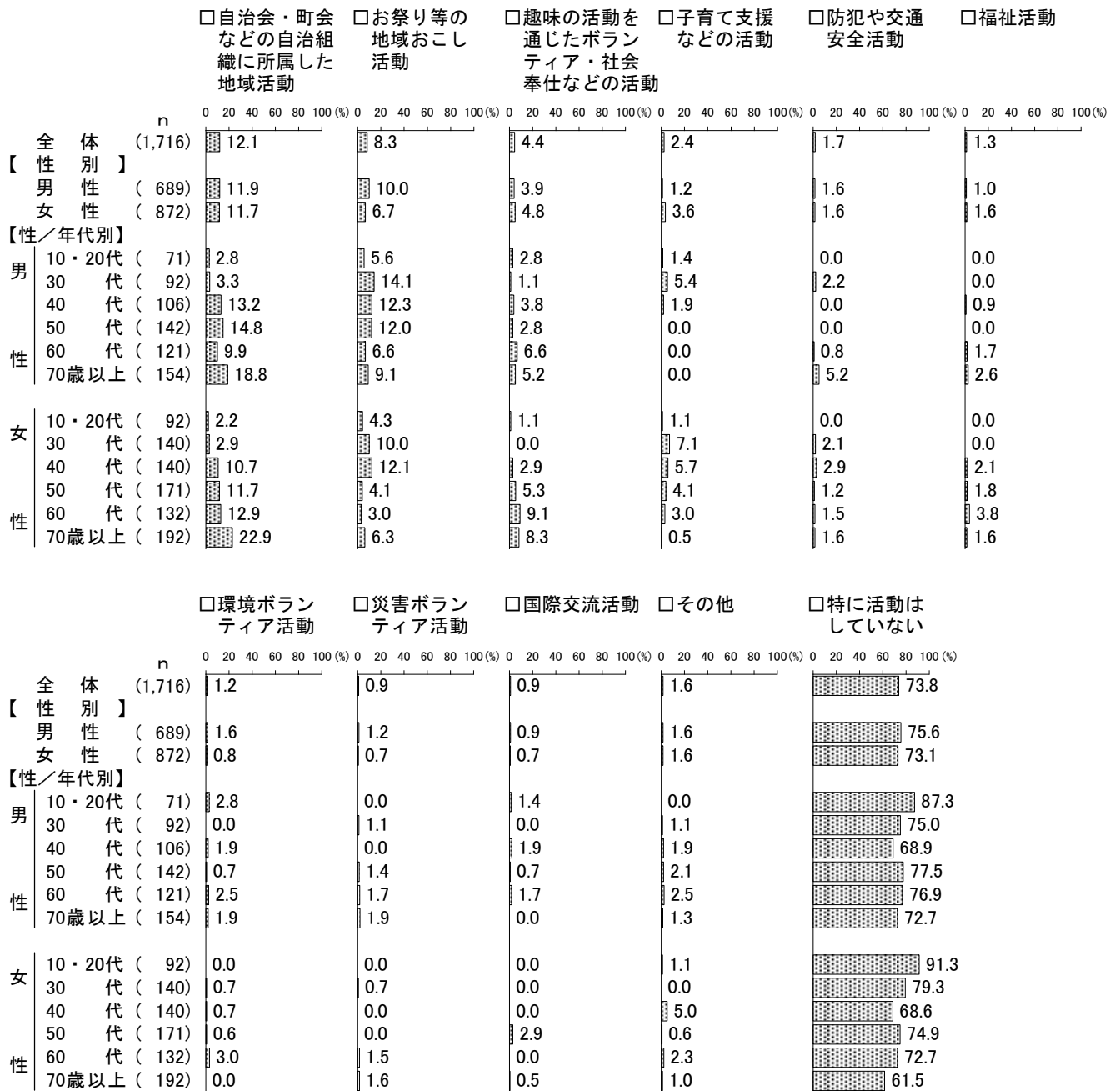


過去１年以内で、地域活動に参加した、かかわった経験を聞いたところ、「特に活動はしていない」（73.8%）が７割を超えている。一方、経験がある中では「自治会・町会などの自治組織に所属した地域活動」（12.1%）が１割を超えて最も高く、次いで「お祭り等の地域おこし活動」（8.3%）などの順になっている。

「その他」への回答として、「PTA活動」、「学校ボランティア」などがあげられている。

（図４－８－１）

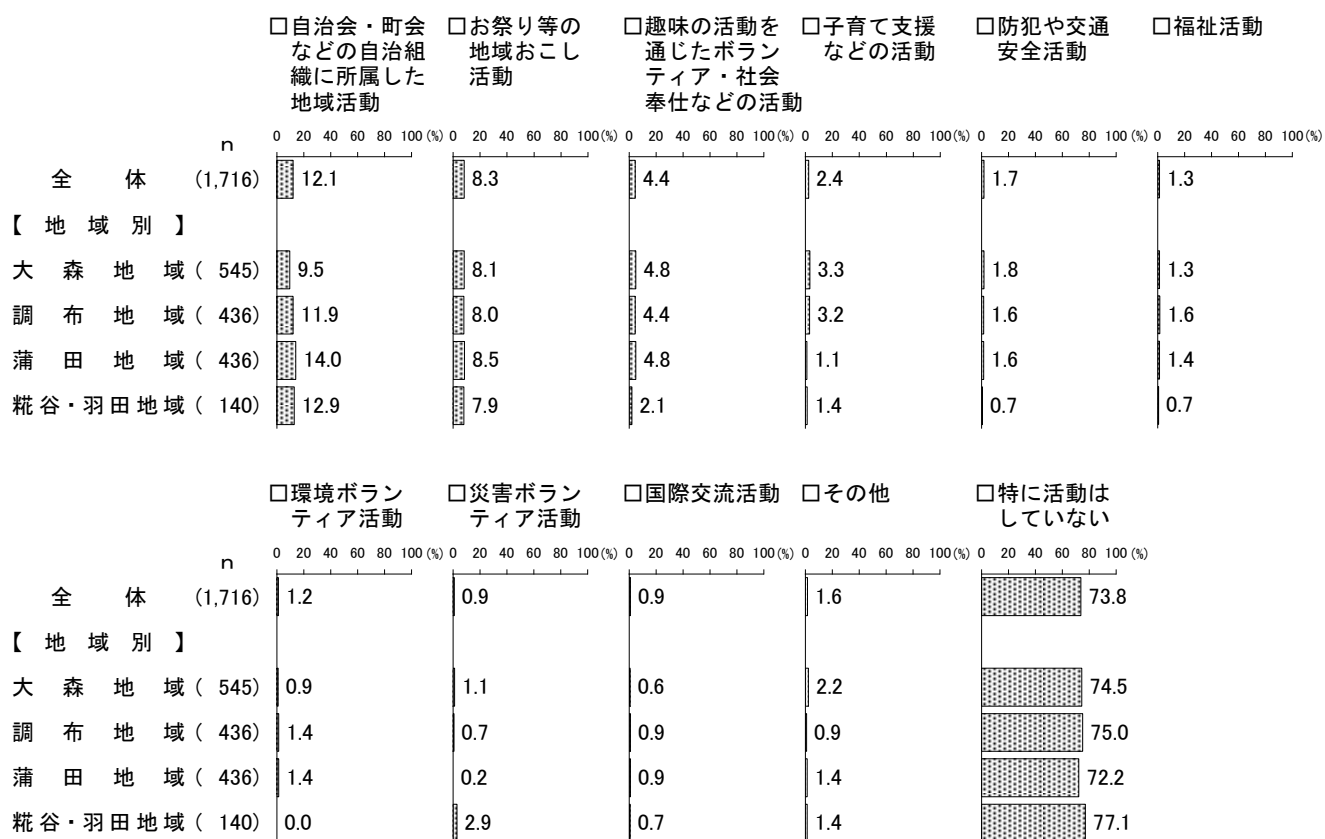
図4-8-2 地域活動に参加した、かかわった経験－性／年代別



性別でみると、「お祭り等の地域おこし活動」は男性（10.0%）が女性（6.7%）より3.3ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「自治会・町会などの自治組織に所属した地域活動」は女性70歳以上（22.9%）で2割を超えて高くなっている。「特に活動はしていない」は女性10・20代（91.3%）で9割を超えて高くなっている。（図4-8-2）

図 4-8-3 地域活動に参加した、かかわった経験—地域別



地域別でみると、「自治会・町会などの自治組織に所属した地域活動」は蒲田地域（14.0％）で1割半ばとなっている。「特に活動はしていない」は糀谷・羽田地域（77.1％）で8割近くと高くなっている。（図 4-8-3）

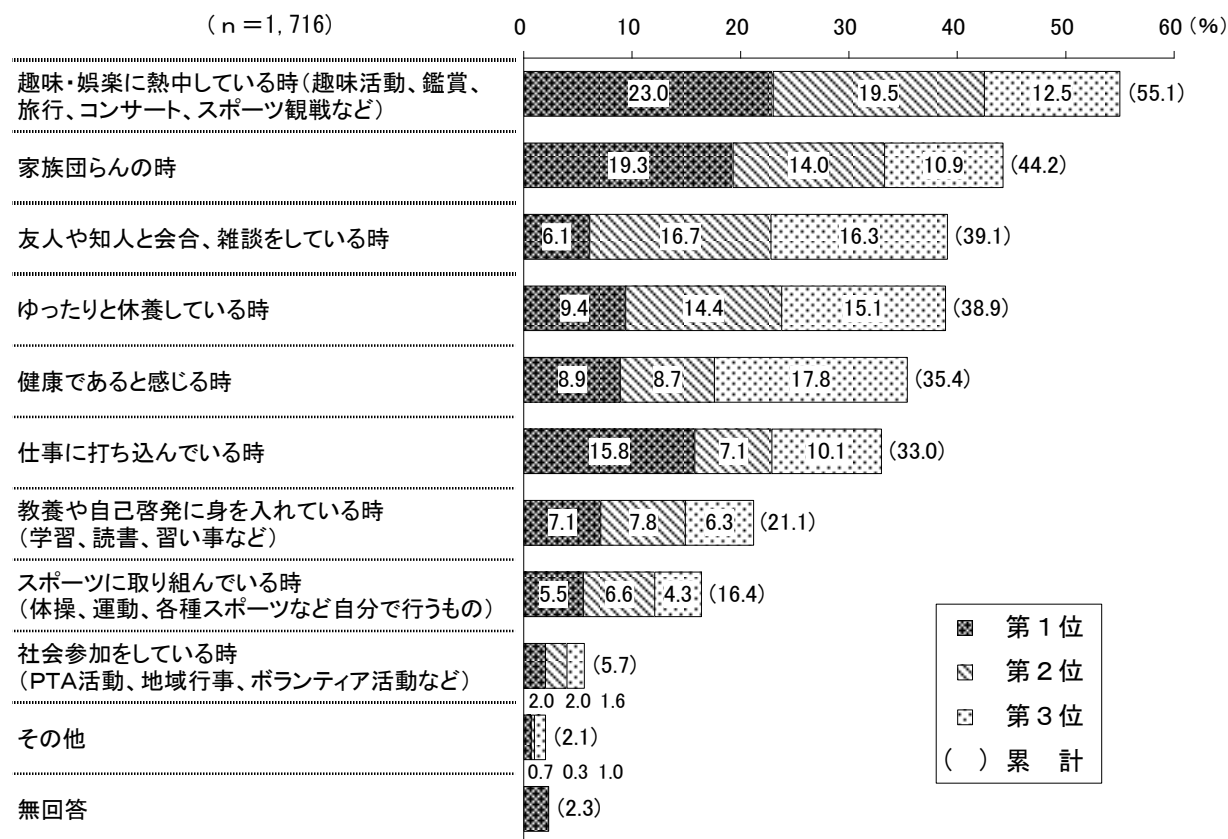
(9) 日常生活のなかで充実感や張り合いを感じる時

◇第1位から第3位までを合わせた《累計》では「趣味・娯楽に熱中している時」が5割半ば

問14 日常生活のなかで、充実感や張り合いを感じるのはどのような時ですか。

(1位から3位まで1つずつ選んで、下の回答欄に番号を記入してください)

図4-9-1



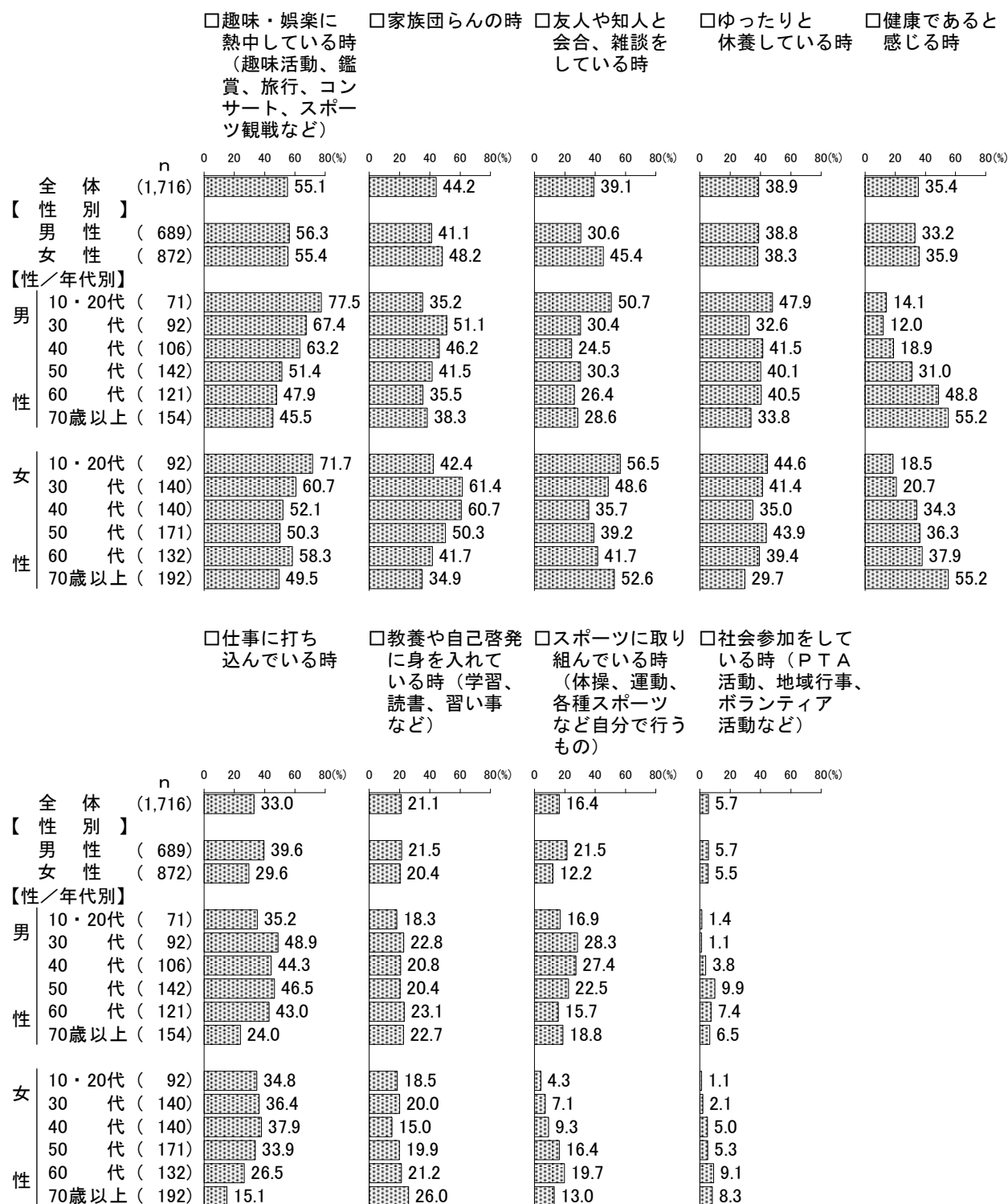
※累計の値は、第1位から第3位までのそれぞれの回答数を合計し、比率を再計算しているため、第1位から第3位までの値の単純な合計値とは、値が異なる場合がある。

日常生活のなかで、充実感や張り合いを感じるのはどのような時か聞いたところ、第1位では「趣味・娯楽に熱中している時(趣味活動、鑑賞、旅行、コンサート、スポーツ観戦など)」(23.0%)が2割を超えて最も高く、次いで「家族団らんの時」(19.3%)、「仕事に打ち込んでいる時」(15.8%)などの順になっている。

また、第1位から第3位までを合わせた《累計》でみると、「趣味・娯楽に熱中している時(趣味活動、鑑賞、旅行、コンサート、スポーツ観戦など)」(55.1%)が5割半ばで最も高く、次いで「家族団らんの時」(44.2%)、「友人や知人と会合、雑談をしている時」(39.1%)、「ゆったりと休養している時」(38.9%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「子育てをしている時」、「家事をしている時」、「ペットと過ごしている時」などがあげられている。(図4-9-1)

図 4-9-2 日常生活のなかで充実感や張り合いを感じる時－性／年代別（累計）

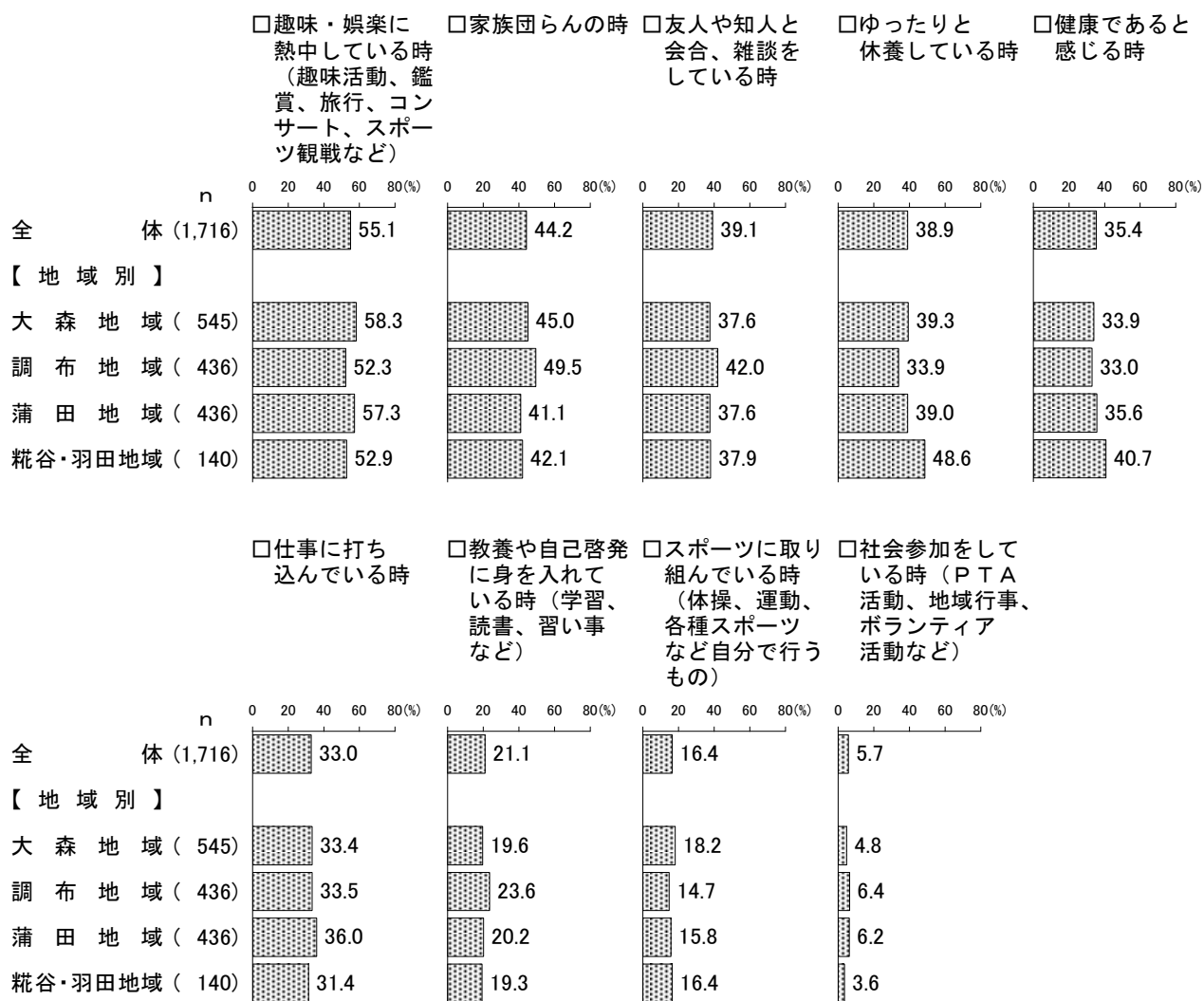


性別でみると、「友人や知人と会合、雑談をしている時」は女性（45.4%）が男性（30.6%）より14.8ポイント高くなっている。一方、「仕事に打ち込んでいる時」は男性（39.6%）が女性（29.6%）より10.0ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「趣味・娯楽に熱中している時」は男性10・20代（77.5%）で8割近くと高くなっている。「家族団らんの時」は女性30代（61.4%）で6割を超えて高くなっている。「友人や知人と会合、雑談をしている時」は女性10・20代（56.5%）で6割近くと高くなっている。

（図 4-9-2）

図 4-9-3 日常生活のなかで充実感や張り合いを感じる時―地域別（累計）



地域別でみると、「趣味・娯楽に熱中している時」は大森地域（58.3%）と蒲田地域（57.3%）で6割近くと高くなっている。「家族団らんの時」は調布地域（49.5%）で5割と高くなっている。「ゆったりと休養している時」は糀谷・羽田地域（48.6%）で5割近くと高くなっている。

（図 4-9-3）

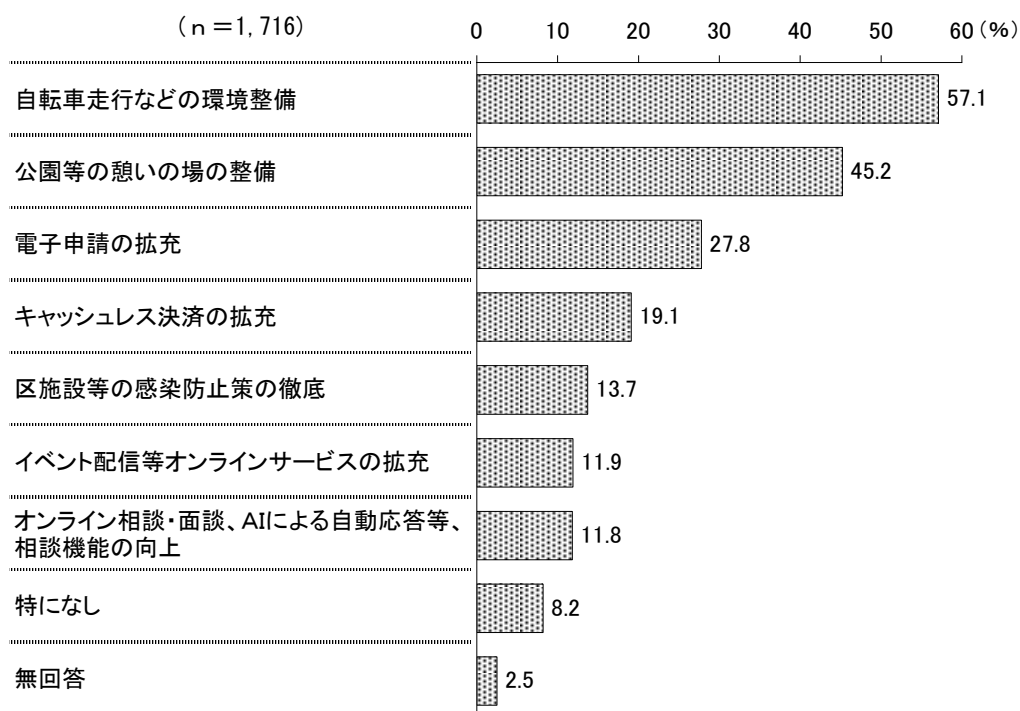
5. 基本目標3 豊かな環境と産業の活力で持続的に発展するまち

(1) 区に取り組んでほしいこと

◇「自転車走行などの環境整備」が6割近く

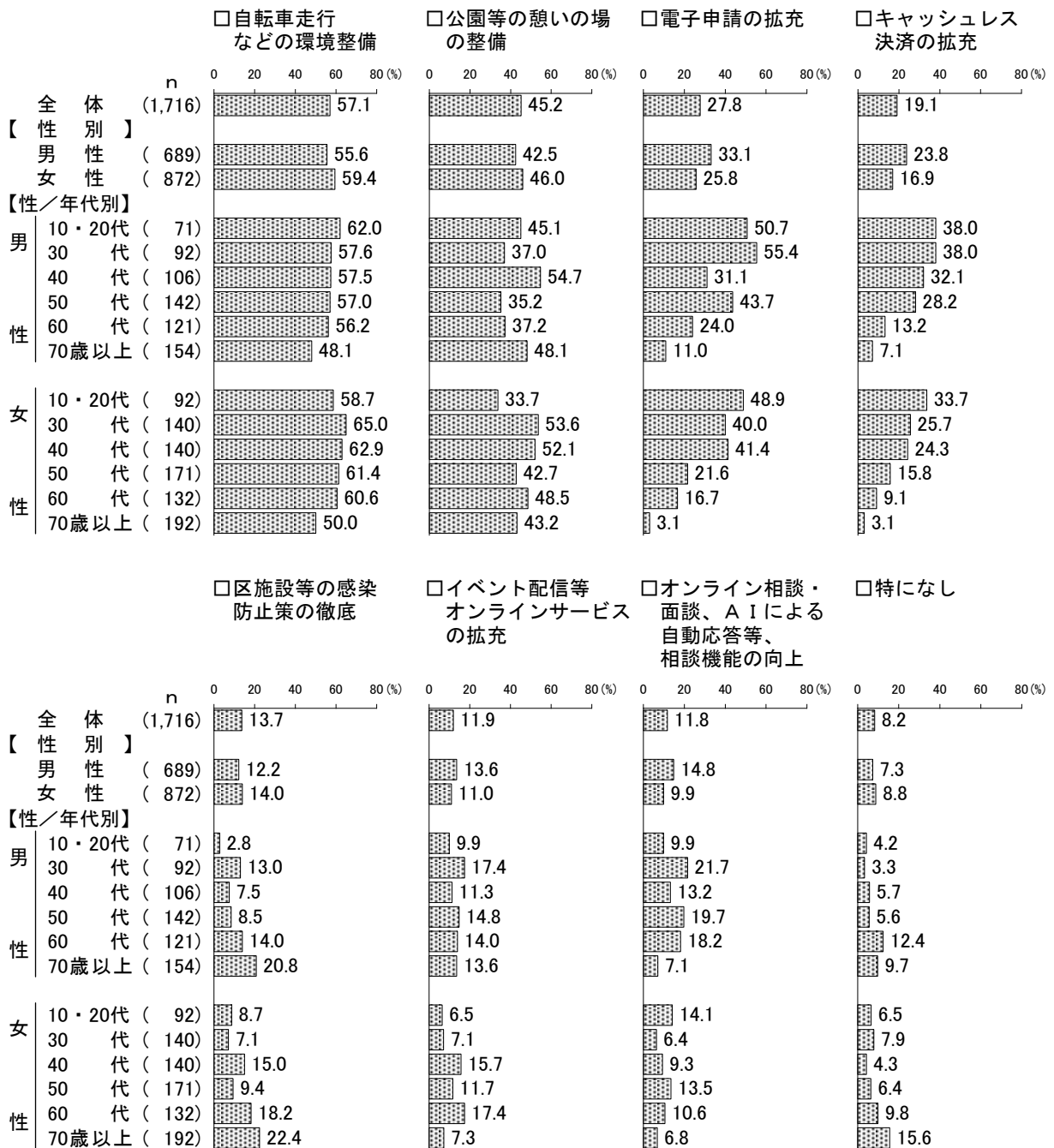
問15 今後、区に取り組んでほしいことは何ですか。(〇はいくつでも)

図5-1-1



区に取り組んでほしいことを聞いたところ、「自転車走行などの環境整備」(57.1%)が6割近くで最も高く、次いで「公園等の憩いの場の整備」(45.2%)、「電子申請の拡充」(27.8%)、「キャッシュレス決済の拡充」(19.1%)などの順になっている。(図5-1-1)

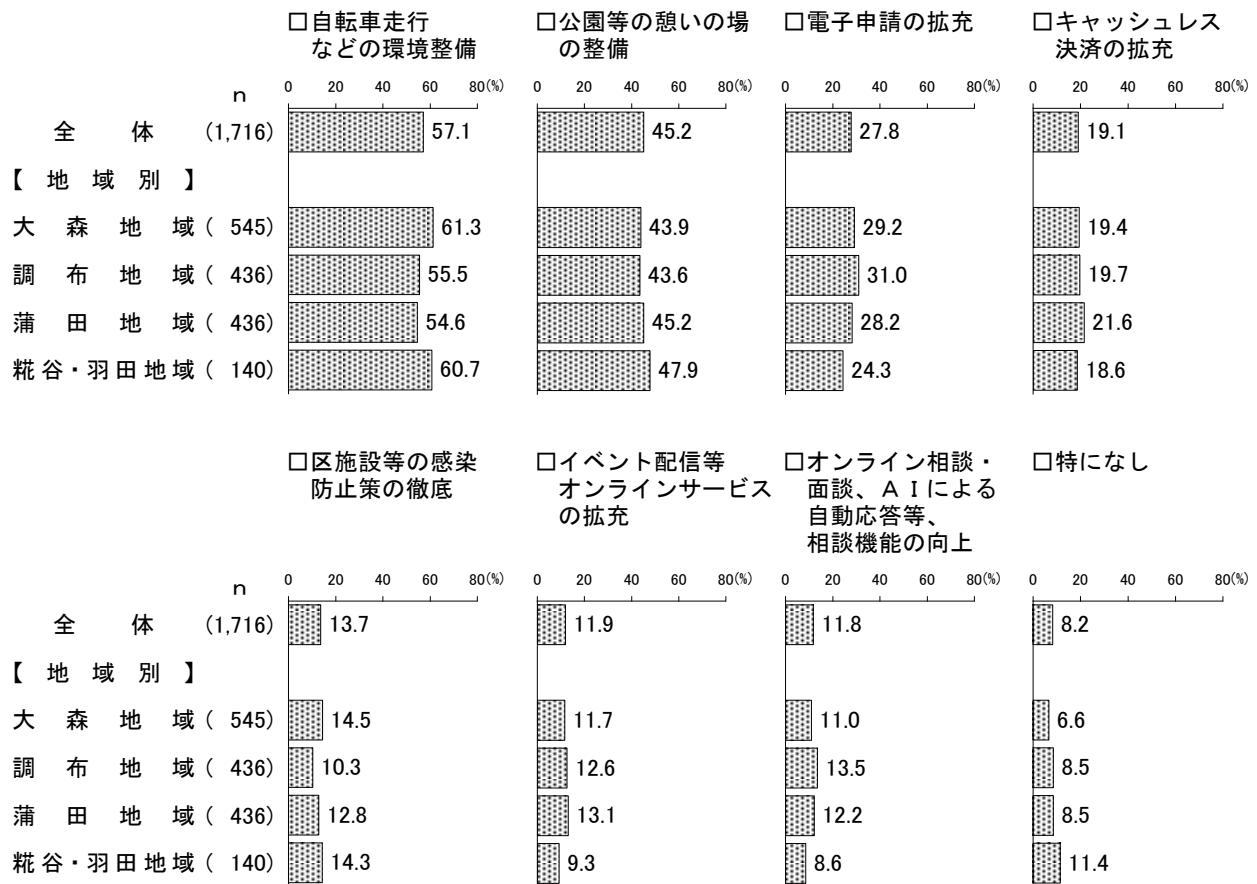
図 5-1-2 区に取り組んでほしいこと－性／年代別



性別でみると、「電子申請の拡充」は男性（33.1%）が女性（25.8%）より7.3ポイント、「キャッシュレス決済の拡充」は男性（23.8%）が女性（16.9%）より6.9ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「自転車走行などの環境整備」は女性（59.4%）が男性（55.6%）より3.8ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「自転車走行などの環境整備」は女性30代（65.0%）で6割半ばと高くなっている。「公園等の憩いの場の整備」は男性40代（54.7%）で5割半ばと高くなっている。「電子申請の拡充」は男性30代（55.4%）で5割半ばと高くなっている。（図 5-1-2）

図 5-1-3 区に取り組んでほしいことー地域別



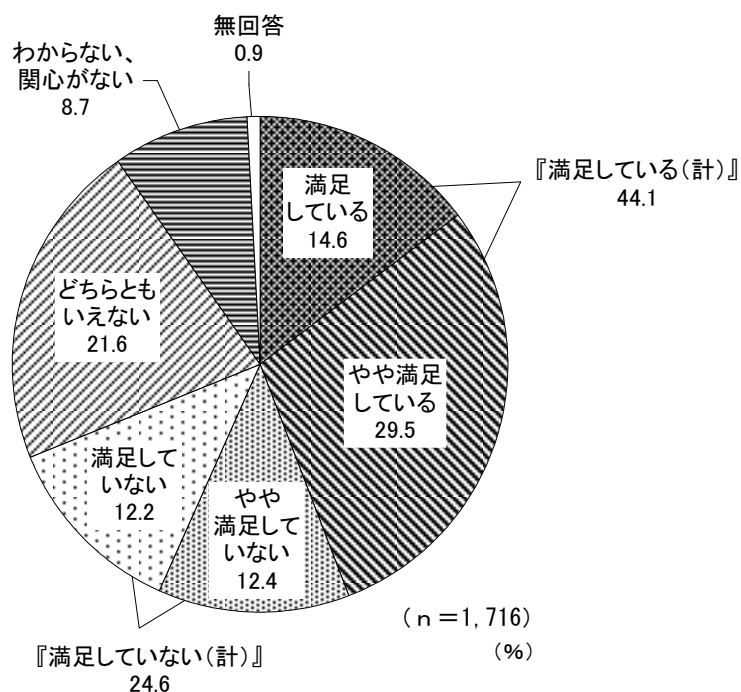
地域別でみると、「自転車走行などの環境整備」は大森地域（61.3%）で6割を超えて高くなっている。「公園等の憩いの場の整備」は糀谷・羽田地域（47.9%）で5割近くと高くなっている。「電子申請の拡充」は調布地域（31.0%）で3割を超えて高くなっている。（図 5-1-3）

(2) 生き物の豊かさへの満足度

◇「満足している」と「やや満足している」を合わせた『満足している(計)』は4割半ば

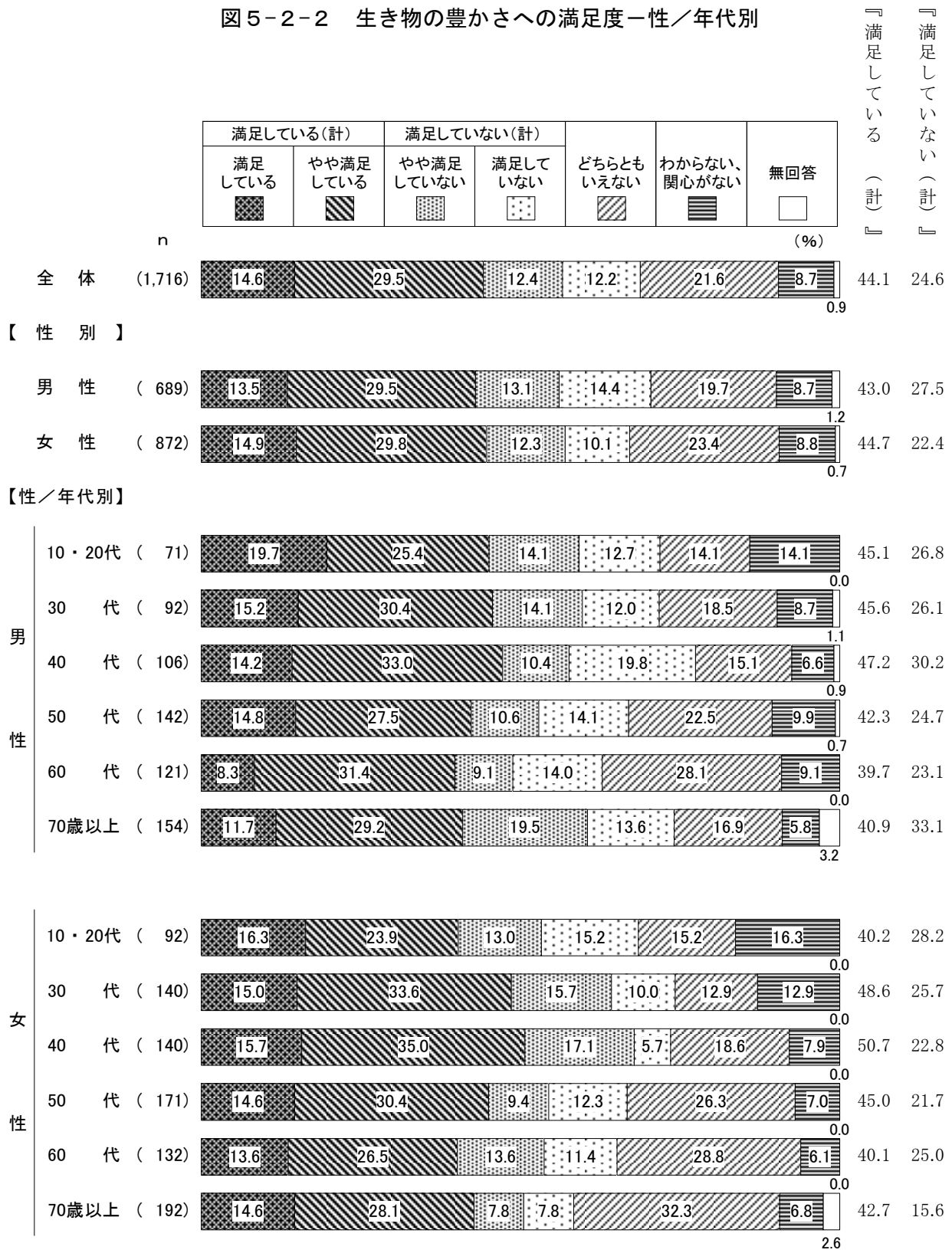
問16 身近な場所で生き物の豊かさに満足していますか。(○は1つだけ)

図5-2-1



身近な場所で生き物の豊かさに満足しているか聞いたところ、「満足している」(14.6%)と「やや満足している」(29.5%)を合わせた『満足している(計)』(44.1%)は4割半ばとなっている。一方、「やや満足していない」(12.4%)と「満足していない」(12.2%)を合わせた『満足していない(計)』(24.6%)は2割半ばとなっている。(図5-2-1)

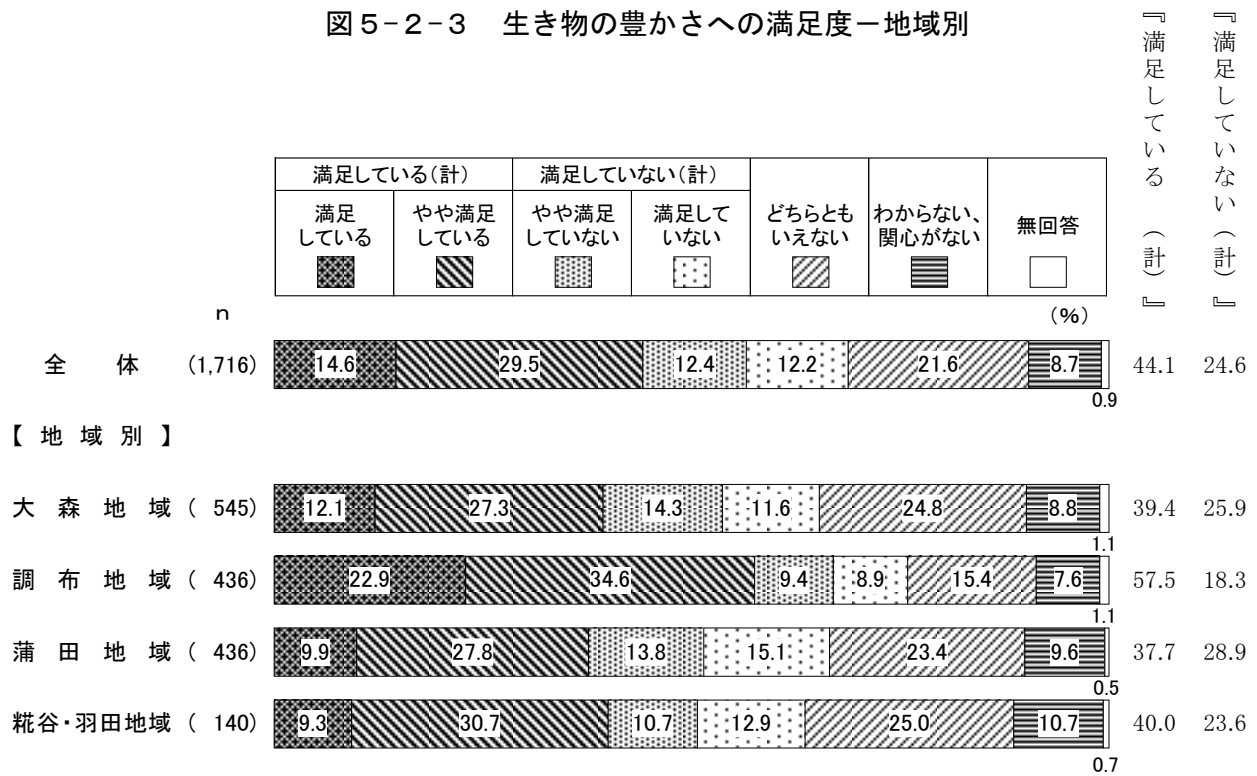
図5-2-2 生き物の豊かさへの満足度－性／年代別



性別でみると、『満足していない(計)』は男性(27.5%)が女性(22.4%)より5.1ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『満足している(計)』は女性40代(50.7%)で約5割と高くなっている。一方、『満足していない(計)』は男性40代(30.2%)で3割と高くなっている。(図5-2-2)

図 5-2-3 生き物の豊かさへの満足度—地域別



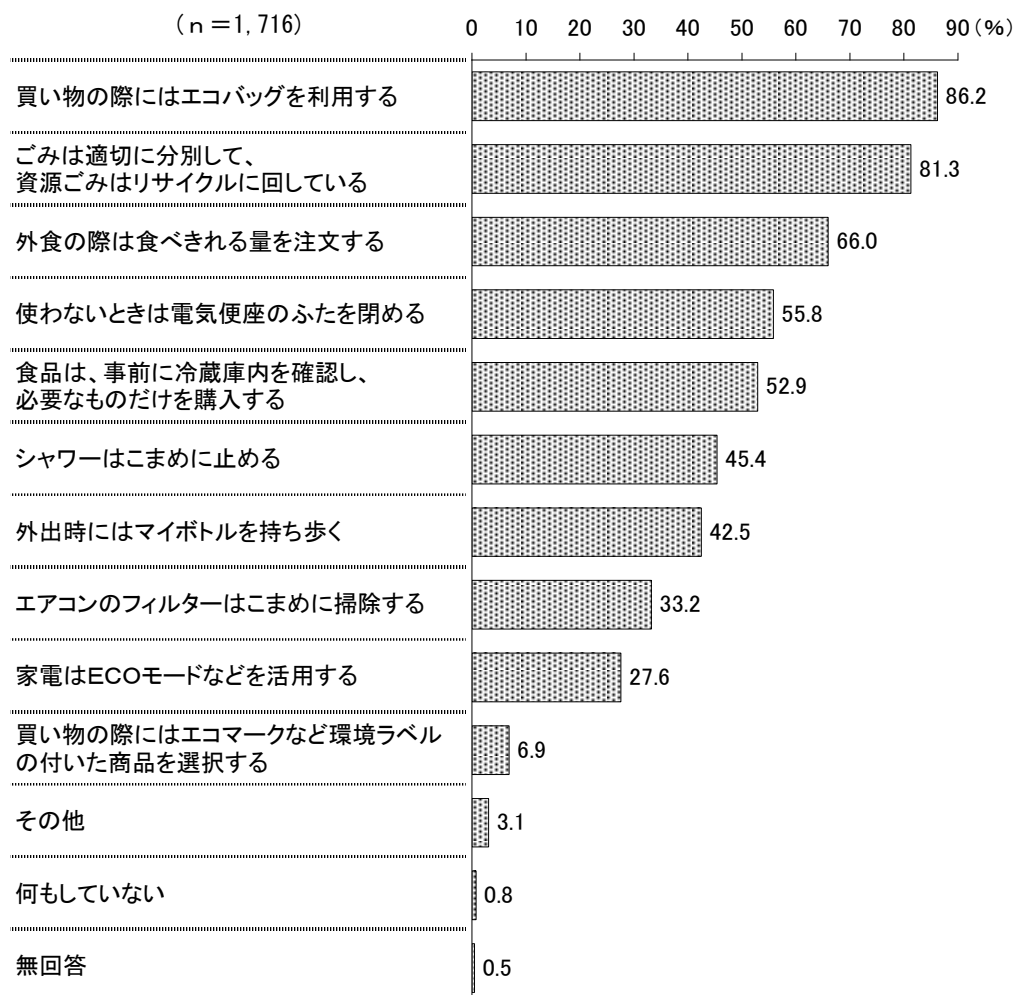
地域別でみると、『満足している（計）』は調布地域（57.5%）で6割近くと高くなっている。一方、『満足していない（計）』は蒲田地域（28.9%）で3割近くと高くなっている。（図 5-2-3）

(3) 家庭で実施している環境配慮行動

◇「買い物の際にはエコバッグを利用する」が8割半ば

問17 あなたのご家庭で実施している環境配慮行動を教えてください。(〇はいくつでも)

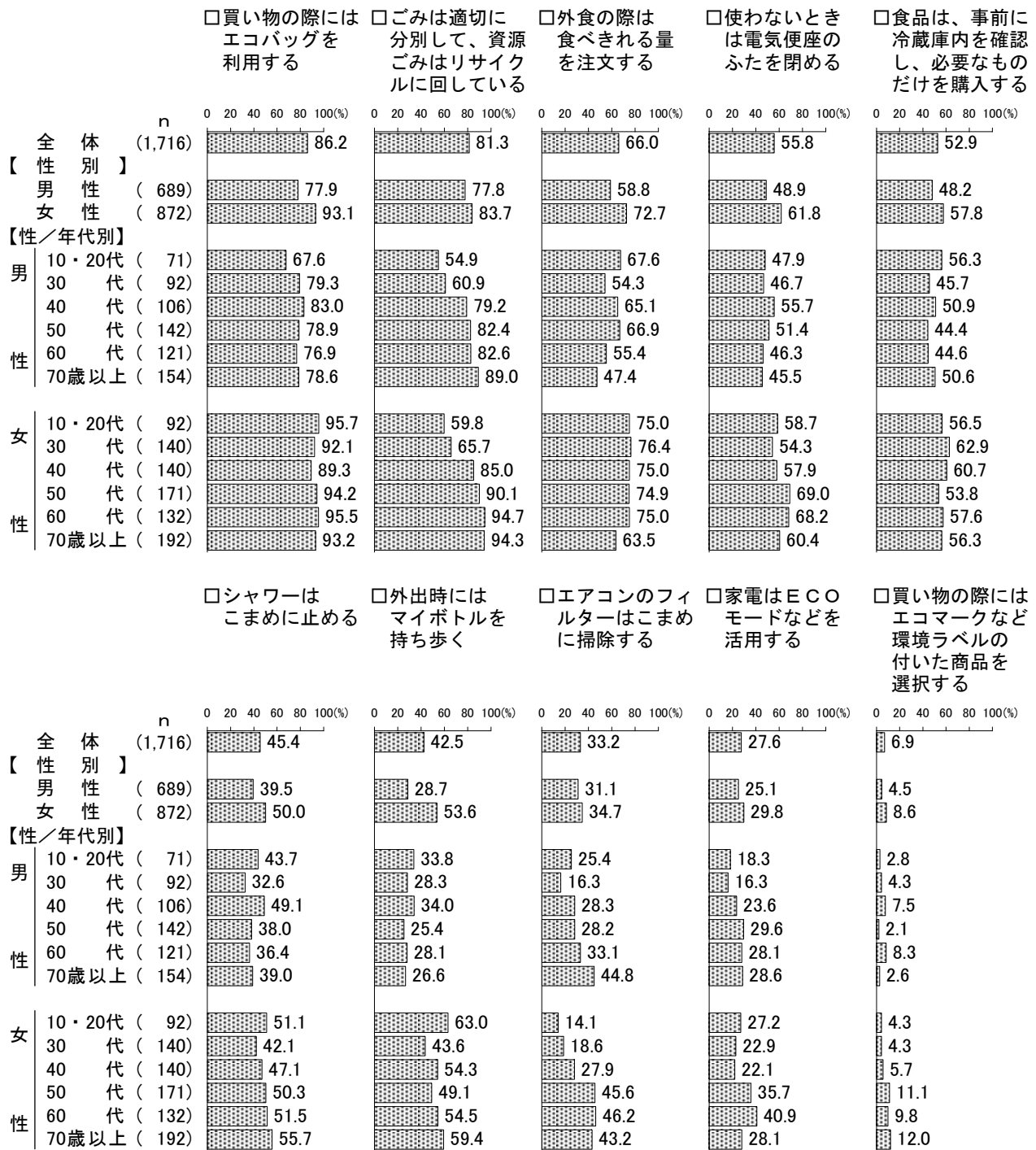
図5-3-1



家庭で実施している環境配慮行動を聞いたところ、「買い物の際にはエコバッグを利用する」(86.2%)が8割半ばで最も高く、次いで「ごみは適切に分別して、資源ごみはリサイクルに回している」(81.3%)、「外食の際は食べきれる量を注文する」(66.0%)、「使わないときは電気便座のふたを閉める」(55.8%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「太陽光発電を導入している」、「節水を心がけている」、「電気をこまめに消す」、「ごみを減らす」などがあげられている。(図5-3-1)

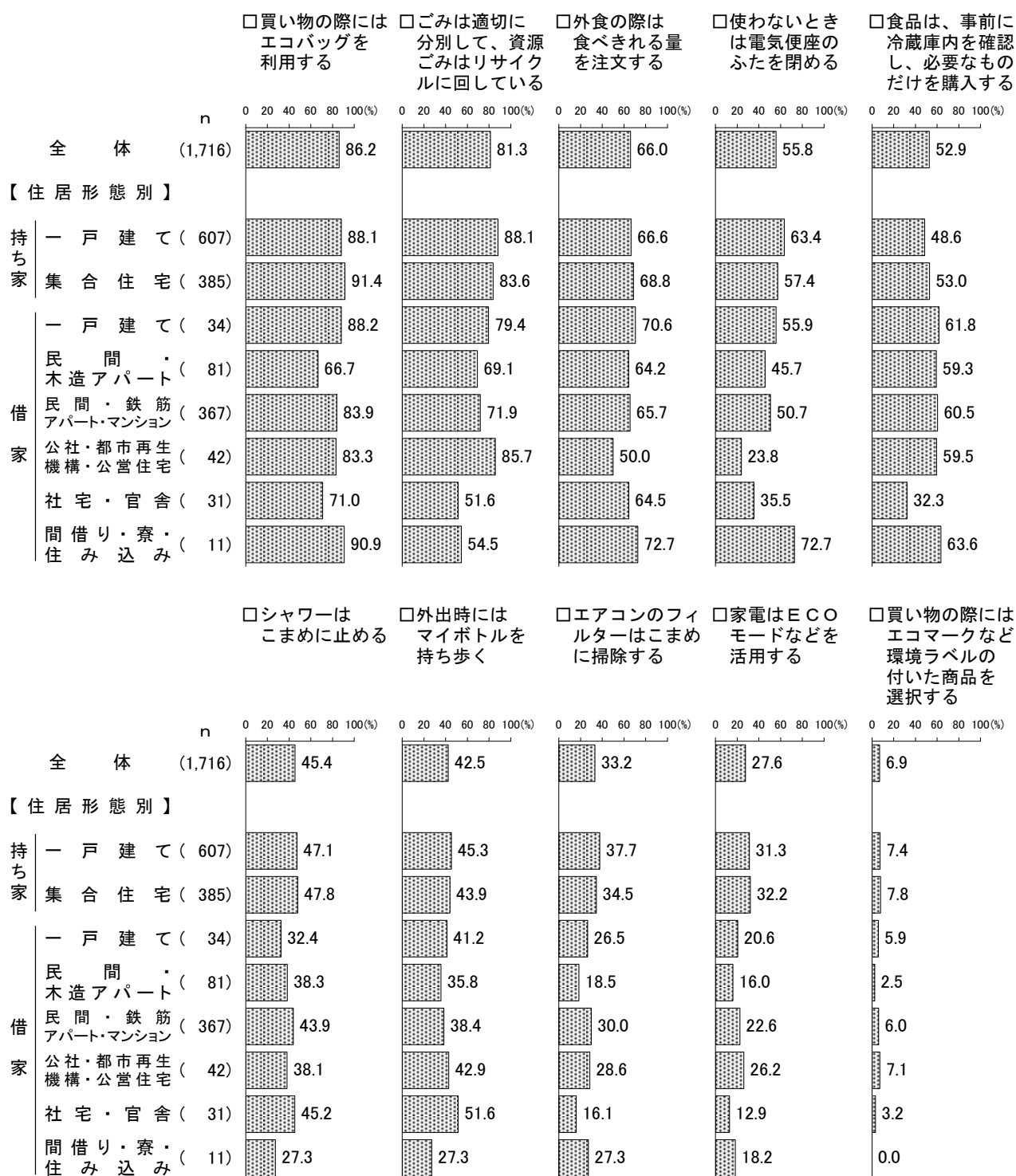
図 5-3-2 家庭で実施している環境配慮行動一性／年代別（上位10項目）



上位10項目を性別でみると、全ての項目で女性が男性を上回っており、「外出時にはマイボトルを持ち歩く」は女性（53.6%）が男性（28.7%）より24.9ポイント、「買い物の際にはエコバッグを利用する」は女性（93.1%）が男性（77.9%）より15.2ポイント、それぞれ高くなっている。

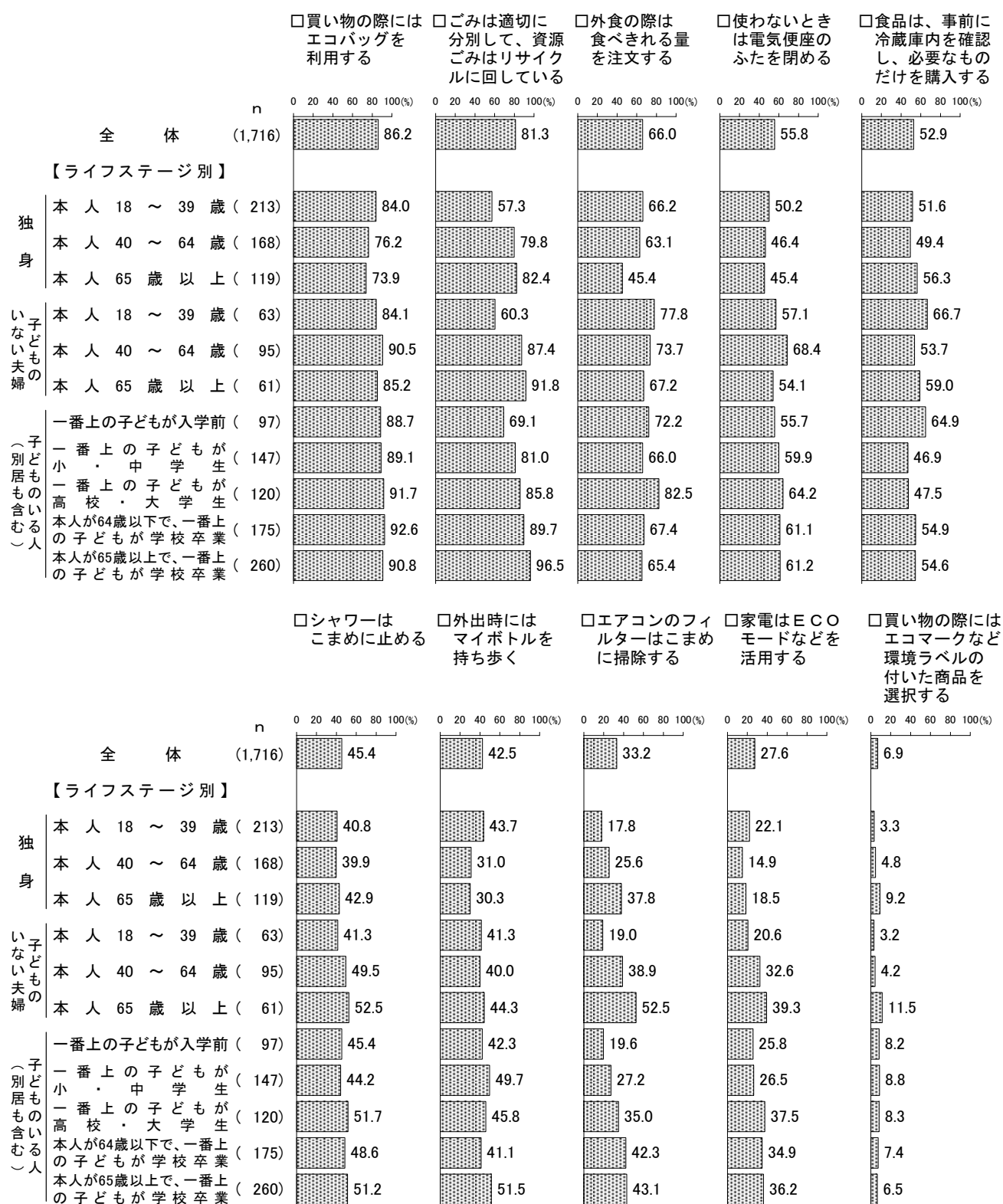
性／年代別でみると、「ごみは適切に分別して、資源ごみはリサイクルに回している」は女性60代（94.7%）と女性70歳以上（94.3%）で9割半ばと高くなっている。「使わないときは電気便座のふたを閉める」は女性50代（69.0%）で約7割と高くなっている。（図 5-3-2）

図5-3-3 家庭で実施している環境配慮行動－住居形態別（上位10項目）



上位10項目を住居形態別でみると、「買い物の際にはエコバッグを利用する」は「持ち家、集合住宅」（91.4%）で9割を超えて高くなっている。「ごみは適切に分別して、資源ごみはリサイクルに回している」は「持ち家、一戸建て」（88.1%）で9割近くと高くなっている。「外食の際は食べきれる量を注文する」は「借家、一戸建て」（70.6%）で約7割と高くなっている。（図5-3-3）

図5-3-4 家庭で実施している環境配慮行動－ライフステージ別（上位10項目）



上位10項目をライフステージ別でみると、「買い物の際にはエコバッグを利用する」は“本人が64歳以下で、一番上の子どもが学校卒業”（92.6%）と“一番上の子どもが高校・大学生”（91.7%）で9割を超えて高くなっている。「ごみは適切に分別して、資源ごみはリサイクルに回している」は“本人が65歳以上で、一番上の子どもが学校卒業”（96.5%）で10割近くと高くなっている。

（図5-3-4）

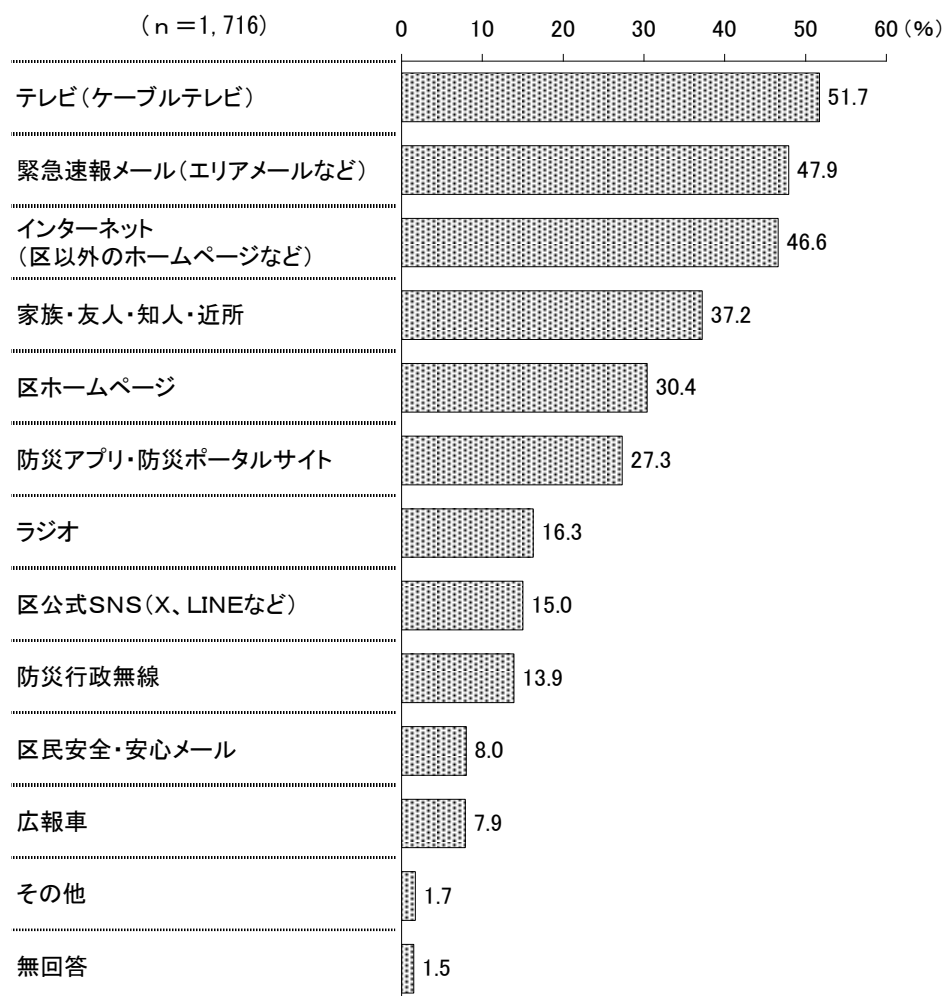
6. 基本目標4 安全・安心で活気とやすらぎのある快適なまち

(1) 災害情報の入手手段

◇「テレビ（ケーブルテレビ）」が5割を超える

問18 あなたは、災害時における災害情報をどの手段で入手しますか。（○はいくつでも）

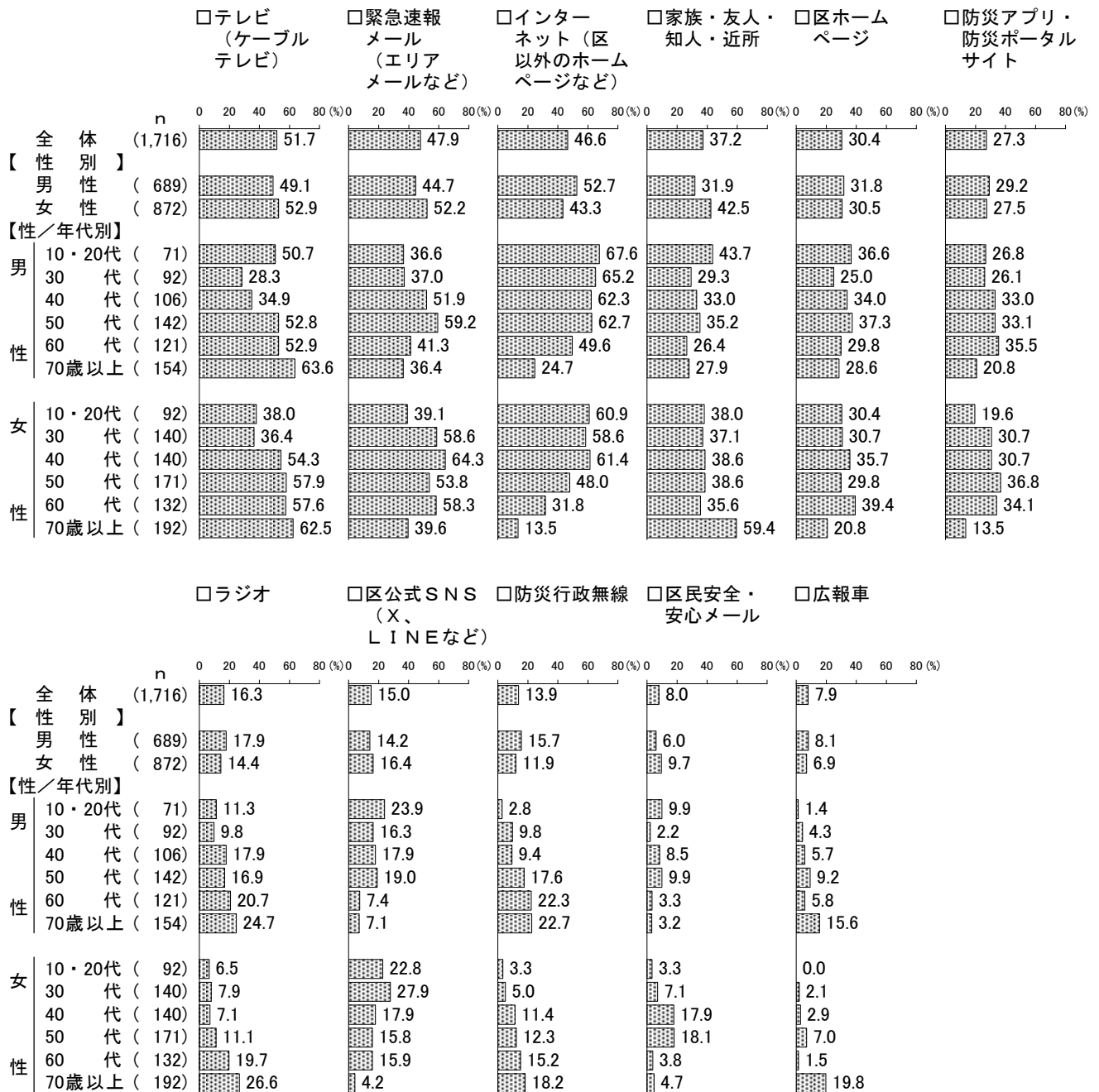
図6-1-1



災害情報の入手手段を聞いたところ、「テレビ（ケーブルテレビ）」（51.7%）が5割を超えて最も高く、次いで「緊急速報メール（エリアメールなど）」（47.9%）、「インターネット（区以外のホームページなど）」（46.6%）、「家族・友人・知人・近所」（37.2%）などの順になっている。

「その他」への回答として、「会社」、「SNS」などがあげられている。（図6-1-1）

図 6-1-2 災害情報の入手手段－性／年代別



性別でみると、「家族・友人・知人・近所」は女性（42.5％）が男性（31.9％）より10.6ポイント高くなっている。一方、「インターネット（区以外のホームページなど）」は男性（52.7％）が女性（43.3％）より9.4ポイント高くなっている。

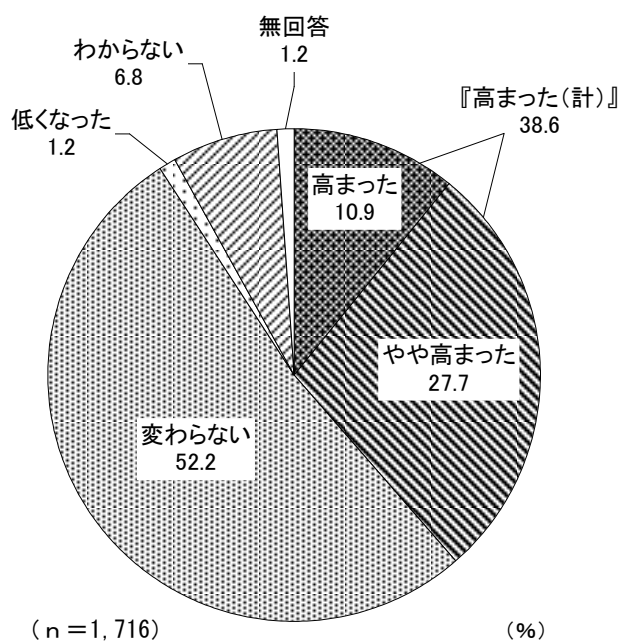
性／年代別でみると、「テレビ（ケーブルテレビ）」は男性70歳以上（63.6％）と女性70歳以上（62.5％）で6割を超えて高くなっている。「緊急速報メール（エリアメールなど）」は女性40代（64.3％）で6割半ばと高くなっている。「インターネット（区以外のホームページなど）」は男性10・20代（67.6％）で7割近くと高くなっている。（図6-1-2）

(2) 防災に対する意識

◇「高まった」と「やや高まった」を合わせた『高まった(計)』は4割近く

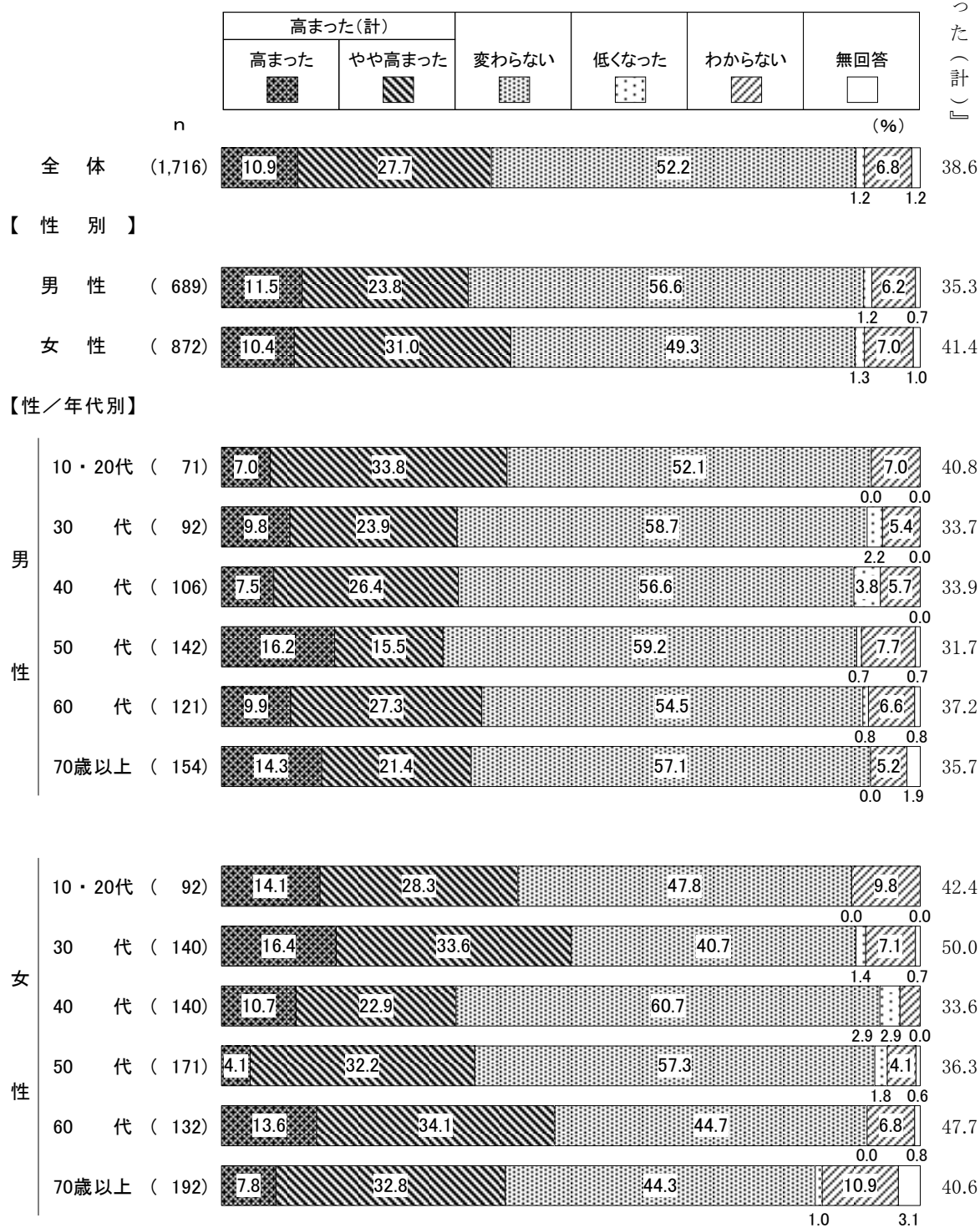
問19 あなたは、1年前に比べて防災に対する意識が高まったと思いますか。(○は1つだけ)

図6-2-1



1年前に比べて防災に対する意識が高まったと思うか聞いたところ、「高まった」(10.9%)と「やや高まった」(27.7%)を合わせた『高まった(計)』(38.6%)は4割近くとなっている。一方、「変わらない」(52.2%)は5割を超え、「低くなった」(1.2%)はわずかとなっている。(図6-2-1)

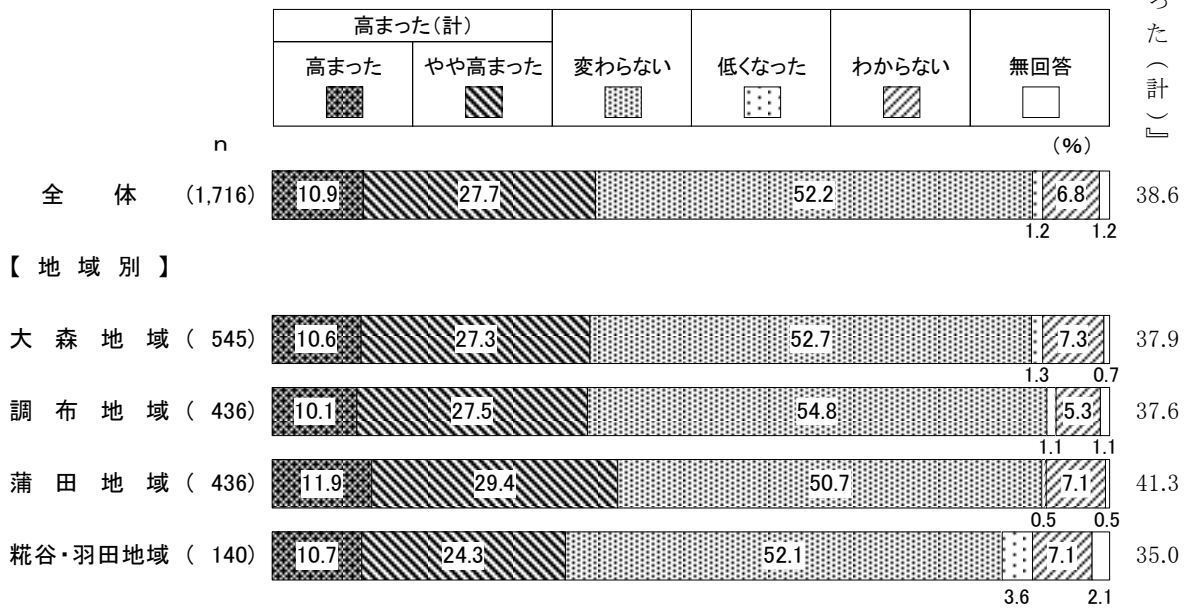
図 6-2-2 防災に対する意識－性／年代別



性別でみると、『高まった（計）』は女性（41.4％）が男性（35.3％）より6.1ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『高まった（計）』は女性30代（50.0％）で5割と高くなっている。「変わらない」は女性40代（60.7％）と男性50代（59.2％）で約6割と高くなっている。（図6-2-2）

図 6-2-3 防災に対する意識—地域別



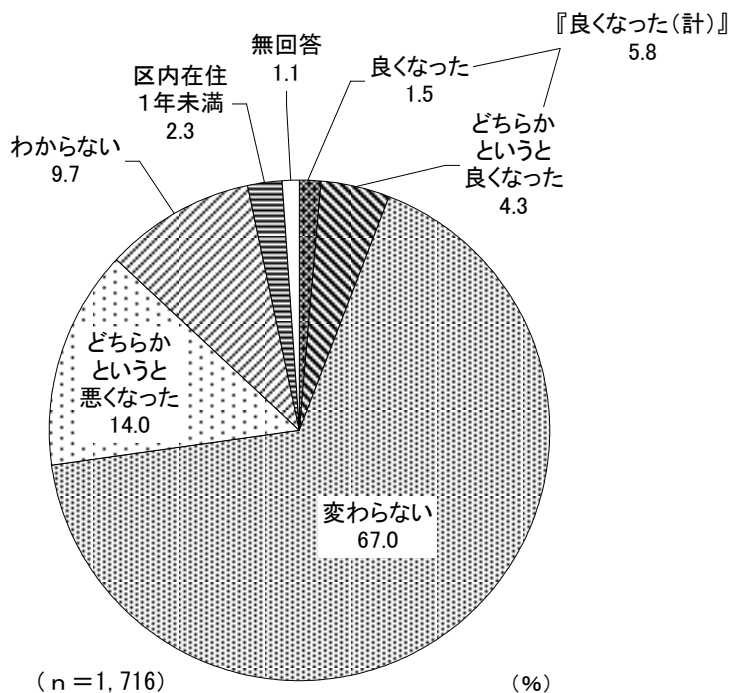
地域別でみると、『高まった(計)』は蒲田地域(41.3%)で4割を超えて高くなっている。「変わらない」は調布地域(54.8%)で5割半ばと高くなっている。(図6-2-3)

(3) 住んでいるまちの治安の変化

◇「変わらない」が7割近く

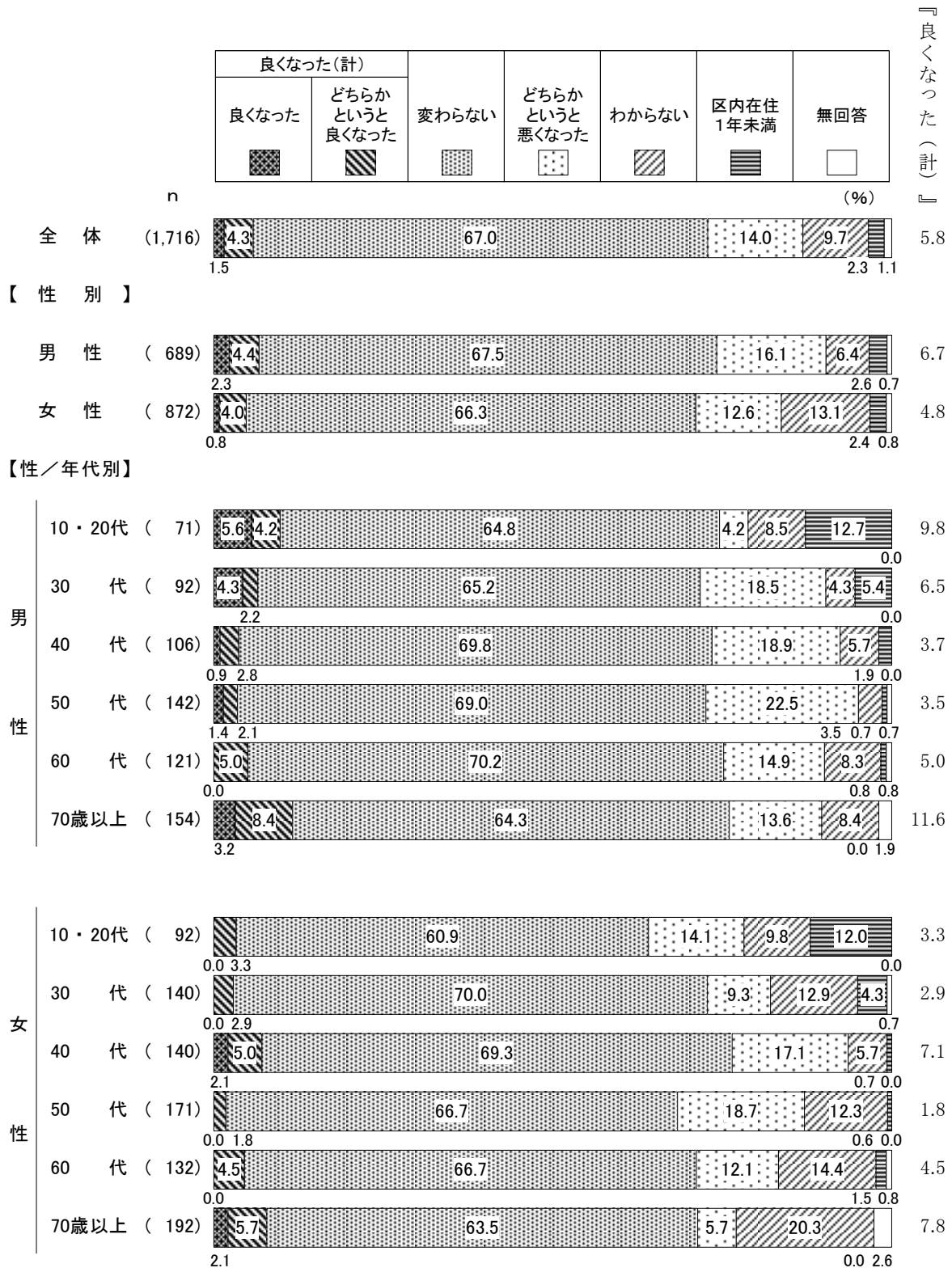
問20 あなたは、1年前に比べて現在住んでいるまちの治安はどのように変化したと感じていますか。(○は1つだけ)

図6-3-1



1年前に比べて現在住んでいるまちの治安はどのように変化したと感じているか聞いたところ、「良くなった」(1.5%)と「どちらかというと良くなった」(4.3%)を合わせた『良くなった(計)』(5.8%)は1割未満となっている。一方、「変わらない」(67.0%)は7割近く、「どちらかというと悪くなった」(14.0%)は1割半ばとなっている。(図6-3-1)

図 6-3-2 住んでいるまちの治安の変化－性／年代別

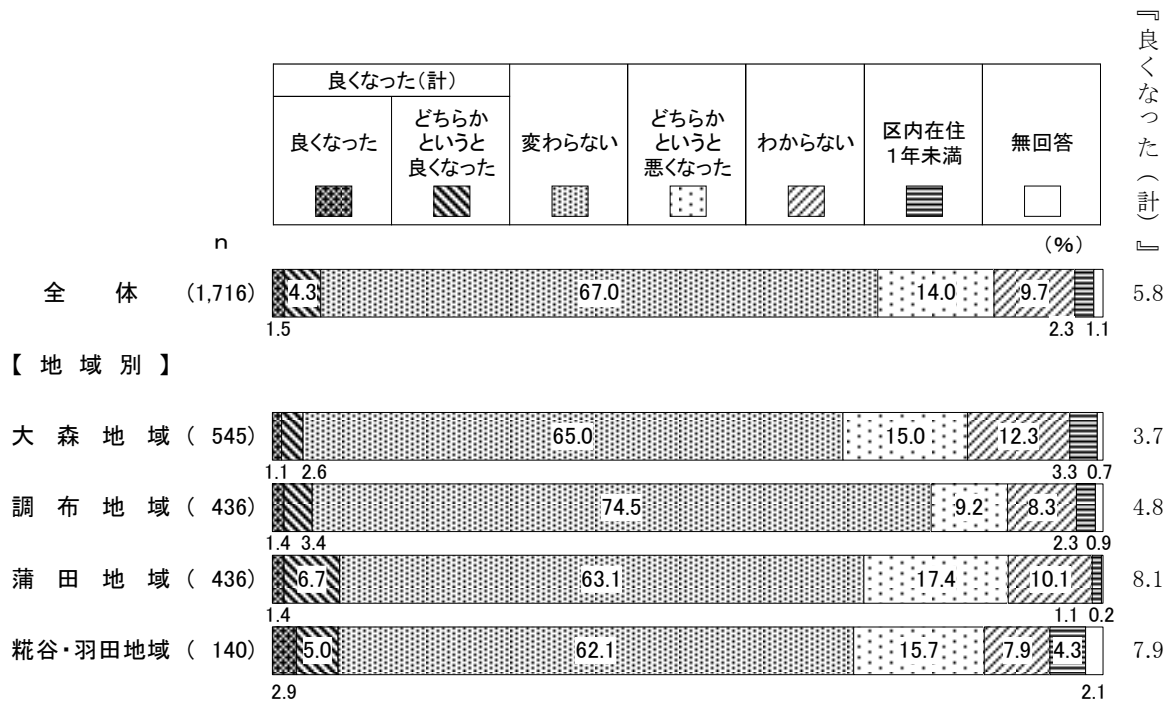


性別でみると、「どちらかというと悪くなった」は男性（16.1％）が女性（12.6％）より3.5ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『良くなった（計）』は男性70歳以上（11.6％）で1割を超えている。一方、「どちらかというと悪くなった」は男性50代（22.5％）で2割を超えて高くなっている。

（図 6-3-2）

図 6-3-3 住んでいるまちの治安の変化―地域別



地域別でみると、「変わらない」は調布地域（74.5%）で7割半ばと高くなっている。「どちらか
というと悪くなった」は蒲田地域（17.4%）で2割近くとなっている。（図 6-3-3）

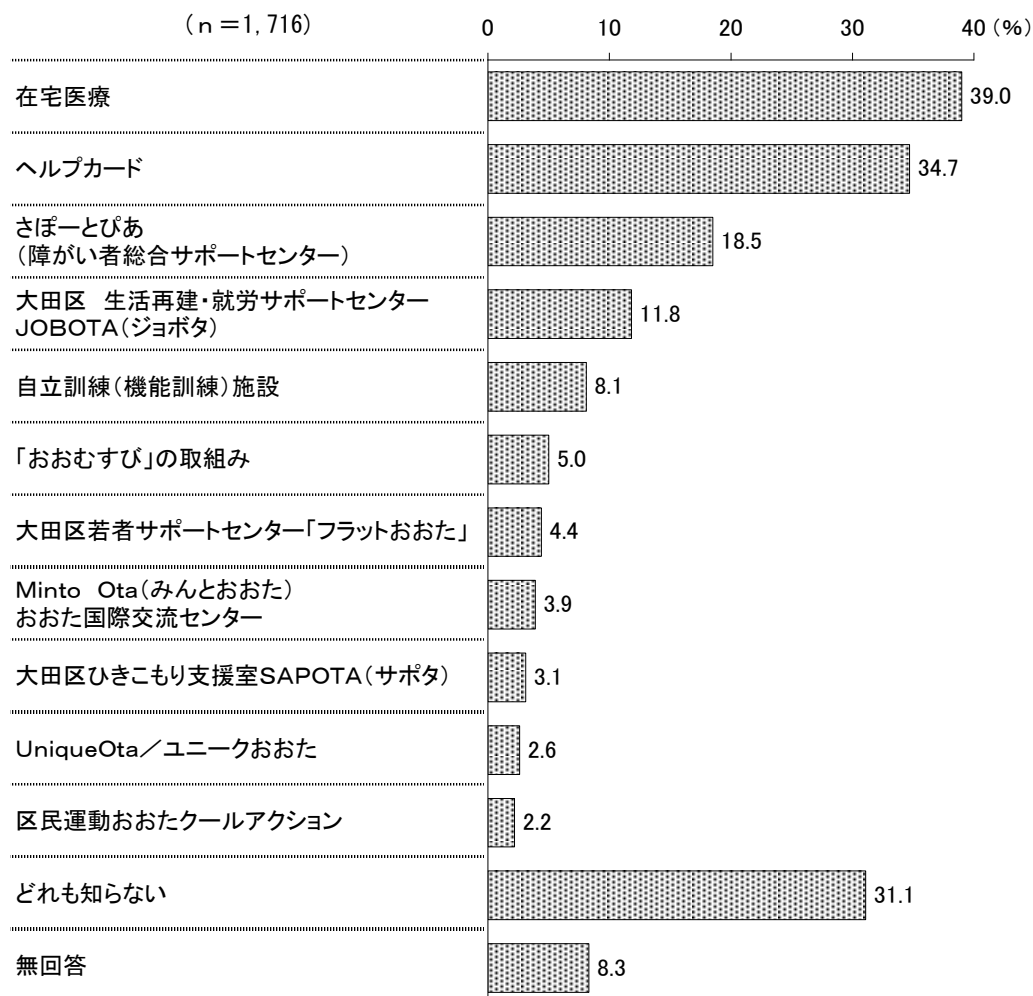
7. 区政への関心と要望

(1) 大田区等の制度・施策・施設の認知度

◇「在宅医療」が約4割

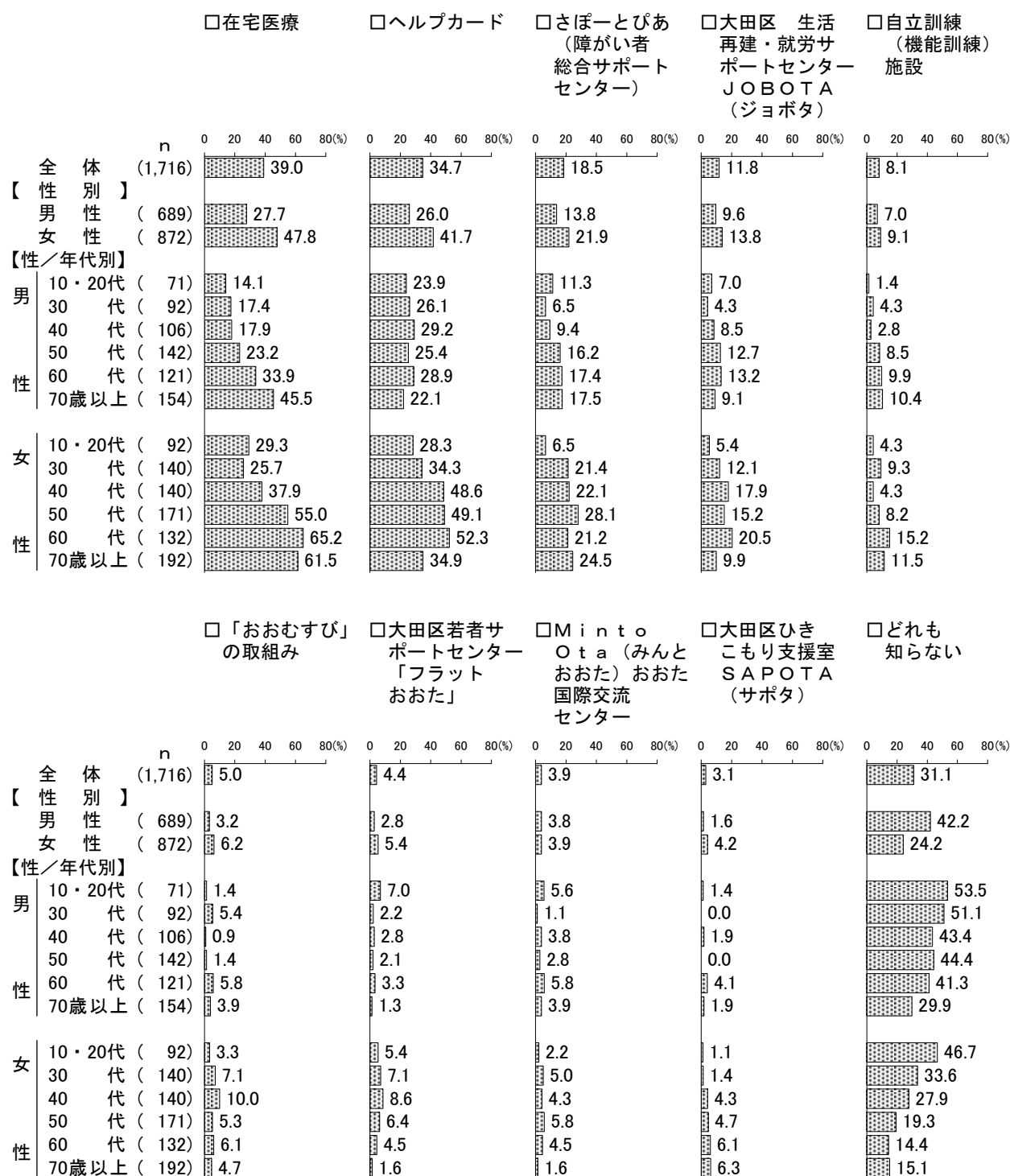
問21 以下の大田区等の制度、施策、施設のうち、あなたをご存知のものをすべて挙げてください。(〇はいくつでも)

図 7-1-1



区等の制度、施策、施設について知っているものを聞いたところ、「在宅医療」(39.0%)が約4割で最も高く、次いで「ヘルプカード」(34.7%)、「さぼーとぴあ(障がい者総合サポートセンター)」(18.5%)、「大田区 生活再建・就労サポートセンター JOBOTA(ジョボタ)」(11.8%)などの順になっている。一方、「どれも知らない」(31.1%)は3割を超えている。(図7-1-1)

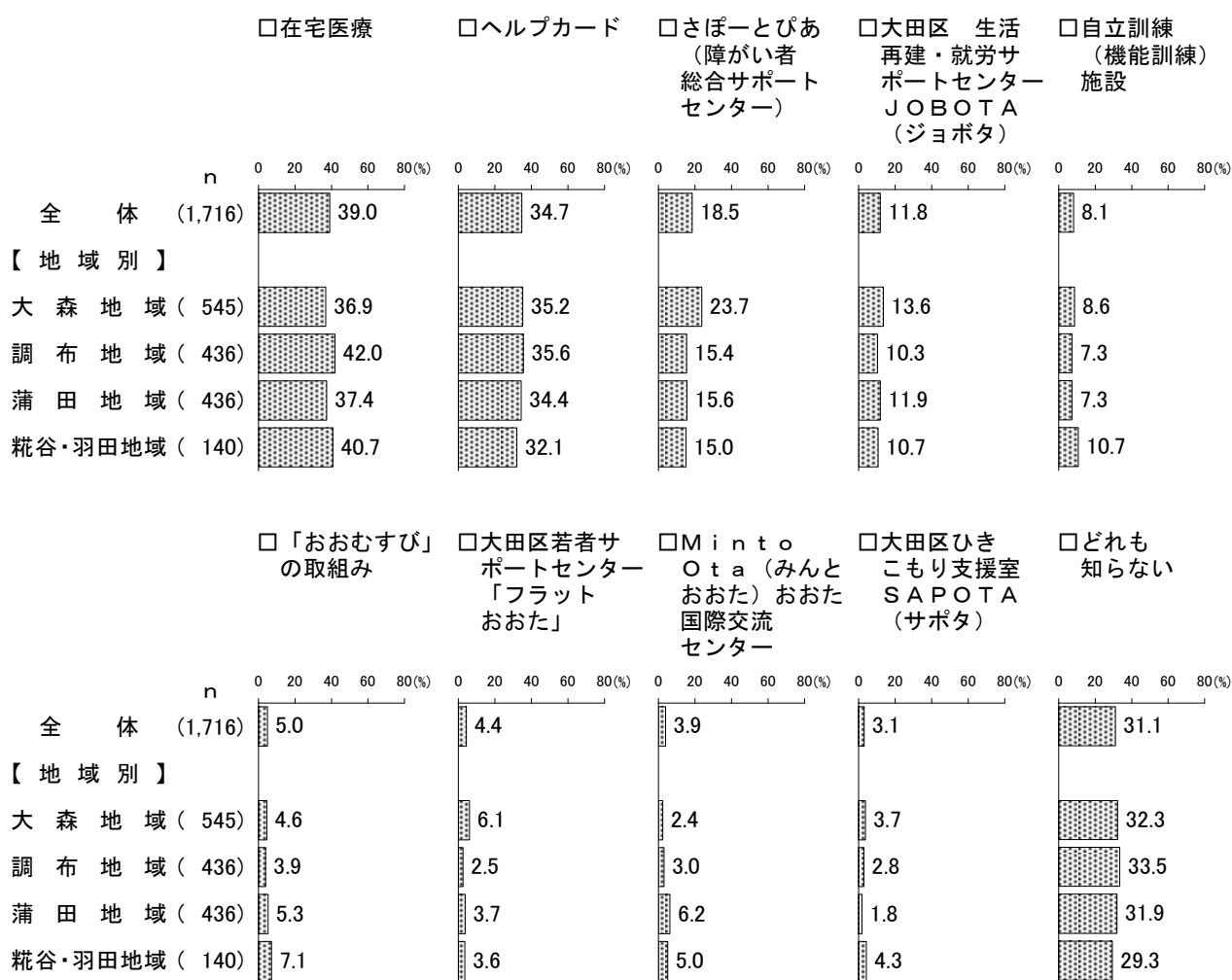
図 7-1-2 大田区等の制度・施策・施設の認知度－性／年代別（上位10項目）



上位10項目を性別でみると、全ての項目で女性が男性を上回っており、「在宅医療」は女性（47.8%）が男性（27.7%）より20.1ポイント、「ヘルプカード」は女性（41.7%）が男性（26.0%）より15.7ポイント、それぞれ高くなっている。

性／年代別でみると、「在宅医療」は女性60代（65.2%）で6割半ばと高くなっている。「ヘルプカード」は女性60代（52.3%）で5割を超えて高くなっている。「さぽーとぴあ（障がい者総合サポートセンター）」は女性50代（28.1%）で3割近くと高くなっている。（図 7-1-2）

図 7-1-3 大田区等の制度・施策・施設の認知度—地域別（上位10項目）



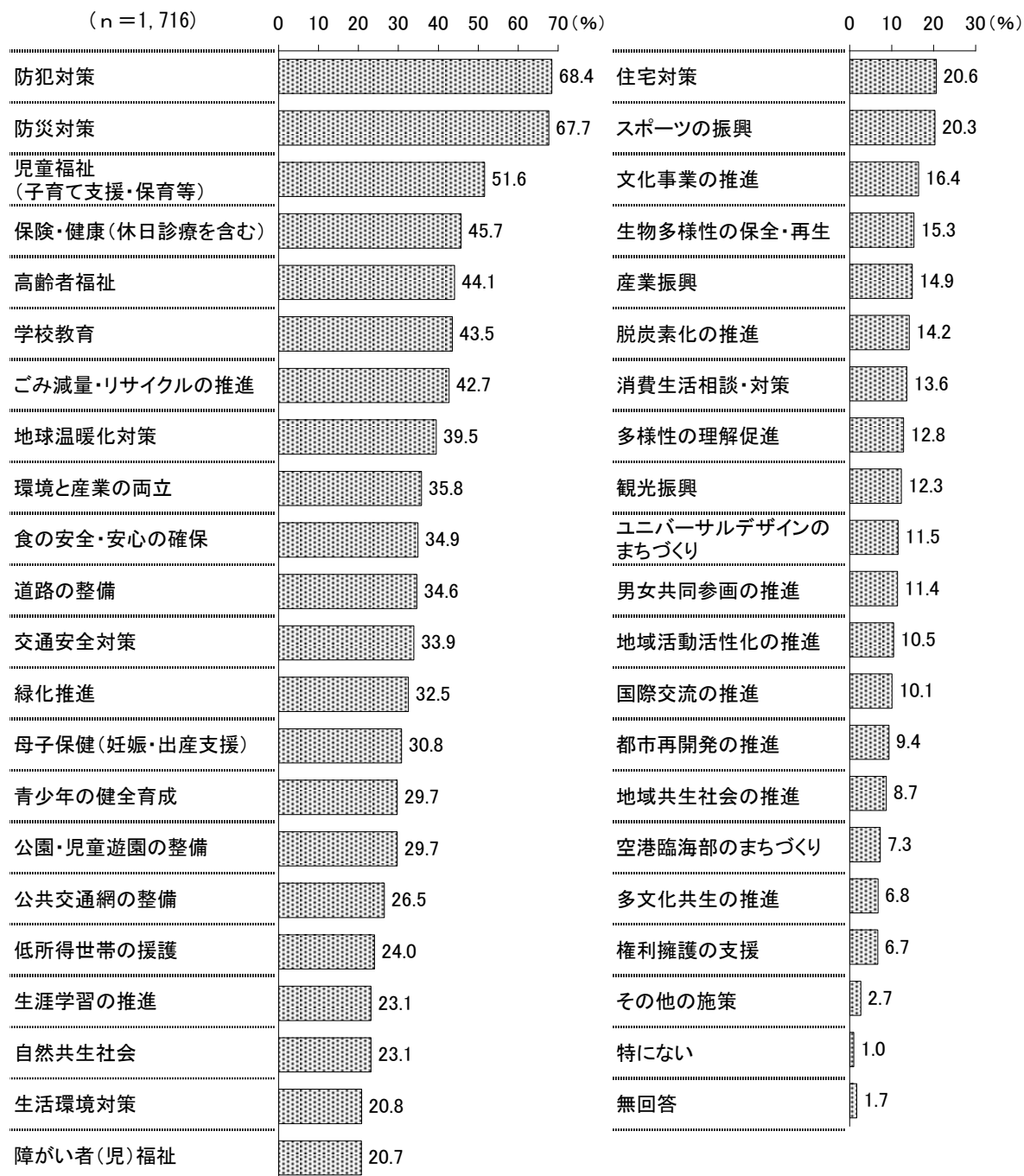
上位10項目を地域別でみると、「在宅医療」は調布地域（42.0%）で4割を超えて高くなっている。「さぼーとぴあ（障がい者総合サポートセンター）」は大森地域（23.7%）で2割を超えて高くなっている。（図 7-1-3）

(2) 施策要望

◇「防犯対策」と「防災対策」がともに7割近く

問22 大田区の施策の中で、特に何に力を入れてほしいと思いますか。(〇はいくつでも)

図 7-2-1



区の施策の中で、特に力を入れてほしいことを聞いたところ、「防犯対策」(68.4%)と「防災対策」(67.7%)がともに7割近くで高く、次いで「児童福祉(子育て支援・保育等)」(51.6%)、「保険・健康(休日診療を含む)」(45.7%)、「高齢者福祉」(44.1%)などの順になっている。

「その他の施策」への回答として、「無電柱化」、「動物保護」、「空き家対策」などがあげられている。(図 7-2-1)

表 7-2-1 施策要望一経年比較（上位10項目）

	令和7年	令和5年	令和3年	平成30年	平成29年
1位	防犯対策 (68.4)	防災対策 (57.5)	防災対策 (62.8)	防災対策 (53.5)	防犯対策 (51.9)
2位	防災対策 (67.7)	防犯対策 (55.0)	防犯対策 (52.6)	防犯対策 (49.7)	防災対策 (51.0)
3位	児童福祉(子育て支援・保育等) (51.6)	保健・健康(休日診療を含む) (41.5)	保健・健康(休日診療を含む) (41.0)	児童福祉(子育て支援・保育等) (38.6)	高齢者福祉 (37.9)
4位	保険・健康(休日診療を含む) (45.7)	児童福祉(子育て支援・保育等) (39.7)	児童福祉(子育て支援・保育等) (38.3)	高齢者福祉 (38.2)	児童福祉(子育て支援・保育等) (36.1)
5位	高齢者福祉 (44.1)	清掃・リサイクルの推進 (35.9)	高齢者福祉 (38.1)	緑化推進 (30.5)	保健・健康(休日診療を含む) (34.6)
6位	学校教育 (43.5)	高齢者福祉 (35.8)	交通安全対策 (37.5)	保健・健康(休日診療を含む) (30.4)	緑化推進 (31.7)
7位	ごみ減量・リサイクルの推進 (42.7)	交通安全対策 (35.4)	清掃・リサイクルの推進 (36.0)	学校教育 (29.1)	交通安全対策 (31.6)
8位	地球温暖化対策 (39.5)	公園・児童遊園の整備 (34.3)	道路の整備 (34.8)	交通安全対策 (28.4)	公園・児童遊園の整備 (28.4)
9位	環境と産業の両立 (35.8)	学校教育 (33.0)	緑化推進 (34.7)	公園・児童遊園の整備 (27.4)	道路の整備 (27.6)
10位	食の安全・安心の確保 (34.9)	緑化推進 (32.6)	学校教育 (34.1)	清掃・リサイクルの推進 (27.2)	清掃・リサイクルの推進 (27.5)

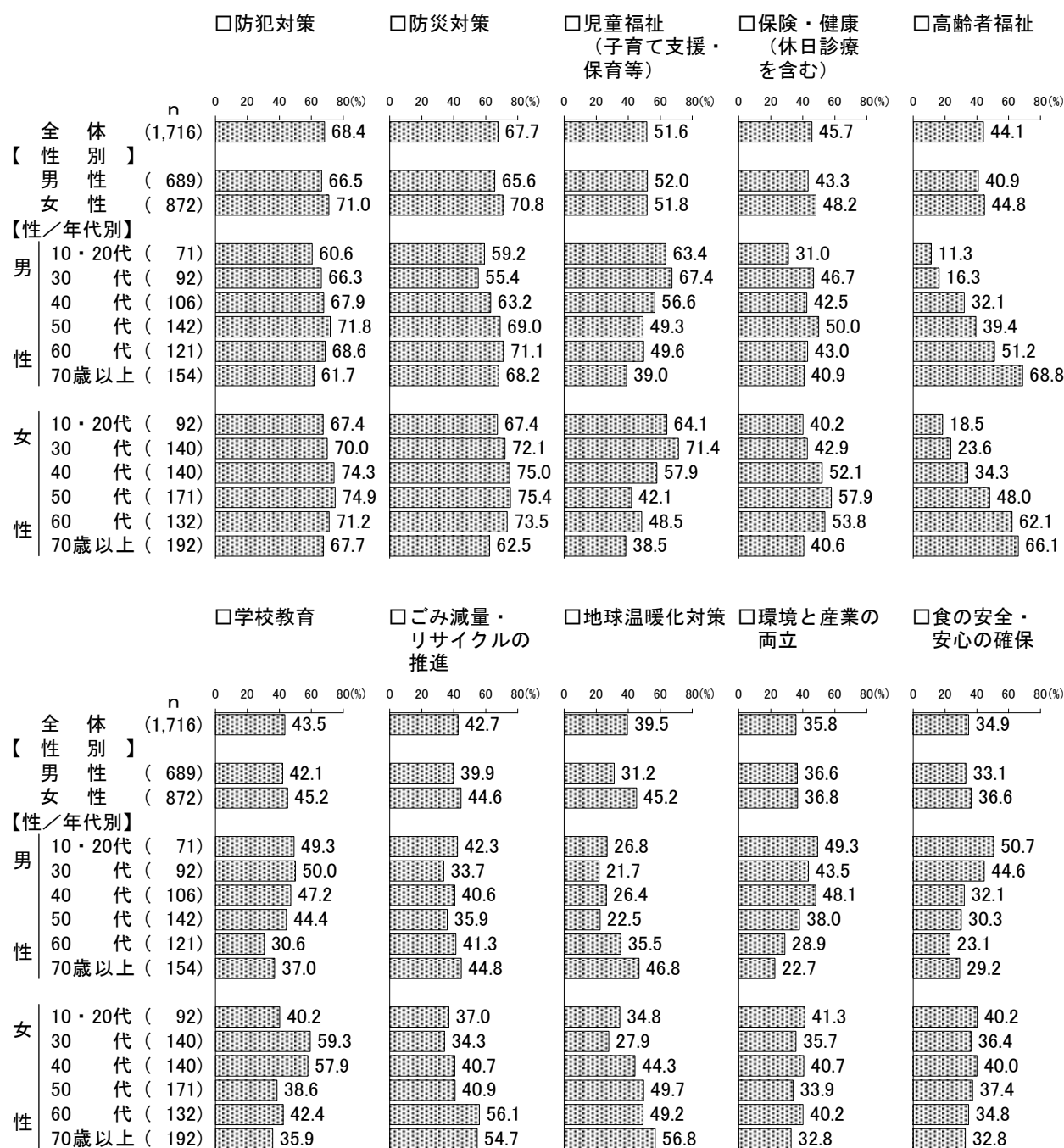
※同ポイントの項目は選択肢の順に記載している。

※「ごみ減量・リサイクルの推進」は、令和5年までは「清掃・リサイクルの推進」としていた。

※「地球温暖化対策」、「環境と産業の両立」は、令和7年から追加された選択肢。

上位10項目の経年比較をみると、前回調査では2位だった「防犯対策」が1位、前回調査では1位だった「防災対策」が2位となっている。また、前回調査では4位だった「児童福祉（子育て支援・保育等）」が3位、前回調査では3位だった「保健・健康（休日診療を含む）」が4位となっている。（表7-2-1）

図 7-2-2 施策要望一性／年代別（上位10項目）



上位10項目を性別で見ると、多くの項目で女性が男性を上回っており、「地球温暖化対策」は女性（45.2%）が男性（31.2%）より14.0ポイント、「防災対策」は女性（70.8%）が男性（65.6%）より5.2ポイント、それぞれ高くなっている。

性／年代別で見ると、「防犯対策」は女性40代（74.3%）と女性50代（74.9%）で7割半ばと高くなっている。「防災対策」は女性40代（75.0%）と女性50代（75.4%）で7割半ばと高くなっている。「児童福祉（子育て支援・保育等）」は女性30代（71.4%）で7割を超えて高くなっている。

（図 7-2-2）

表 7-2-2 施策要望―地域別（上位 5 項目）

(%)

	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 体	1,716	防犯対策 (68.4)	防災対策 (67.7)	児童福祉(子育て支援・保育等) (51.6)	保険・健康(休日診療を含む) (45.7)	高齢者福祉 (44.1)
大 森 地 域	545	防犯対策 (66.8)	防災対策 (65.1)	児童福祉(子育て支援・保育等) (53.6)	保険・健康(休日診療を含む) (45.7)	高齢者福祉 (41.7)
調 布 地 域	436	防犯対策 (70.4)	防災対策 (69.0)	児童福祉(子育て支援・保育等) (50.5)	学校教育 (45.6)	高齢者福祉 (43.6)
蒲 田 地 域	436	防犯対策 (71.3)	防災対策 (70.4)	児童福祉(子育て支援・保育等) (50.7)	保険・健康(休日診療を含む) (46.6)	学校教育 (46.1)
糀谷・羽田地域	140	防災対策 (70.7)	防犯対策 (65.0)	保険・健康(休日診療を含む) (55.0)	児童福祉(子育て支援・保育等) (54.3)	ごみ減量・リサイクルの推進 (52.9)

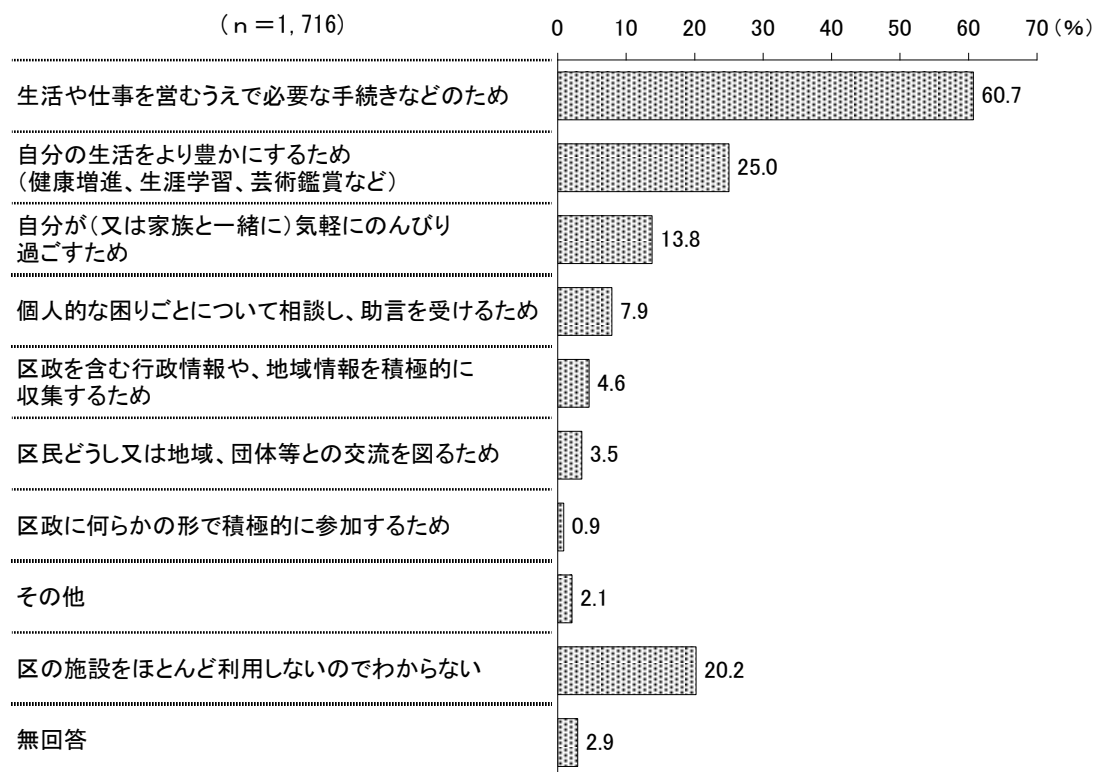
上位 5 項目を地域別でみると、糀谷・羽田地域を除く全ての地域で「防犯対策」が 1 位、「防災対策」が 2 位となっている。また、糀谷・羽田地域では「防災対策」が 1 位、「防犯対策」が 2 位となっている。(表 7-2-2)

(3) 区内施設の利用目的

◇「生活や仕事を営むうえで必要な手続きなどのため」が約6割

問23 あなたは、どんな目的で大田区の施設を利用することが多いですか。(○は3つまで)

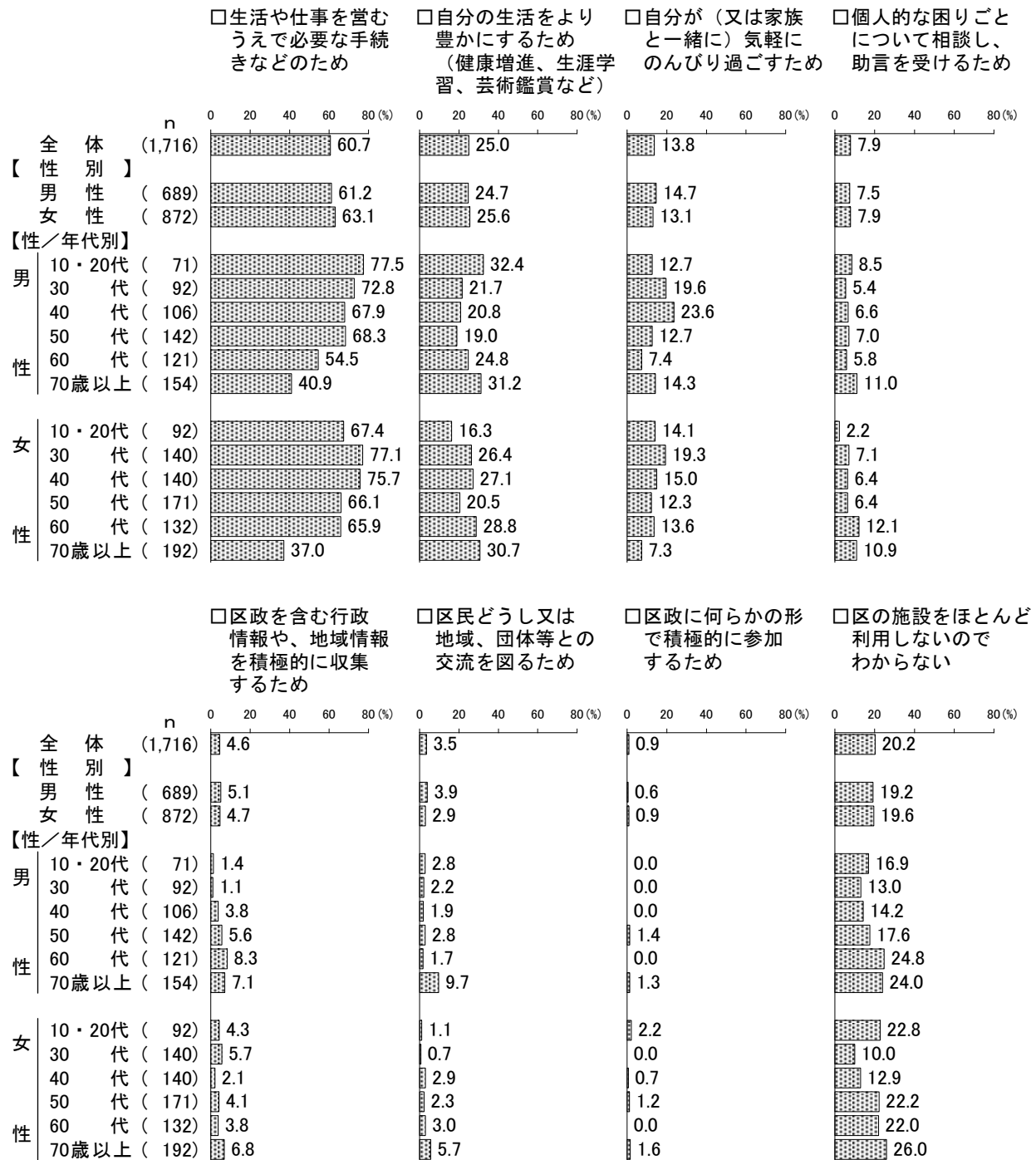
図 7-3-1



どんな目的で大田区の施設を利用することが多いか聞いたところ、「生活や仕事を営むうえで必要な手続きなどのため」(60.7%)が約6割で最も高く、次いで「自分の生活をより豊かにするため(健康増進、生涯学習、芸術鑑賞など)」(25.0%)、「自分が(又は家族と一緒に)気軽にのんびり過ごすため」(13.8%)などの順になっている。一方、「区の施設をほとんど利用しないのでわからない」(20.2%)は2割となっている。

「その他」への回答として、「図書館」、「子どもの習い事」、「スポーツをするため」などがあげられている。(図 7-3-1)

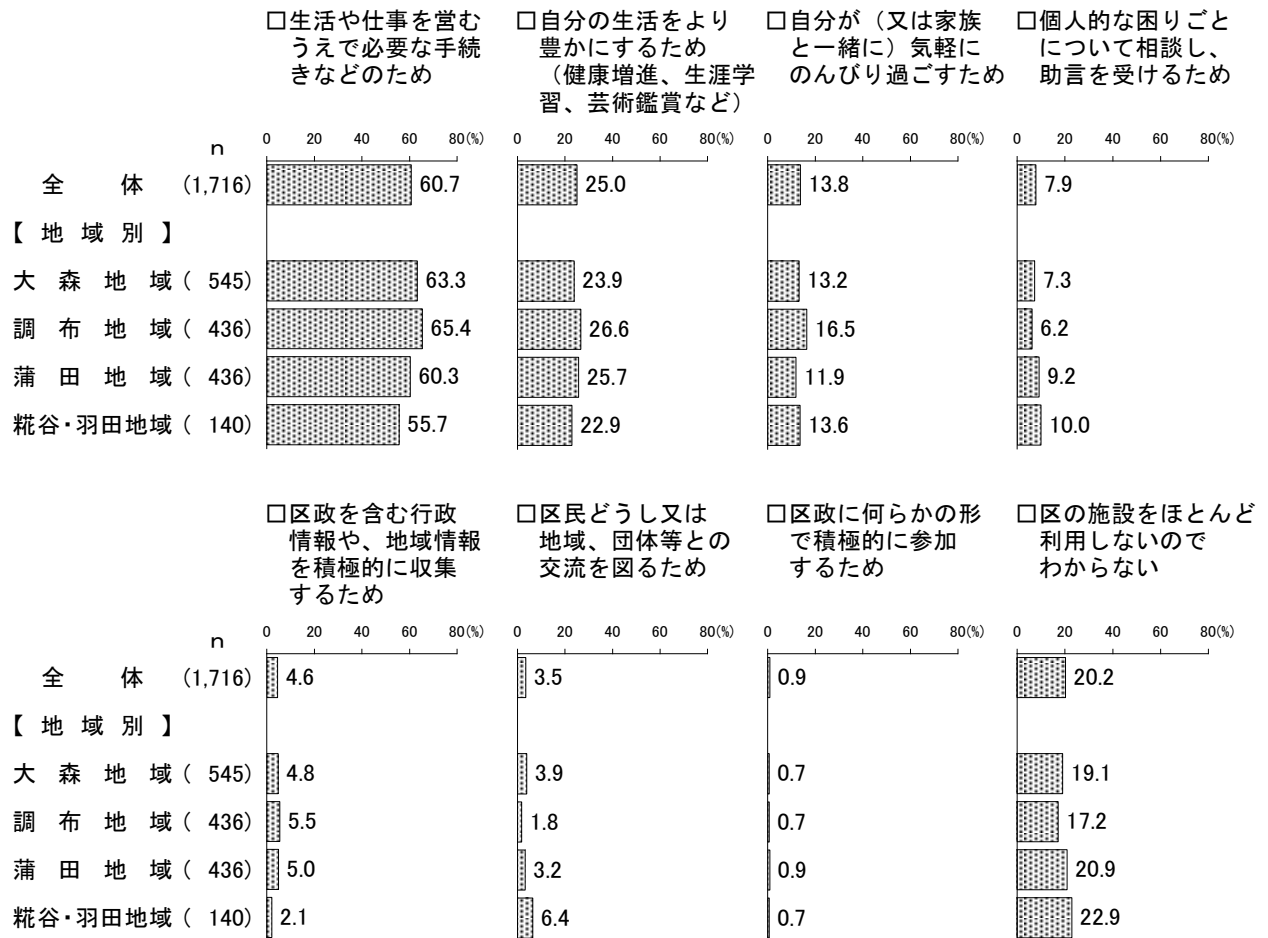
図 7-3-2 区内施設の利用目的一性／年代別



性別でみると、大きな違いはみられない。

性／年代別でみると、「生活や仕事を営むうえで必要な手続きなどのため」は男性10・20代（77.5%）と女性30代（77.1%）で8割近くと高くなっている。「自分の生活をより豊かにするため（健康増進、生涯学習、芸術鑑賞など）」は男性10・20代（32.4%）と男性70歳以上（31.2%）で3割を超えて高くなっている。「自分が（又は家族と一緒に）気軽にのんびり過ごすため」は男性40代（23.6%）で2割を超えて高くなっている。（図7-3-2）

図 7-3-3 区内施設の利用目的—地域別



地域別でみると、「生活や仕事を営むうえで必要な手続きなどのため」は調布地域（65.4％）で6割半ばと高くなっている。「自分の生活をより豊かにするため（健康増進、生涯学習、芸術鑑賞など）」は調布地域（26.6％）で3割近くと高くなっている。（図 7-3-3）

(4) 区の媒体の利用頻度

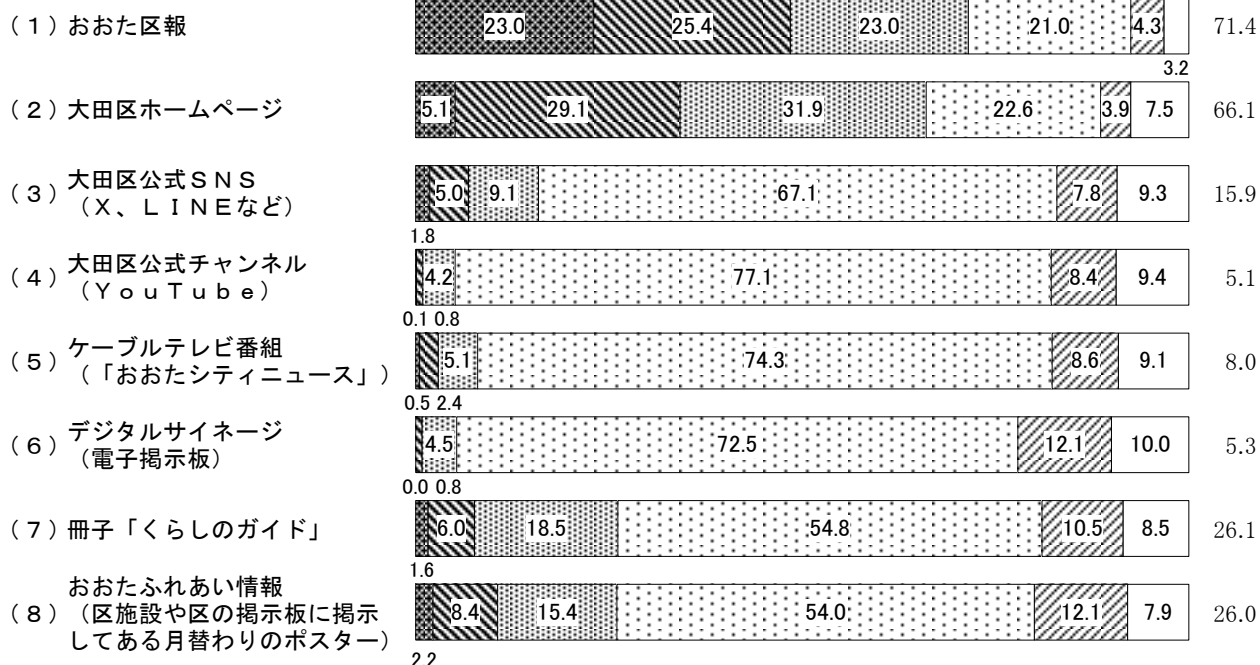
◇「よく利用している」、「たまに利用している」、「利用したことがある」を合わせた『利用している（計）』は“おおた区報”で7割を超える

問24 あなたは区政に関する情報を知りたいとき、それぞれの媒体をどの程度利用して（見て）いますか。（〇はそれぞれ1つ）

図 7-4-1

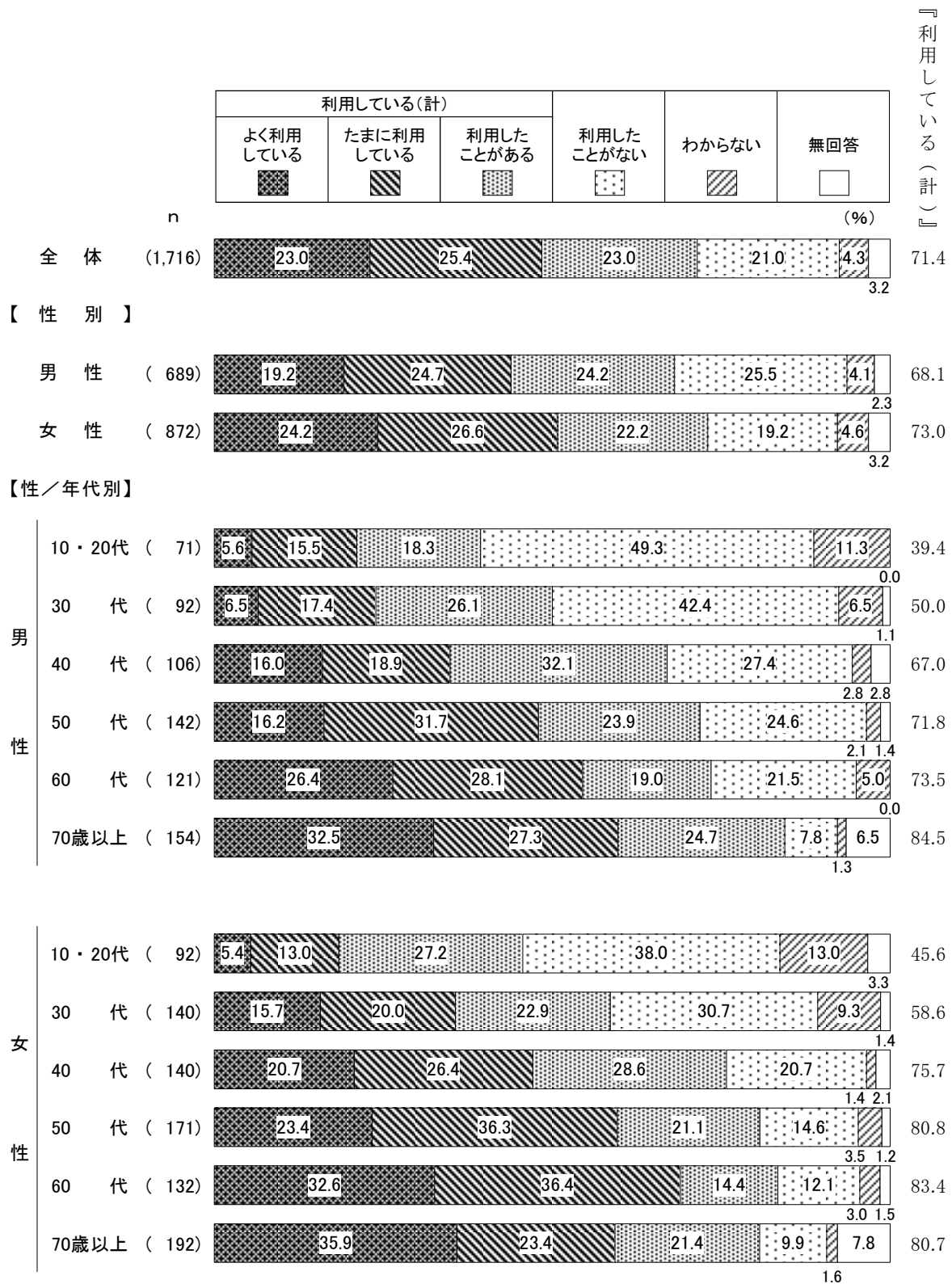
『利用している（計）』

(n=1,716)



区政に関する情報を知りたいとき、それぞれの媒体をどの程度利用しているか聞いたところ、「よく利用している」、「たまに利用している」、「利用したことがある」を合わせた『利用している（計）』は“おおた区報”（71.4%）で7割を超え、“大田区ホームページ”（66.1%）で6割半ばと高くなっている。（図 7-4-1）

図 7-4-2 区の媒体の利用頻度－性／年代別【(1) おおた区報】

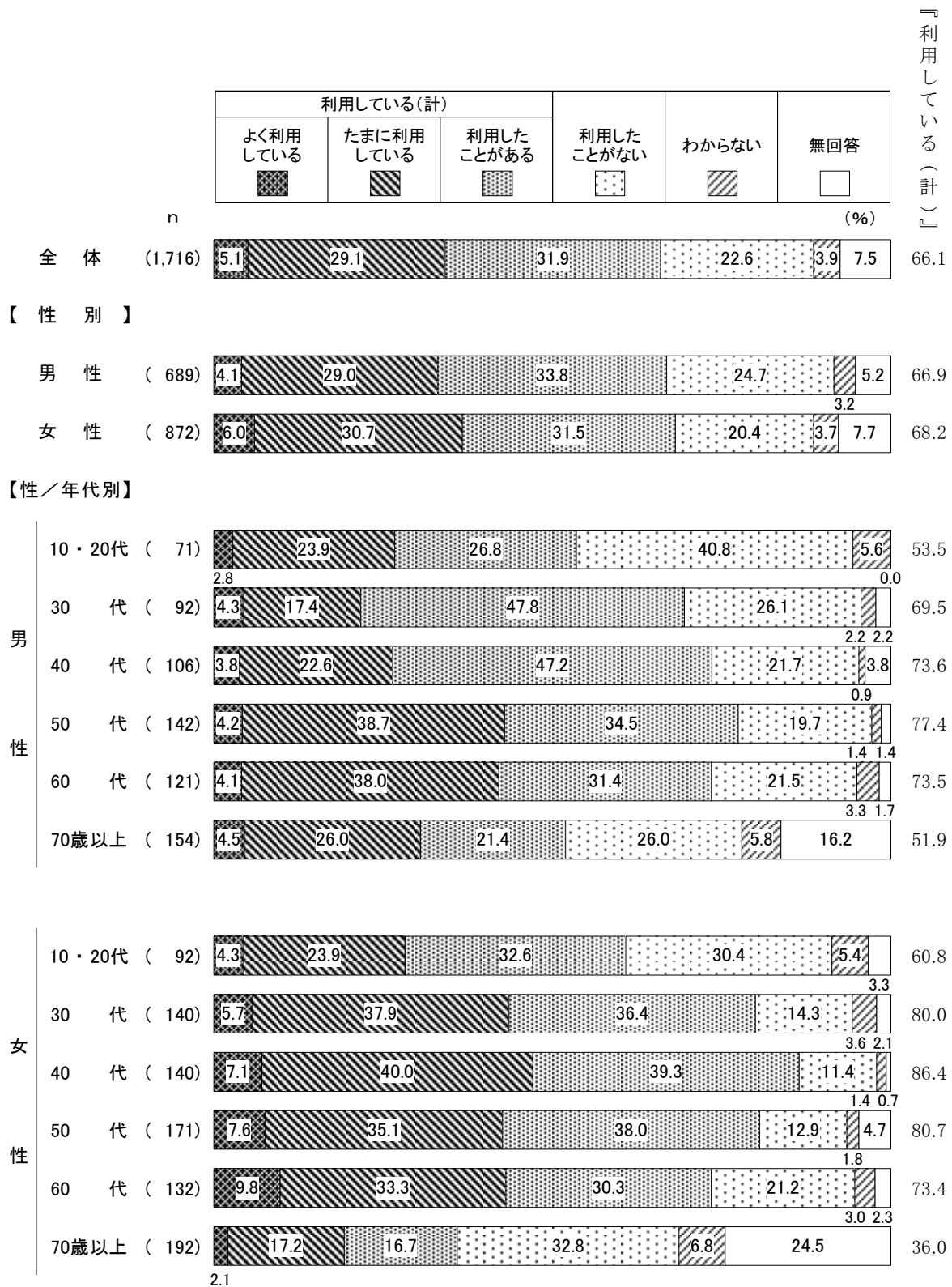


“おおた区報”を性別でみると、『利用している(計)』は女性(73.0%)が男性(68.1%)より4.9ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『利用している(計)』は男性70歳以上(84.5%)で8割半ばと高くなっている。一方、「利用したことがない」は男性10・20代(49.3%)で約5割と高くなっている。

(図 7-4-2)

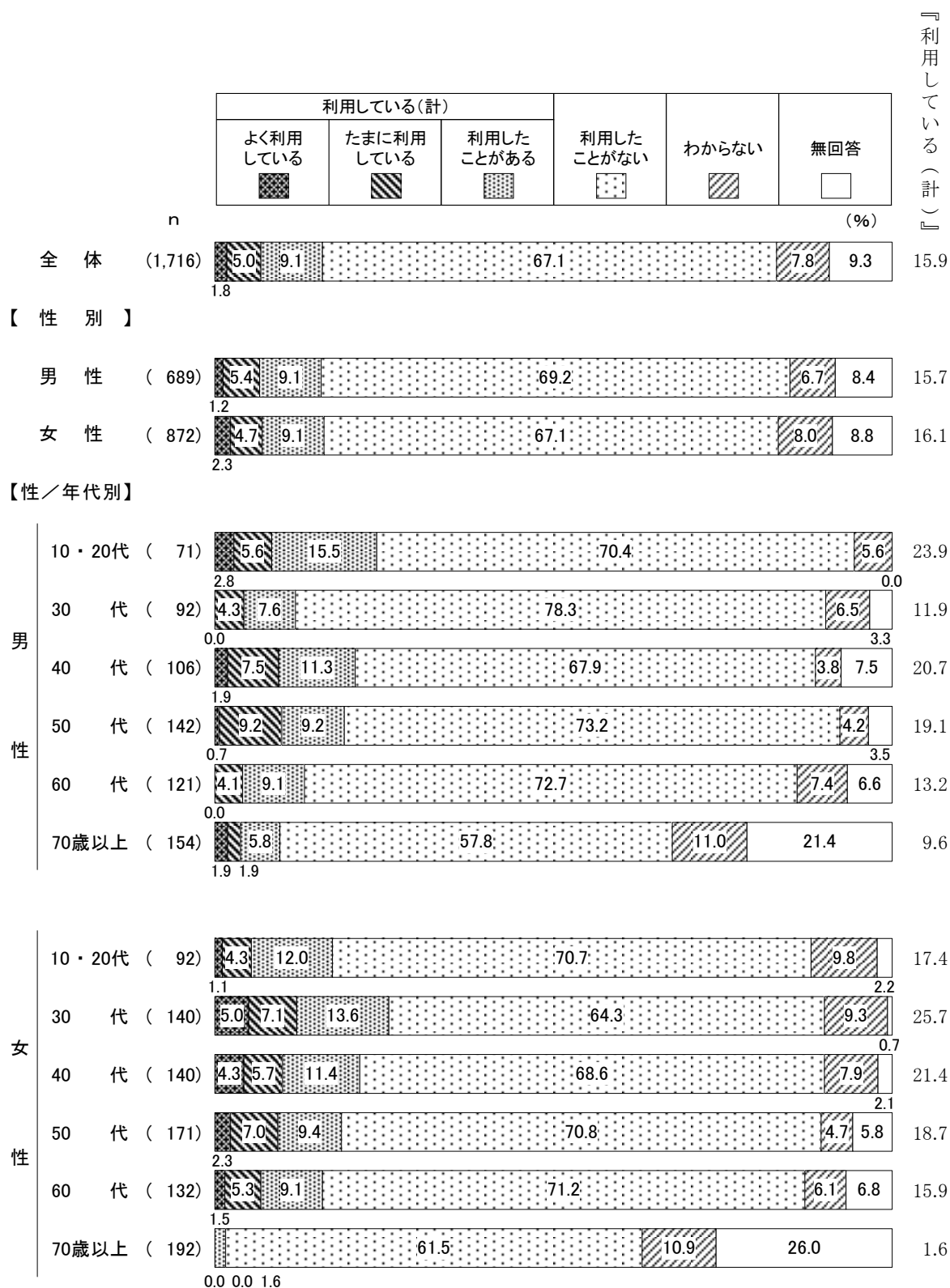
図 7-4-3 区の媒体の利用頻度－性／年代別【(2) 大田区ホームページ】



“大田区ホームページ”を性別でみると、「利用したことがない」は男性(24.7%)が女性(20.4%)より4.3ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『利用している(計)』は女性40代(86.4%)で8割半ばと高くなっている。一方、「利用したことがない」は男性10・20代(40.8%)で約4割と高くなっている。(図7-4-3)

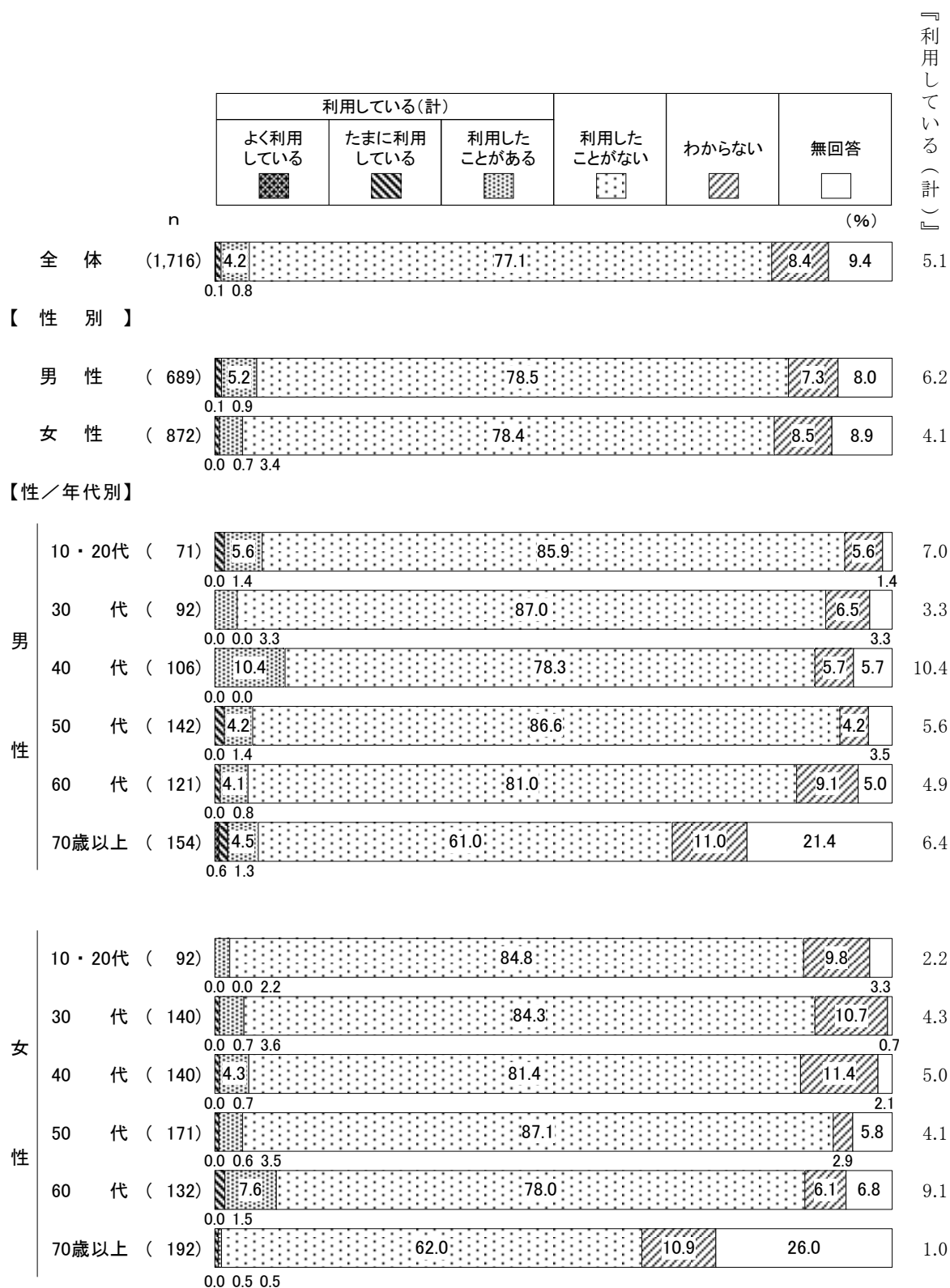
図 7-4-4 区の媒体の利用頻度－性／年代別【(3) 大田区公式SNS (X、LINEなど)】



“大田区公式SNS (X、LINEなど)” を性別でみると、大きな違いはみられない。

性／年代別でみると、『利用している(計)』は女性30代(25.7%)で2割半ばと高くなっている。一方、「利用したことがない」は男性30代(78.3%)で8割近くと高くなっている。(図7-4-4)

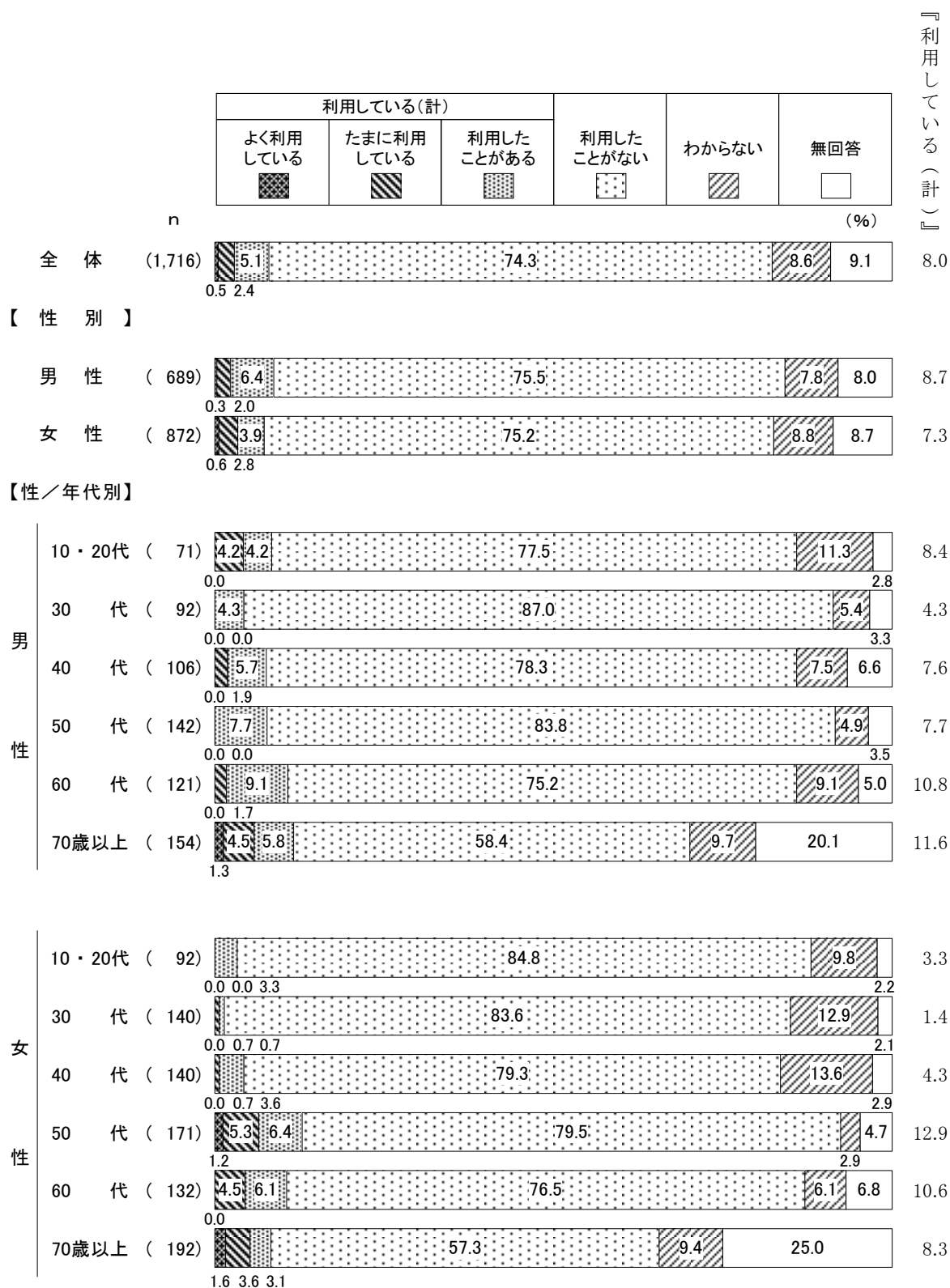
図 7-4-5 区の媒体の利用頻度－性／年代別【(4) 大田区公式チャンネル (YouTube)】



“大田区公式チャンネル (YouTube)” を性別でみると、大きな違いはみられない。

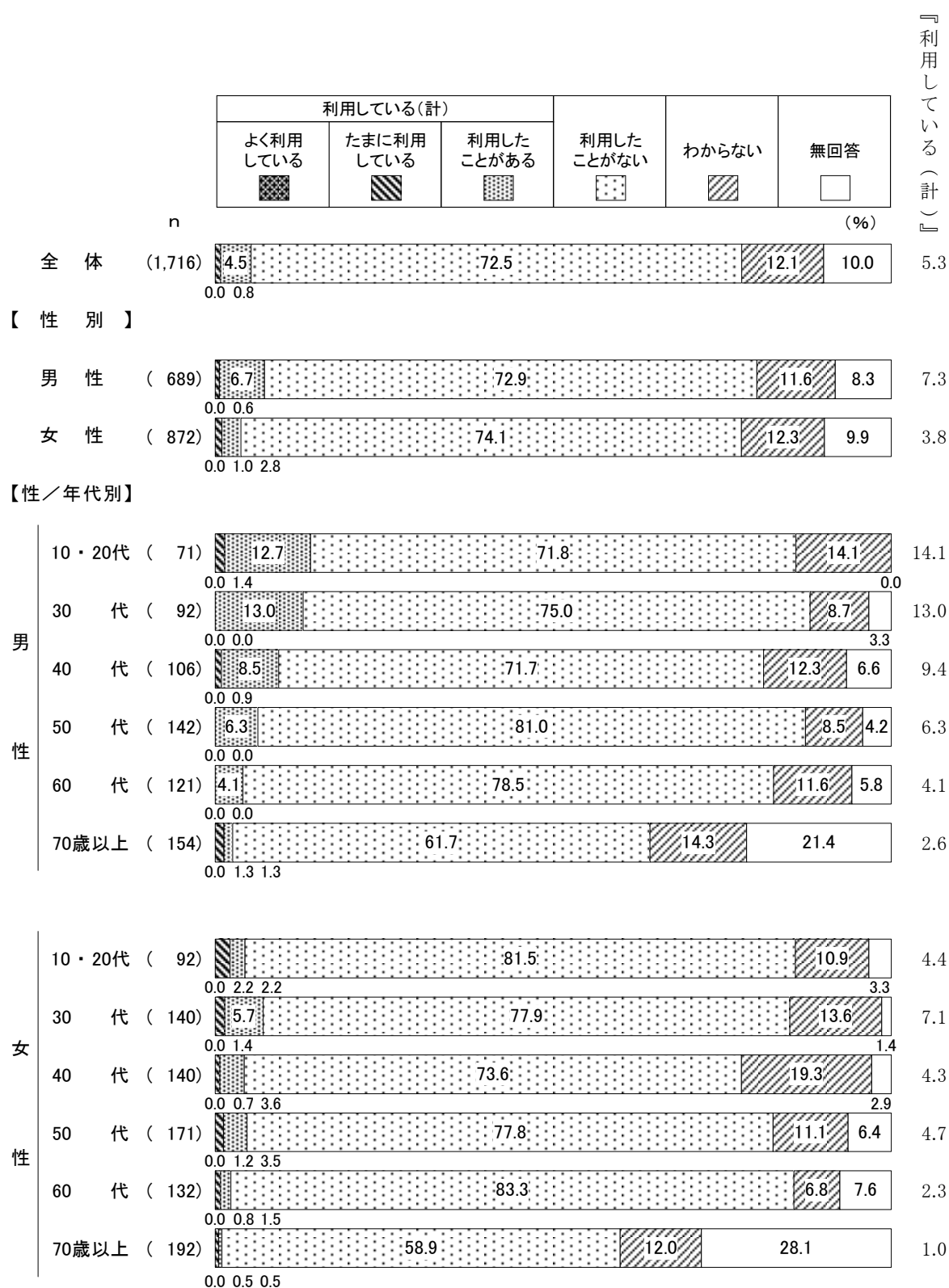
性／年代別でみると、『利用している(計)』は男性40代(10.4%)と女性60代(9.1%)で約1割となっている。一方、「利用したことがない」は女性50代(87.1%)、男性30代(87.0%)、男性50代(86.6%)で9割近くと高くなっている。(図7-4-5)

図 7-4-6 区の媒体の利用頻度－性／年代別【(5) ケーブルテレビ番組(「おおたシティニュース」)】



“ケーブルテレビ番組(「おおたシティニュース」)”を性別でみると、大きな違いはみられない。性／年代別でみると、『利用している(計)』は女性50代(12.9%)と男性70歳以上(11.6%)で1割を超えている。一方、「利用したことがない」は男性30代(87.0%)で9割近くと高くなっている。(図7-4-6)

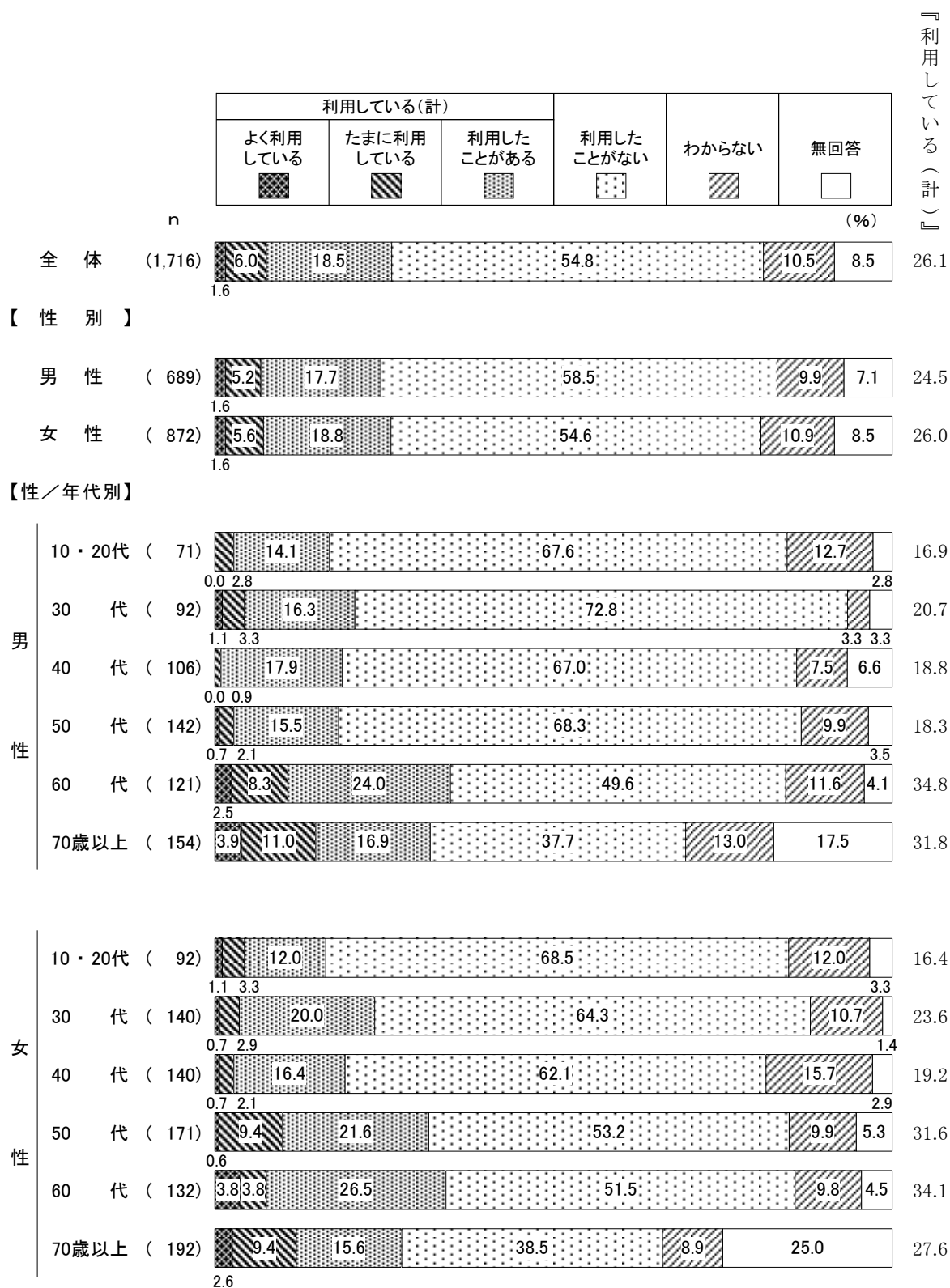
図7-4-7 区の媒体の利用頻度－性／年代別【(6) デジタルサイネージ（電子掲示板）】



“デジタルサイネージ（電子掲示板）”を性別でみると、『利用している（計）』は男性（7.3%）が女性（3.8%）より3.5ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『利用している（計）』は男性10・20代（14.1%）で1割半ばとなっている。一方、「利用したことがない」は女性10・20代（81.5%）、女性60代（83.3%）、男性50代（81.0%）で8割を超えて高くなっている。（図7-4-7）

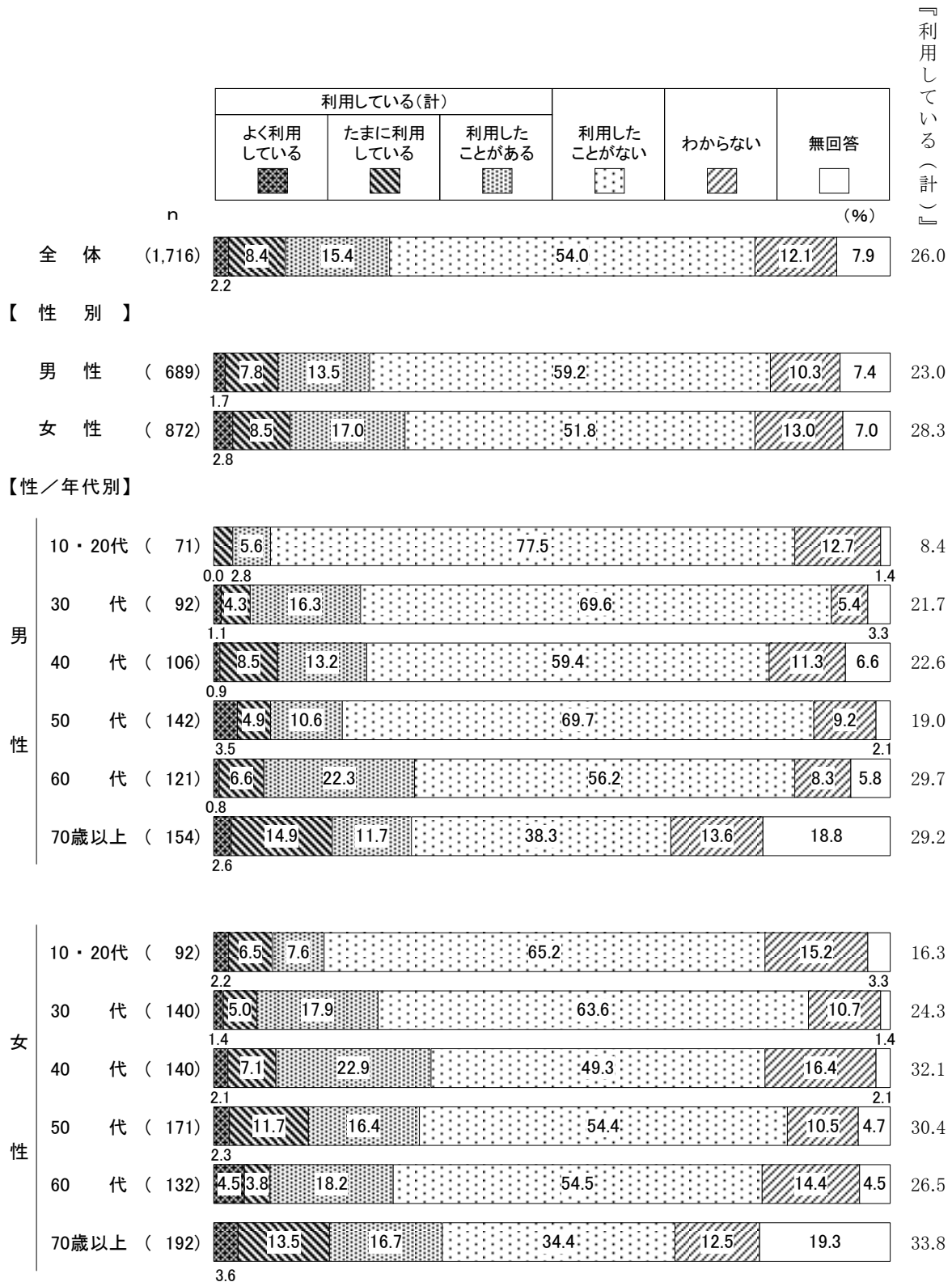
図 7-4-8 区の媒体の利用頻度－性／年代別【(7) 冊子「くらしのガイド」】



“冊子「くらしのガイド」”を性別でみると、「利用したことがない」は男性（58.5%）が女性（54.6%）より3.9ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『利用している（計）』は男性60代（34.8%）と女性60代（34.1%）で3割半ばと高くなっている。一方、「利用したことがない」は男性30代（72.8%）で7割を超えて高くなっている。（図 7-4-8）

図7-4-9 区の媒体の利用頻度－性／年代別【(8) おたふれあい情報】



“おたふれあい情報”を性別でみると、『利用している(計)』は女性(28.3%)が男性(23.0%)より5.3ポイント高くなっている。

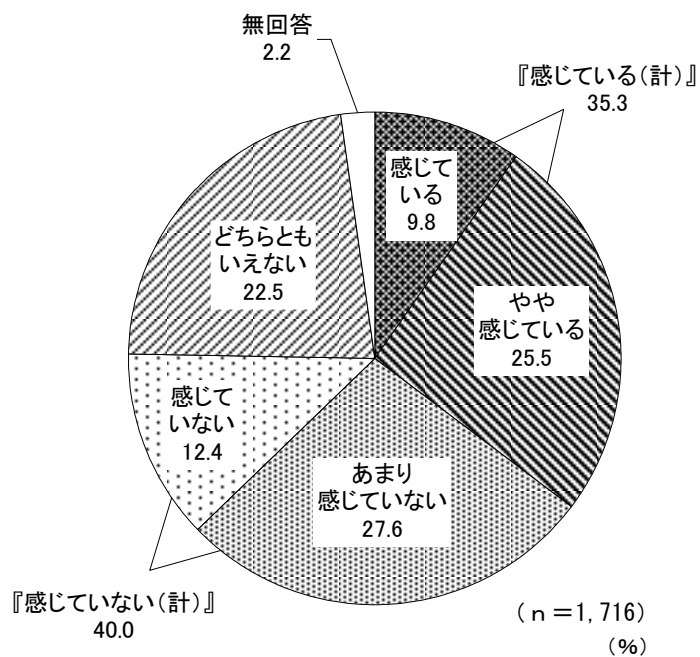
性／年代別でみると、『利用している(計)』は女性40代(32.1%)と女性70歳以上(33.8%)で3割を超えて高くなっている。一方、「利用したことがない」は男性10・20代(77.5%)で8割近くと高くなっている。(図7-4-9)

(5) 必要な区政情報がわかりやすく届いていると感じているか

◇「感じている」と「やや感じている」を合わせた『感じている(計)』は3割半ば

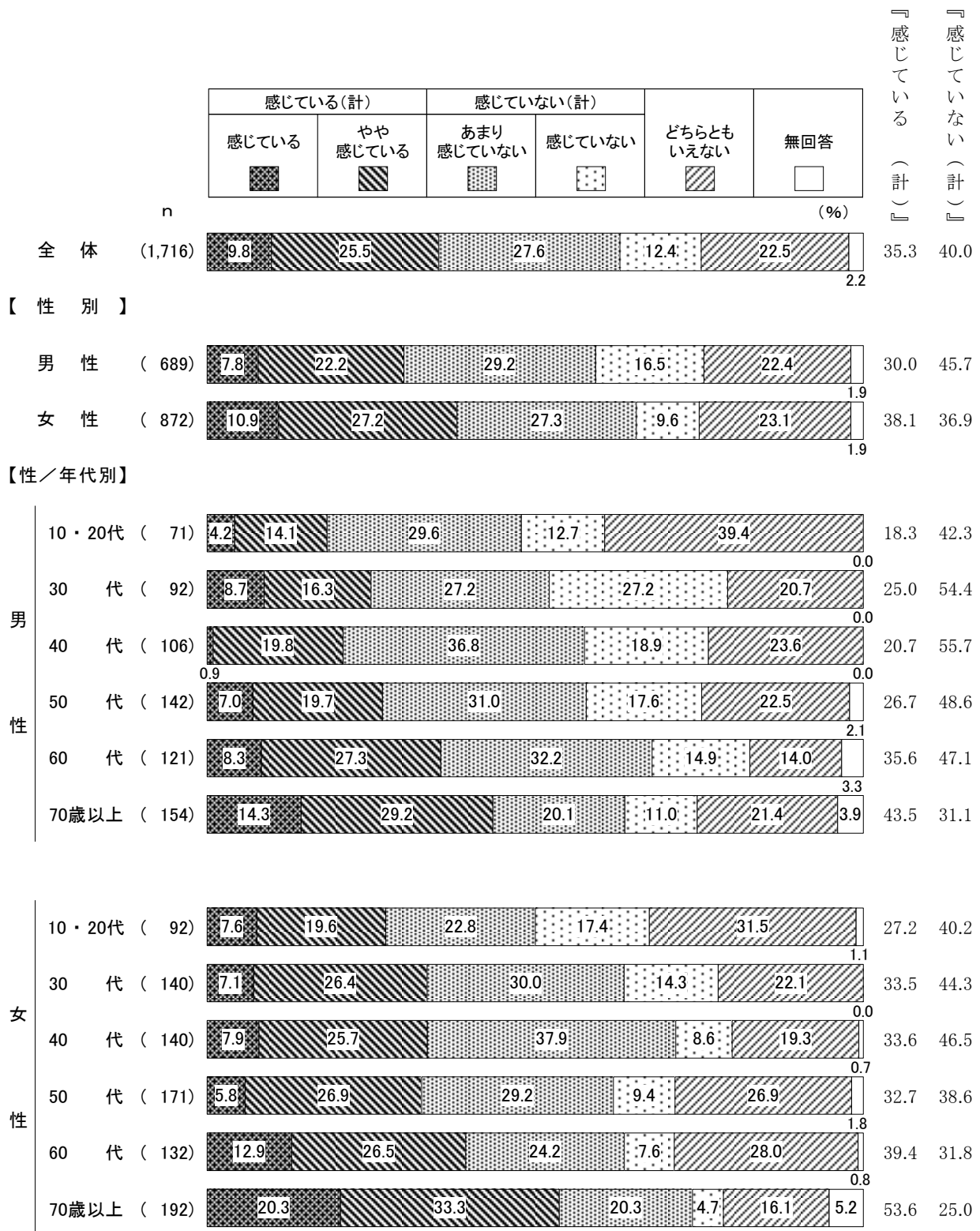
問25 あなたは、必要な区政情報が区報や区のホームページなどを通じてわかりやすく届いていると感じていますか。(○は1つだけ)

図 7-5-1



必要な区政情報が区報や区のホームページなどを通じてわかりやすく届いていると感じているか聞いたところ、「感じている」(9.8%)と「やや感じている」(25.5%)を合わせた『感じている(計)』(35.3%)は3割半ばとなっている。一方、「あまり感じていない」(27.6%)と「感じていない」(12.4%)を合わせた『感じていない(計)』(40.0%)は4割となっている。(図 7-5-1)

図 7-5-2 必要な区政情報がわかりやすく届いていると感じているかー性／年代別



性別でみると、『感じている (計)』は女性 (38.1%) が男性 (30.0%) より8.1ポイント高くなっている。

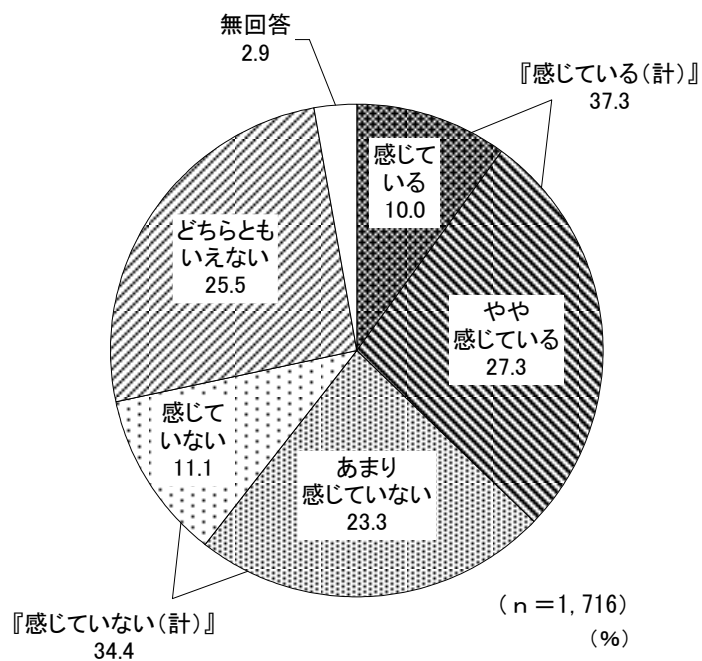
性／年代別でみると、『感じている (計)』は女性70歳以上 (53.6%) で5割を超えて高くなっている。一方、『感じていない (計)』は男性30代 (54.4%) と男性40代 (55.7%) で5割半ばと高くなっている。(図 7-5-2)

(6) オンライン化により行政手続は便利になったと感じているか

◇「感じている」と「やや感じている」を合わせた『感じている(計)』は4割近く

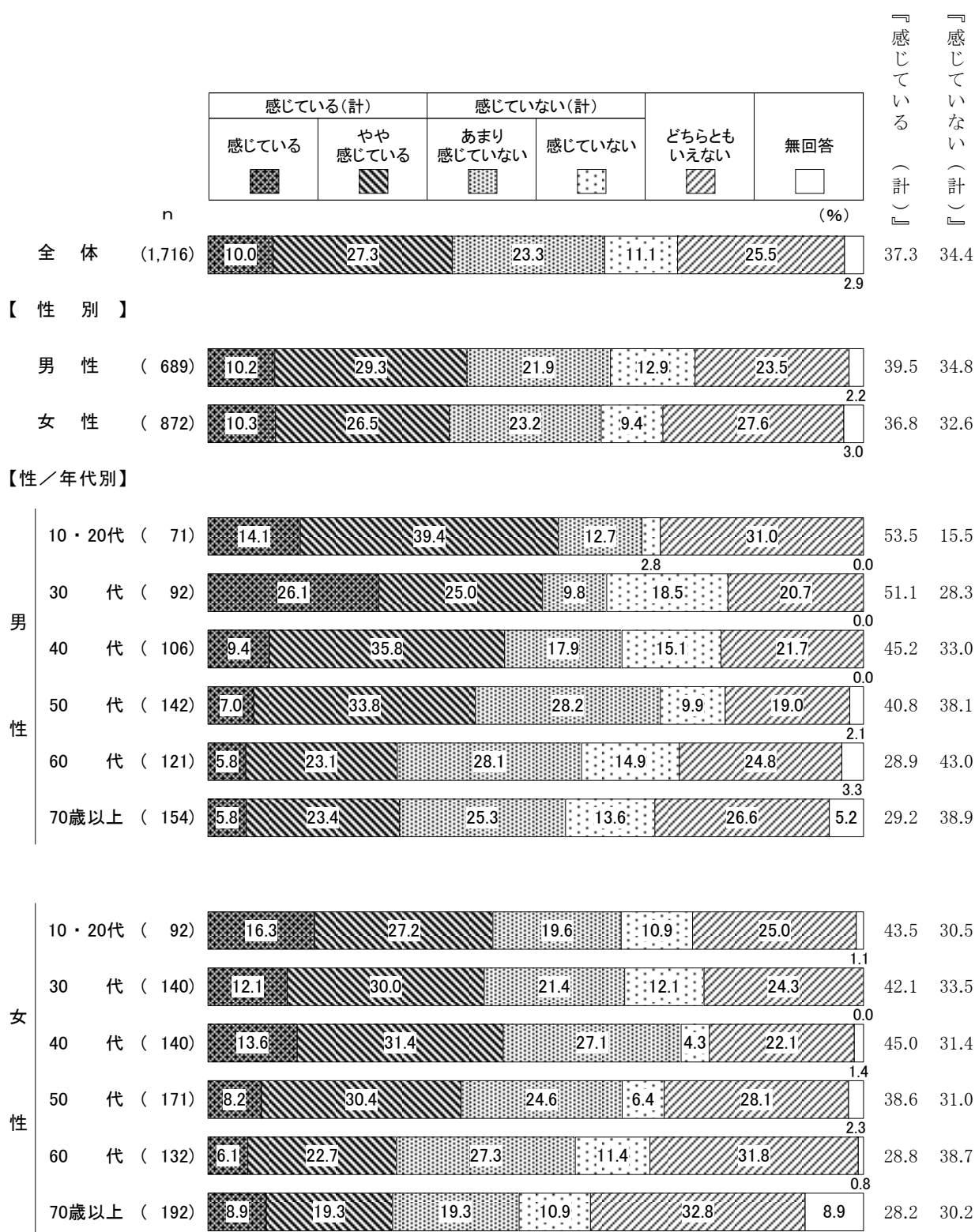
問26 行政手続のオンライン化により、大田区の行政手続は以前に比べて便利になったと感じていますか。(○は1つだけ)

図7-6-1



オンライン化により行政手続は便利になったと感じているか聞いたところ、「感じている」(10.0%)と「やや感じている」(27.3%)を合わせた『感じている(計)』(37.3%)は4割近くとなっている。一方、「あまり感じていない」(23.3%)と「感じていない」(11.1%)を合わせた『感じていない(計)』(34.4%)は3割半ばとなっている。(図7-6-1)

図 7-6-2 オンライン化により行政手続は便利になったと感じているかー性／年代別



性別でみると、「どちらともいえない」は女性（27.6%）が男性（23.5%）より4.1ポイント高くなっている。

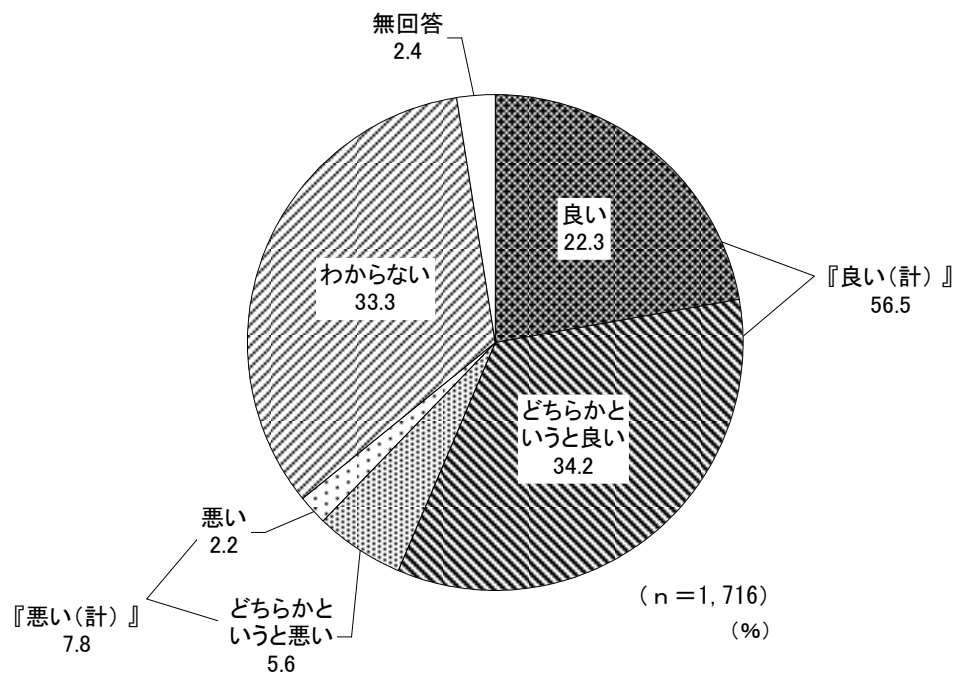
性／年代別でみると、『感じている（計）』は男性10・20代（53.5%）と男性30代（51.1%）で5割を超えて高くなっている。一方、『感じていない（計）』は男性60代（43.0%）で4割を超えて高くなっている。（図 7-6-2）

(7) 区の職員の窓口や電話対応への印象

◇「良い」と「どちらかというが良い」を合わせた『良い(計)』は6割近く

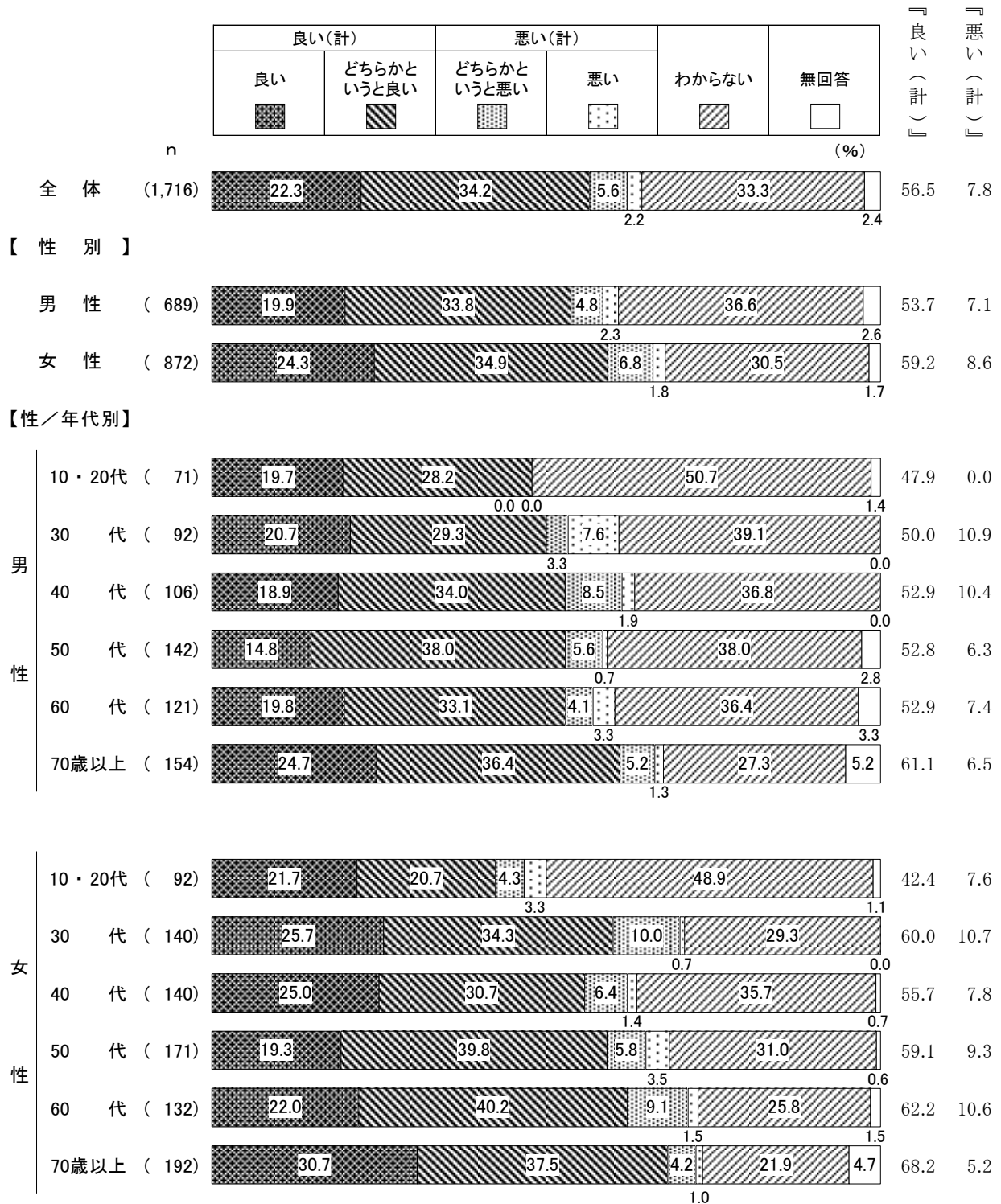
問27 あなたは、大田区の職員の窓口や電話での対応についてどのように感じていますか。
(○は1つだけ)

図 7-7-1



区の職員の窓口や電話での対応について聞いたところ、「どちらかというが良い」(34.2%)が3割半ばで最も高く、これに「良い」(22.3%)を合わせた『良い(計)』(56.5%)は6割近くとなっている。一方、「どちらかというが悪い」(5.6%)と「悪い」(2.2%)を合わせた『悪い(計)』(7.8%)は1割未満となっている。(図 7-7-1)

図7-7-2 区の職員の窓口や電話対応への印象－性／年代別



性別でみると、『良い（計）』は女性（59.2％）が男性（53.7％）より5.5ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『良い（計）』は女性70歳以上（68.2％）で7割近くと高くなっている。

（図7-7-2）

(8) 区政への参加意向

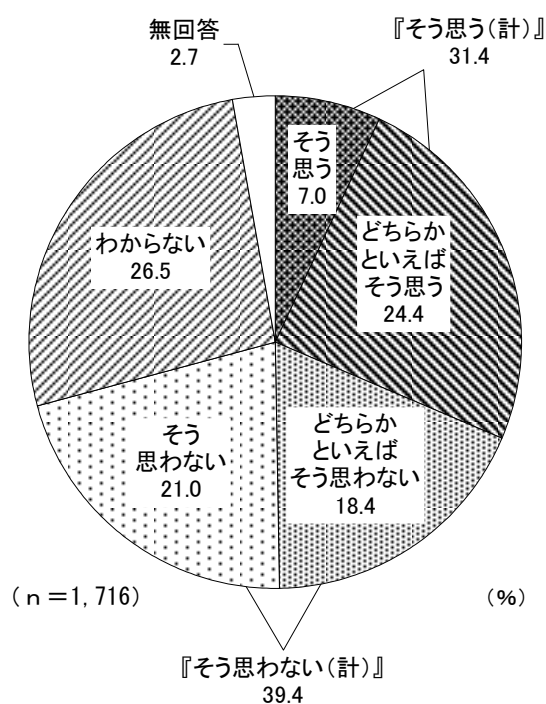
◇「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』は3割を超える

問28 あなたは、何らかの機会や手段を通じて大田区政に参加したいと思いますか。

(○は1つだけ)

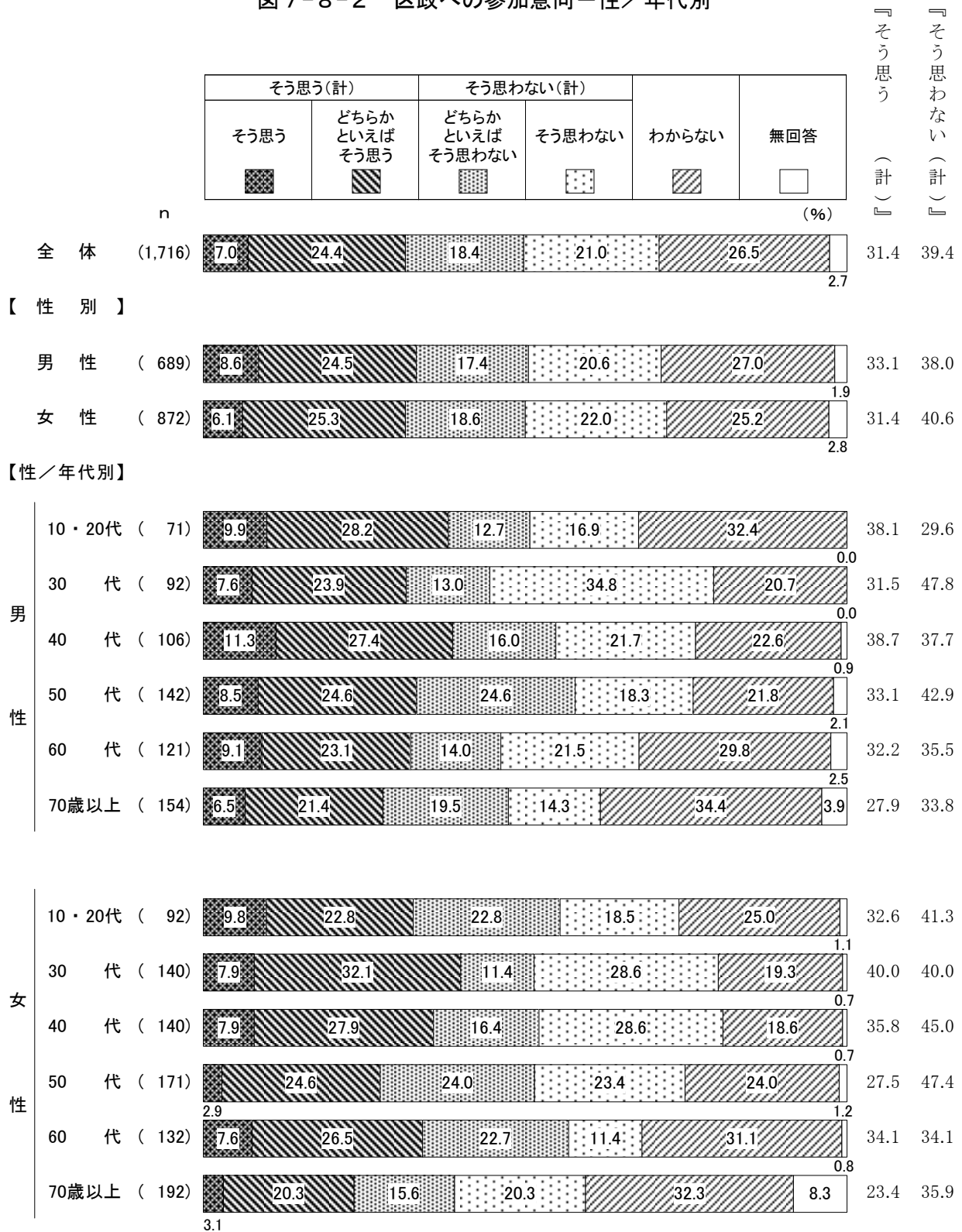
※ここでいう「区政への参加」とは、大田区が実施する区民向けのワークショップや委員会、審議会などの公募委員、区民意見公募手続き（パブリックコメント）への参加のほか、窓口・電話・メールなどを通じた区への意見・要望、住民説明会・意見交換会・シンポジウム・フォーラムへの参加、アンケートへの回答など、区が関係する幅広い機会・手段を指すものとします。

図 7-8-1



何らかの機会や手段を通じて大田区政に参加したいと思うか聞いたところ、「そう思う」(7.0%)と「どちらかといえばそう思う」(24.4%)を合わせた『そう思う(計)』(31.4%)は3割を超えている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(18.4%)と「そう思わない」(21.0%)を合わせた『そう思わない(計)』(39.4%)は約4割となっている。(図 7-8-1)

図 7-8-2 区政への参加意向一性／年代別



性別でみると、大きな違いはみられない。

性／年代別でみると、『そう思う (計)』は女性30代 (40.0%) で4割と高くなっている。一方、『そう思わない (計)』は男性30代 (47.8%) と女性50代 (47.4%) で5割近くと高くなっている。

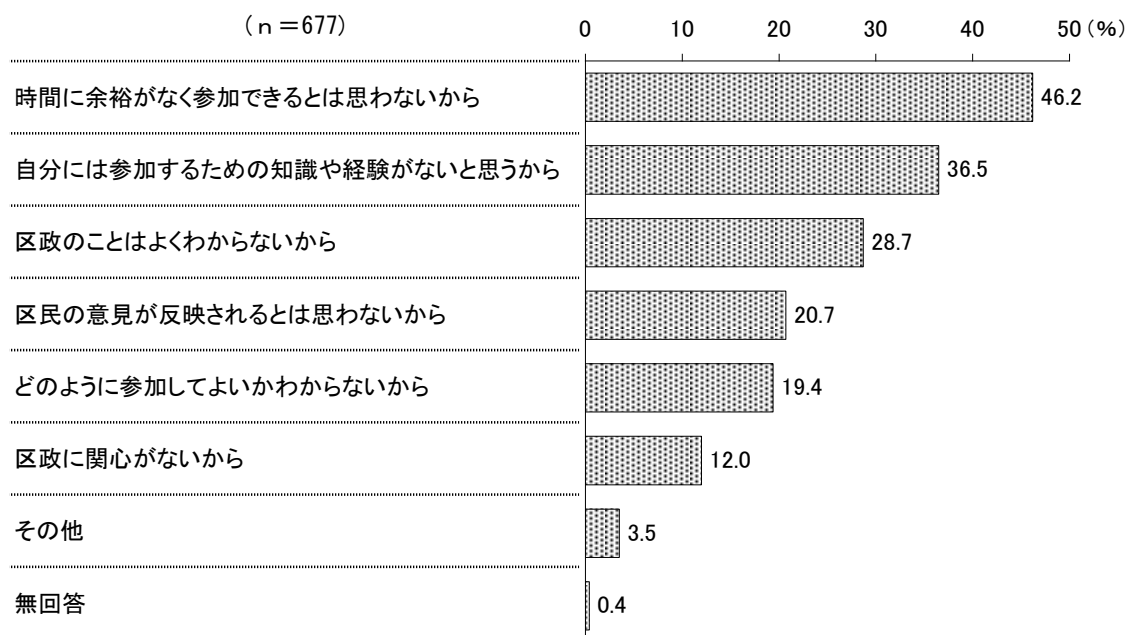
(図 7-8-2)

（９）区政に参加したいと思わない理由

◇「時間に余裕がなく参加できると思わないから」が４割半ば

（問28で、「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」と回答した方に）
問28-１ そのように思った理由は何ですか。（○はいくつでも）

図 7-9-1

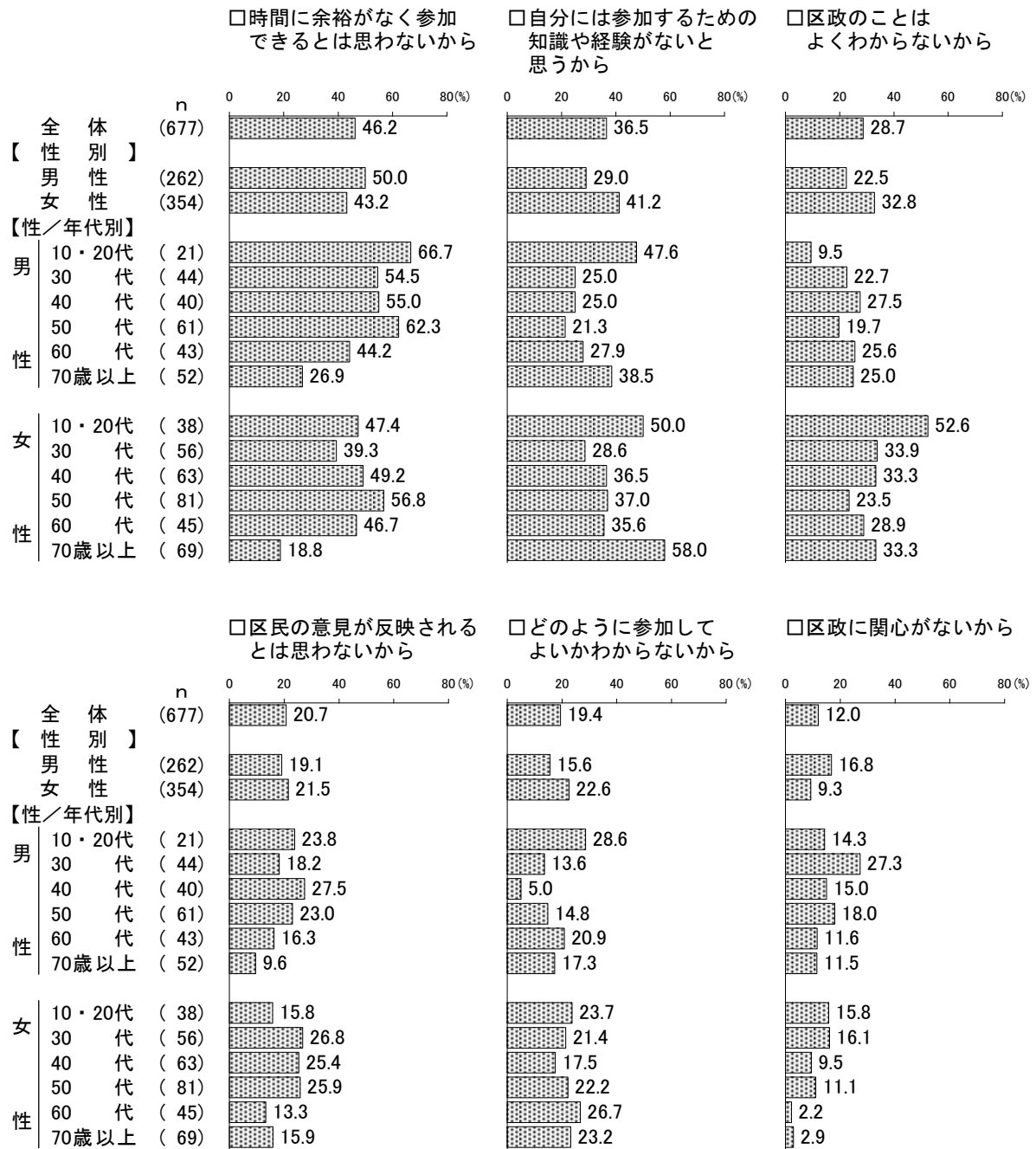


区政に参加したいと思わないと答えた人（677人）に、その理由を聞いたところ、「時間に余裕がなく参加できると思わないから」（46.2%）が４割半ばで最も高く、次いで「自分には参加するための知識や経験がないと思うから」（36.5%）、「区政のことはよくわからないから」（28.7%）、「区民の意見が反映されるとは思わないから」（20.7%）などの順になっている。

「その他」への回答として、「高齢のため」、「健康面での不安」などがあげられている。

（図 7-9-1）

図7-9-2 区政に参加したいと思わない理由－性／年代別



性別でみると、「自分には参加するための知識や経験がないと思うから」は女性（41.2%）が男性（29.0%）より12.2ポイント、「区政のことはよくわからないから」は女性（32.8%）が男性（22.5%）より10.3ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「時間に余裕がなく参加できるとは思わないから」は男性（50.0%）が女性（43.2%）より6.8ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「時間に余裕がなく参加できるとは思わないから」は男性50代（62.3%）で6割を超えて高くなっている。「自分には参加するための知識や経験がないと思うから」は女性70歳以上（58.0%）で6割近くと高くなっている。「区政のことはよくわからないから」は女性10・20代（52.6%）で5割を超えて高くなっている。（図7-9-2）